# 浜松市における南米系外国人の
# 生活・就労実態調査　報告書

2007 年 3 月

浜松市企画部国際課

# はじめに

2007年1月31日現在、本市の外国人登録者数は、32,000人を超え総人口の約3.9%を占めています。なかでもブラジル国籍者は、19,000人を超え、全国の市町村で最多となっています。本市の外国人登録者数は、1990年の出入国管理及び難民認定法の改正に伴い、南米系外国人を中心に急増しました。また、滞在期間の長期化や家族滞在の増加など、定住化も進展しています。

本市は、こうした外国籍の住民も同じ浜松市民であるという認識のもと、共生社会の構築に向け様々な施策を推進してきました。そして、外国人市民の実態を把握し、効果的な施策を展開するため、外国人市民の中で多くの割合を占める南米系外国人を対象に３年から４年に一度、生活や就労の実態調査を実施してきました。これらの調査により、滞在期間や就労業種、雇用形態、保険の加入状況など生活・就労に関する実態や推移が明らかになってきました。

今回実施した実態調査は、これまでの調査と比較し、サンプル数が多い点（これまでの２～５倍）や、外国人登録の無作為抽出・企業経由・外国人学校経由・公立学校など多様なルートでサンプルを収集した点、就労や教育などの項目をより詳細にするとともに社会的なネットワークなど新たな項目を盛り込んだ点に特徴があります。

今後、本市の国際化の指針である「新・浜松市世界都市化ビジョン」の策定や地域共生に向けた諸施策の充実の基礎資料として活用し、誰もが住みやすい共生社会の実現を目指していきます。

この調査を実施するにあたり、ご協力いただいた関係各位、さらにご回答をいただいた外国人市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

2007年３月

# 調査の概要

## １．調査の目的

「浜松市における南米系外国人の生活・就労実態調査」は、浜松市が南米系外国人市民の生活や就労の実態を把握し、地域共生に関する施策の参考とするために実施された。浜松市はこれまで1992年、1996年、1999年、2003年の4回、南米系外国人を対象とした同様の外国人調査を実施している（2000年には非南米系外国人を対象とした小規模調査も実施している）。今回の調査はそれらの継続調査であると同時に、浜松市における国際化の指針である「浜松市世界都市化ビジョン」の改定に役立てるための基礎資料となることが期待されている。

## ２．調査対象

浜松市に居住する16歳以上の南米系外国人（ブラジル人、ペルー人等）。

## ３．調査方法

### ３－１　調査方法のあらまし

今回の調査では大別すると郵送法と配布法によって調査を実施した。2006年9月から10月にかけて、ポルトガル語およびスペイン語で作成した調査票を以下の方法で配布回収した。

（１）　外国人登録データから無作為抽出し調査票を送付し返送してもらう。
（２）　外国人雇用企業を通じ、外国人従業員に調査票を配布回収してもらう。
（３）　外国人学校を通じ、外国人児童生徒の保護者に調査票を配布回収してもらう。
（４）　公立小学校を通じ、外国人児童の保護者に調査票を配布回収してもらう。

### ３－２　調査票の回収結果

最後の調査票が回収された2006年11月2日時点で、配布回収数および回収率は以下の通りであった。

| | 配布依頼部数 | 実際の配布部数 | 回収部数 | 回収率 |
|---|---|---|---|---|
| （１）外国人登録分 | 900 | 880 | 252 | 28.6% |
| （２）企業経由分 | 1140 | 915 | 542 | 59.2% |
| （３）外国人学校経由分 | 622 | 576 | 321 | 55.7% |
| （４）公立学校経由分 | 211 | 211 | 138 | 65.4% |
| 合計 | 2873 | 2582 | 1253 | 48.5% |

回収数は1253部だったが、そのうちの1部が無効だったため有効回収総数は1252部である。

### ３－３　サンプリングの概要

#### （１）外国人登録分

外国人登録のデータに基づく無作為抽出を行うため、南米の主な国の出身者について、浜松市における2006年3月31日現在の登録者数を確認した。16歳以上の人数をブラジルとペルー他スペイン語圏の国々（ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン、コロンビアの5カ国）で比較すると、ブラジル：ペルー他＝14857：1852＝8：1のように算出できた。

そこで、上記6カ国の南米系の外国人を、2006年8月31日現在の外国人登録データより900人分無作為抽出した。その際、ブラジル国籍者を800人、ペルー国籍者などスペイン語圏の出身者を100人とした。900人分の登録住所にメール便でポルトガル語ないしスペイン語の調査票を送付したところ、20人分が住所不明等で未達返送されてきたため、880人分を実配布数と

した。880 部のうち回収できたのは 252 部、回収率は 28.6%だった。252 部の内訳は、ポルトガル語版の調査票が 219 部（86.9%）、スペイン語版の調査票が 32 部（12.7%）であった。

**（２）企業経由分**

浜松中央警察署および浜松中央警察署外国人雇用企業等連絡協議会の協力を得て、同協議会に加盟している外国人雇用企業に調査への協力を呼びかけたところ、７社から調査票の配布回収に関する理解を得ることができた。各企業を訪問して、調査票を配布依頼した。実際に配布された 915 部のうち回収できたのは 542 部、回収率は 59.2%であった。542 部の内訳は、ポルトガル語版の調査票が 489 部（90.2%）、スペイン語版の調査票が 53 部（9.8%）であった。

**（３）外国人学校経由分**

浜松市内にある外国人学校 7 校のうち、6 校から調査への協力を得ることができた。実際に配布された 576 部のうち回収できたのは 321 部、回収率は 55.7%であった。321 部の内訳は、ポルトガル語版の調査票が 308 部（96.0%）、スペイン語版の調査票が 13 部（4.0%）だった。

**（４）公立学校経由分**

浜松市立の小学校のうち、2006 年 4 月 30 日現在で外国人児童数が 50 人以上の 4 校を選び、浜松市教育委員会の了承のもと、各学校を訪問して児童経由での保護者への調査票配布を依頼した。実際に配布され 211 部のうち回収数は 138 部、回収率は 65.4%であった。

### ３－４　留意点

次ページの表はこれまで浜松市が実施した南米系外国人を対象とする調査の一覧表である。今回の調査における第一の特色は、1999 年調査に引き続き外国人登録からの無作為抽出を実施し、1999 年調査の 2 倍近い部数を回収した点である。第二の特色は、配布法では企業経由の回収部数が多いため、場合によっては特定企業における状況が色濃く表れている可能性も否定できない点である。本報告書には 1996 年調査、1999 年調査、2003 年調査の結果と比較したコメントも記載されているが、サンプリング方法が異なっている点を念頭に置く必要がある。

## ４　調査項目

浜松市が実施したこれまでの調査と比較できるよう、可能な部分については質問項目の調整を図った。しかし、従来の調査より精度の高い調査となるよう、これまでにない項目を設定した部分もあるし、同様の設問でも選択肢を変化させた場合も少なくない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①基本属性 | (20 項目) | ⑦地域生活 | ( 4 項目) |
| ②雇用・労働 | (13 項目) | ⑧アイデンティティ | ( 4 項目) |
| ③居住 | ( 3 項目) | ⑨日本語学習 | ( 8 項目) |
| ④医療・保険 | ( 7 項目) | ⑩行政サービス | ( 1 項目) |
| ⑤ストレス | ( 3 項目) | ⑪教育 | ( 7 項目) |
| ⑥社会的ネットワーク | ( 7 項目) | ⑫母国との関係 | ( 3 項目) |

## ４．調査の受託者および研究チームの構成（【　】内は報告書の執筆分担）

調査受託者

静岡文化芸術大学　（研究担当者：池上重弘　文化政策学部 助教授）【⑨、⑩】

研究協力者

イシカワ エウニセ アケミ（静岡文化芸術大学 文化政策学部 助教授）【⑧】

竹ノ下弘久（静岡大学 人文学部 助教授）【①、②、⑤、⑥、⑦】

千年よしみ（国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部 第一室長）【③、④、⑪、⑫】

## 浜松市がこれまでに実施した南米系外国人市民を対象としたアンケート調査の比較

| | 【1】 | 【2】 | 【3】 | 【4】 | 【5】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本報告書での略称 | 1992年調査 | 1996年調査 | 1999年調査 | 2003年調査 | 2006年調査 |
| 調査の正式名称 | 浜松市における外国人の生活実態、意識調査 ―南米日系人を中心に― | 日系人の生活実態・意識調査96 | 外国人の生活実態意識調査 南米日系人を中心に | 浜松市におけるブラジル人市民の生活・就労実態調査 | 浜松市における南米系外国人の生活・就労実態調査 |
| 調査実施年 | 1992年 | 1996年6月1日、2日 | 1999年7月～10月 | 2002年11月～2003年1月 | 2006年9月～2006年10月 |
| 報告書作成年 | 1993年 | 1997年 | 2000年 | 2003年 | 2007年 |
| 報告書発行者 | 浜松市国際交流室 | 浜松市国際交流室 | 浜松市国際室 | 浜松市国際課 | 浜松市国際課 |
| 調査実施者 | 東洋大学社会学部（喜多川豊宇教授） | 東洋大学社会学部（喜多川豊宇教授）とNHK | 1996年調査を参考に、国際室が項目設定・翻訳 | 1996年調査を参考に、HICEが項目設定・翻訳 | 従来の調査を参考にしながらも、研究チームが独自に項目設定・翻訳 |
| サンプル数 | 合計429部 | 合計210部 | 合計515部 | 合計253部 | 合計1252部 |
| ［留置法］ | | | | | |
| サンプル数（配布） | ？ | | | | |
| サンプル数（回収） | 201部（？%） | | | | |
| サンプリング方法 | レストラン、店舗等市内6カ所 | | | | |
| ［面接法］ | | | | | |
| サンプル数（配布） | ？ | ？ | 84部 | | |
| サンプル数（回収） | 228部（？%） | 210部（？%） | 84部（100%） | | |
| サンプリング方法 | 街頭、店舗等市内5カ所 | 街頭、店舗等市内4カ所 | サンプリング方法の記載なし | | |
| ［郵送法］ | | | | | |
| サンプル数（配布） | | | 1000部（未達86部） | | 900部（未達20部） |
| サンプル数（回収） | | | 123部（13.5%） | | 252部（28.6%） |
| サンプリング方法 | | | 外国人登録から無作為抽出 | | 外国人登録から無作為抽出 |
| ［配布法］ | | | | | |
| サンプル数（配布） | | | 453部 | 550部 | 1702部 |
| サンプル数（回収） | | | 308部（68.0%） | 253部（46.0%） | 1001部（58.8%） |
| サンプリング方法 | | | 小中学校の保護者が対象 | 17歳以上対象、派遣会社経由 | 企業経由、外国人学校、公立学校 |

# 目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ i

調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ii

調査結果および分析

【①基本属性】・・・・・・・・・・・・ 1
1　性別
2　年齢
3　国籍
4　出身地域（州、市）
5　日系の何世か
6　在留資格
7　永住資格について
8　現在、外国人登録をしている場所
9　世帯の人数
9-1　世帯構成
9-2　婚姻上の地位
9-3　配偶者との同別居
9-4　配偶者の民族・エスニシティ
9-5　同居・別居と子ども数
10　初来日年
11　日本での通算滞在年数
12　浜松での通算滞在年数
13　来日回数
14　日本での学歴
15　出身国での学歴

【②雇用・労働】・・・・・・・・・・・11
16　来日以前の仕事の決定
17　仕事を見つけた手段
18　本人と配偶者の従業上の地位
19　本人と配偶者の産業
20　本人と配偶者の職種
21　本人と配偶者の従業先の規模
22　労働時間
23　現在の職場での勤続期間
24　平均的な月収
25　（事情により集計から除外）
26　母国での主な仕事の従業上の地位
27　母国での主な仕事の職種
28　母国での従業先の規模

【③居住】・・・・・・・・・・・・・・20
29　現在の住まい
30　保証人の必要性
31　保証人は誰か

【④医療・保険】・・・・・・・・・・・23
32　健康保険への加入状況
33　健康保険未加入の理由
34　年金への加入状況
35　年金未加入の理由
36　病気やけがの時の処置
37　定期健康診断
38　病院での言葉の問題に対する対応

【⑤ストレス】・・・・・・・・・・・・28
39　ここ１ヶ月の日常生活のストレス
40　ストレスの内容
41　心理的抑うつ度

【⑥社会的ネットワーク】・・・・・・31
42-1　相談相手の性別
42-2　相談相手が同性か異性か
42-3　相談相手の年齢
42-4　相談相手のエスニシティ
42-5　相談相手の知り合った場所
42-6　相談相手と知り合った文脈
43　相談相手３人それぞれの関係

【⑦地域生活】・・・・・・・・・・・・35
44　地域の団体・活動への参加状況
45　利用するメディア・情報源
46　生活領域ごとの満足度
47　地震など緊急時の防災対策

【⑧アイデンティティ】・・・・・・・・38
48　ブラジル雑貨店の利用頻度
49　子どもの結婚相手についての希望
50　自分の結婚相手についての希望
51　差別や偏見

【⑨日本語学習】・・・・・・・・・・・41
52　来日以前の日本語会話能力
53　現在の日本語能力
54　日本語の学習経験
55　現在の日本語学習
56　日本語学習の理由
57　日本語学習の希望
58　日本語学習場所の希望
59　日本語学習日時の希望

【⑩行政サービス】・・・・・・・・・・46
60　行政サービスの認知と利用

【⑪教育】・・・・・・・・・・・・・・47
61-1　子ども：性別
61-2　子ども：年齢
61-3　子ども：同別居の有無
61-4　子ども：生まれた場所
61-5　子ども：初入国年齢
62　子ども：就学状況
63　子ども：就学先

【⑫母国との関係】・・・・・・・・・・52
64　母国への送金
65　1ヶ月の平均送金額
66　今後の日本での滞在予定

結び・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

単純集計結果一覧・・・・・・・・・・・58

## 調査結果および分析

### 【①基本属性】

過去3回の浜松市における外国人を対象とした調査（1996年、1999年、2003年）と、2006年に行った今回の調査では、調査対象者の抽出方法、調査項目が異なっているため、単純な比較は難しい。とりわけ、属性に関わる項目は、抽出方法の相違が結果に大きな違いをもたらすことが予想される。そのため、調査結果の時系列的変化を解釈する際には、注意を要する。

性別では、男性の方がやや多く、年齢では30歳代が4割近くを占め、40歳代と20歳代が2割程度となっている。過去の結果と比較すると、性別構成が大きく変化した形跡は認められない。年齢では、96年が20歳代だけで半分以上をしめていたが、1999年以降は、30歳代が対象者の中心を占めている。こうした年齢構成の相違は、調査間での対象者の抽出方法の相違に起因するものと思われる。国籍では、ブラジルが86%と9割近くを占め、ペルーが10%であった。対象者のうち、日本国籍を持つ者は、1%であった。出身地域では、サンパウロ出身者が最も多く、6割近くをしめる。在留資格についての設問では、日本人の配偶者等、定住者、永住者のそれぞれはいずれもほぼ3割を占める。永住資格取得については、資格を持っている者が3割近くだが、持っていなくても5割近くが永住資格取得を考えており、考えていない者は13%にすぎない。

世帯構成については、配偶者と同居する者が66%、子どもと同居する者が61%であり、1999年、2003年の調査と比較して、それほど大きな相違はない。婚姻上の地位では、有配偶が最も多く、72%を占める。配偶者との同別居については、同居が89%と最も多いが、現在配偶者は母国に居住し、別居中である者が8%、配偶者は日本国内の別のところに居住し、別居状態である者が2%であった。配偶者の民族・エスニシティ[1]については、日系の同国人という回答が半数を超える。非日系の同国人を配偶者とする者も多く、38%であった。同居・別居子ども数についてたずねたところ、同居している子どもの数が基本的に多いものの、子どもは母国に現在居住し、別居している回答者も一定数いる。子どもが母国に居住する回答者の場合、1人が8%、2人が4%、3人以上が2%であった。

通算滞日期間については1年未満の短い者もいれば、15年以上の長い者も存在し、対象者によって大きく分岐している。通算来日回数については、1999年、2003年調査の結果と比較すると、明らかに増加傾向にある。通算来日回数が1回の比率は、52%、45%、41%と低下し、3回以上の比率は、11%、15%、24%と増加している。日本とブラジルとの頻繁なトランスナショナル[2]な移動形態が、一部の層に広まりつつあると思われる。

学歴については、浜松市で行われた過去の調査では質問されていないが、次の点が明らかになっている。日本での学歴については、本人と配偶者ともに学歴なしが大半を占める。無回答についても「学歴なし」と考えると、回答者のほぼ8割が、日本での学校教育の経験がない。出身国での学歴についてみると、普通科高校卒業程度が最も多く、本人と配偶者ともに3割程度が普通科高校卒であった。ついで、中卒と職業科高校卒と続く。大卒以上の学歴を持つ者は、本人で14%、配偶者で10%程度にとどまる。

以上見てきたように、過去3回の調査との比較に際しては、抽出方法が異なることもあり、一貫した変化の傾向を示す項目はそれほど多くはなかった。しかし、リピーター型移動の浸透に見られるように、一部では、トランスナショナルな移動形態が、日系人の間で普及しつつある状況を垣間見ることができた。

---

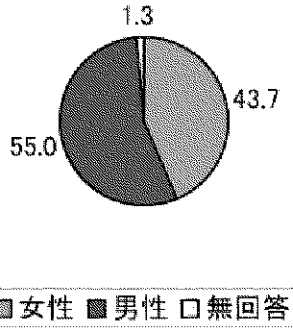
[1] 民族的な帰属意識を共有する集団

[2] 国境や国家の枠を越えた現象

1　あなたの性別は

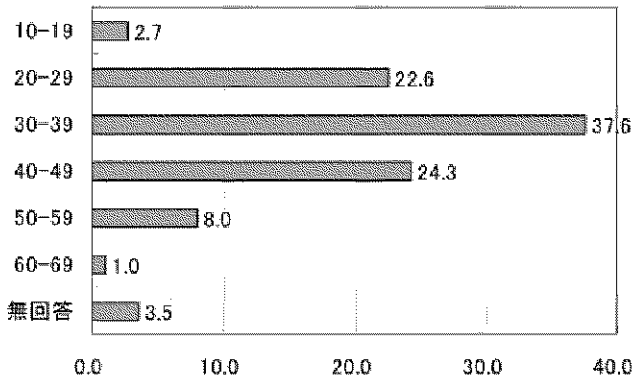
調査対象者の性別構成は、図１の通りである。男性が 55%と半数を超えるが、女性は 43%と半数以下にとどまる。無回答は 1.3%であった[3]。

図１　性別




2　あなたの年齢は

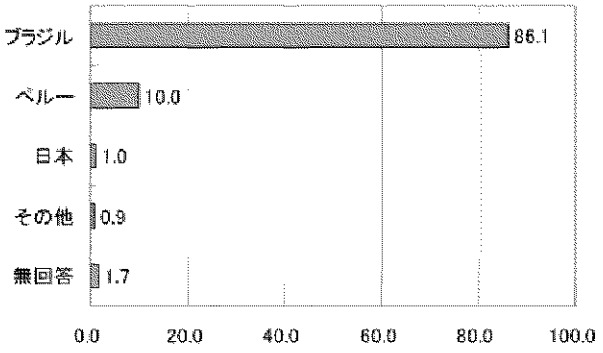
図２　年齢




回答者の年齢構成については、図２の通りである。本調査は、16 歳以上の南米出身の日系人を対象に実施されたものであるが、一部に 16 歳以下の日系人も回答者のなかに含まれていた。全体的な傾向としては、30 代の回答者が最も多く、37%を占める。ついで、40 代の 24%、20 代の 22%と続く。50 代や 60 代の高齢者は少なく、それぞれ 8%、1%にすぎない。

3　あなたの国籍を教えてください。二重国籍の場合は、２つに○をつけてください。

図３　国籍

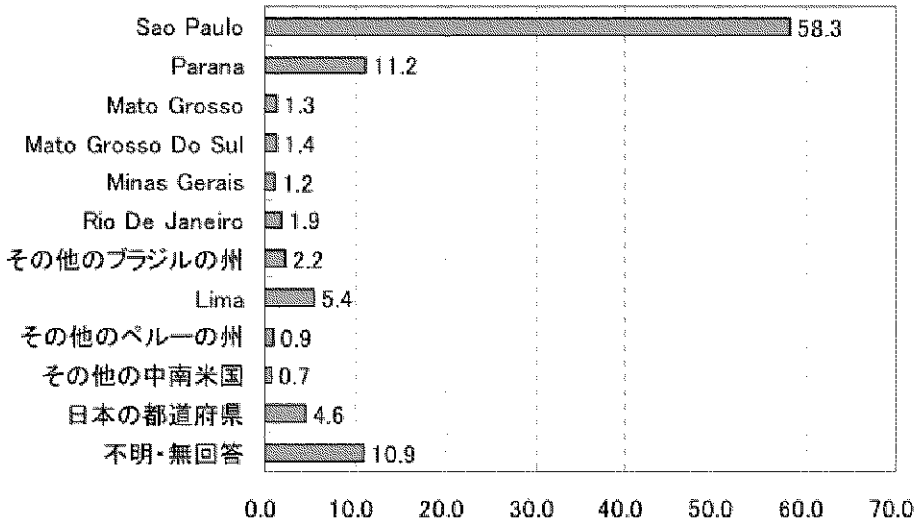



国籍については、ブラジルが回答者の大半を占め、86%である。ペルーについては、回答者の１割を占めるにとどまる。日本国籍を保持する者は、非常に少なく、わずかに１%である。

[3] なお、以下に示すパーセントは、特に断り書きがない場合、その分母として、有効回収総数である 1252 を用いて計算している。

4　あなたは、はじめて日本に来る直前、どこに住んでいましたか。カッコ内に具体的な名称をお書きください。

図４　出身地域

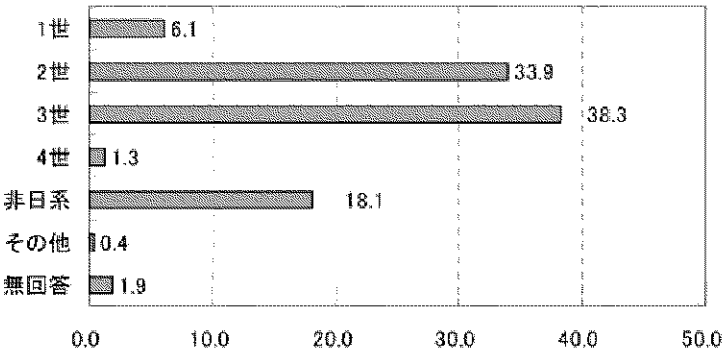



次に、出身地域についてみてみる。ブラジルでは、最も多いのはサンパウロ州であり、6 割近い回答者が同州の出身である。ついで、1 割程度の人たちがパラナ州出身であると回答している。その他のブラジルの州からは、およそ 1-2%程度にとどまっている。そのため、浜松市に居住するブラジル人の多くは、サンパウロ州出身者ということになる。

他方で、ペルーについては、リマ出身と回答する者が最も多く、全体の５％であった。ペルーでは、その他の州の出身者は、0.9%と非常に少ない。ブラジルとペルー以外の国についても、数は非常に少ないが、何名かの回答者がみられる。本設問では、日本に来る前の出身地をたずねているが、４％の回答者は、日本の都道府県を回答していた。

5　あなたは日系何世ですか（○は１つだけ）。

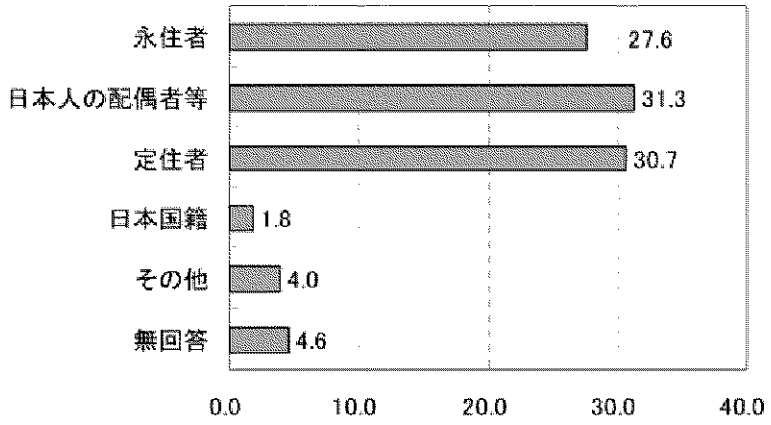
図５　日系の何世か




調査では、対象者が日系の何世かについてたずねた。最も多いのが 3 世であり、38%である。ついで 2 世の 33%である。他方で、４世や１世と答える人は非常に少なく、それぞれ 6%と 1%であった。また、今回の調査では南米出身者を対象にしているが、非日系の人も回答者に含まれており、2 割近くが非日系と答えている。このカテゴリーの人たちは、その多くが、配偶者が日系人であると思われる。

6　あなたの在留資格についておうかがいします（○は１つだけ）。

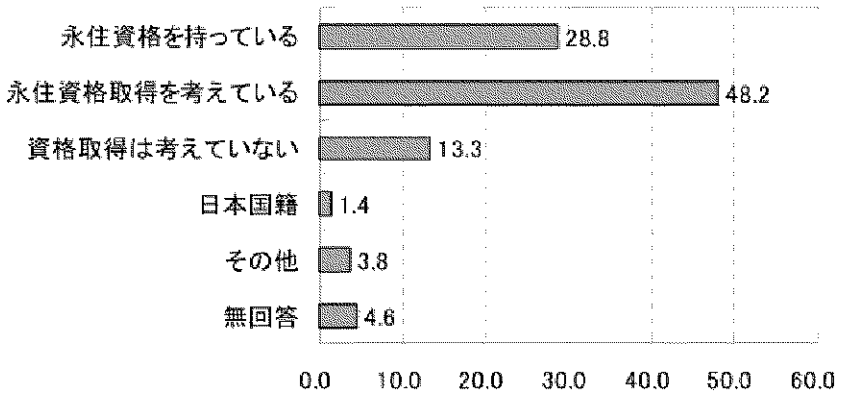
図６　在留資格




在留資格についてたずねてみたところ、次の結果になった。「日本人の配偶者等」が最も多く、31%、「定住者」もほぼ同程度であり、30%となった。「永住者」と回答する者も多く、27%である。このように、本調査の回答者については、「日本人の配偶者等」、「定住者」、「永住者」の３つのカテゴリーでほぼ９割近くを占めている。今回の調査は一部で外国人登録者を対象に行われているため、日本国籍保持者は少なく、1%にとどまる。

7　あなたの永住資格についておうかがいします（○は１つだけ）。

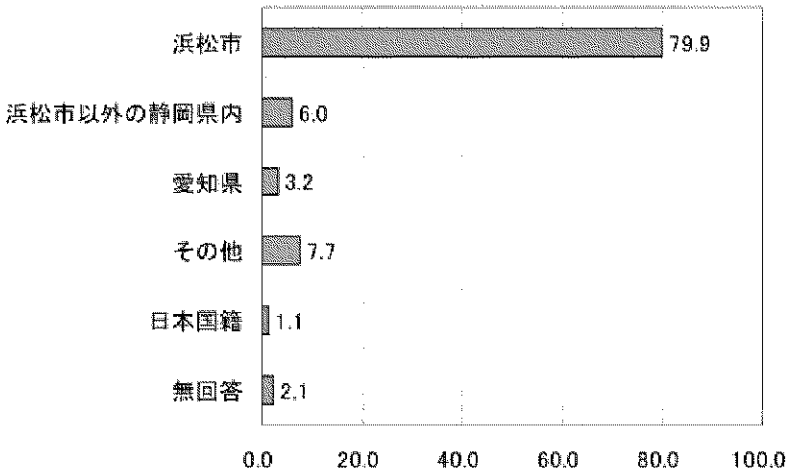
図７　永住資格取得について




在留資格とあわせて、次の設問では、永住資格取得の意思についてたずねた。とりわけ、現在永住資格をもたない人の回答傾向に注目すると、永住資格取得を考えている人は、48%にのぼっており、永住資格取得を考えていない人は、13%にすぎない。このように、現在、永住資格をもたない南米出身者の多くが、永住資格取得に関心があることがうかがえる。

8　あなたが現在、外国人登録をしているところはどこですか（○は１つだけ）。

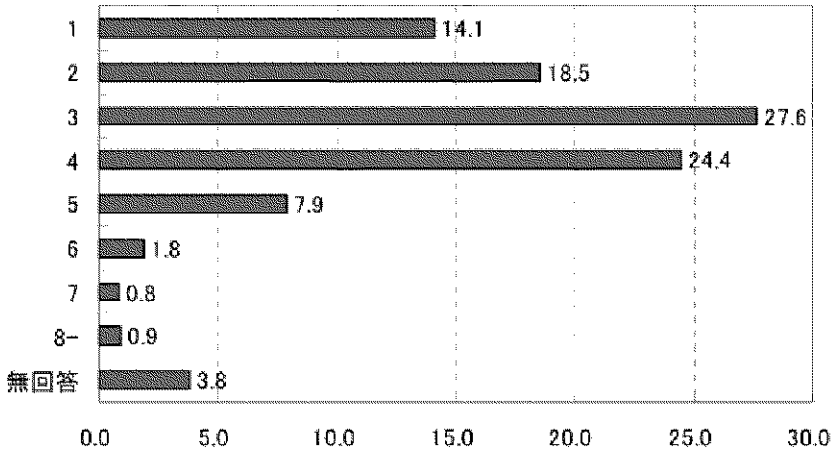
図８　現在、外国人登録をしている場所




つぎに、現在外国人登録をしている場所についてたずねた。回答者の８割が浜松市と回答している。しかし、残りの回答者については、浜松市以外で外国人登録をしていると回答する。本調査では、現在浜松市に居住する人たちを対象に調査を実施している。そのため、浜松市以外で外国人登録をしている人たちは、現在の居住地と外国人登録上の居住地とが乖離していることを示す。浜松市以外の静岡県内という回答は 6%であり、愛知県は 3.2%であった。それ以外の都道府県に登録している回答者は、全体の 7%であった。

9　あなたを含めて、現在、あなたの世帯に住んでいる人は全部で何人ですか。

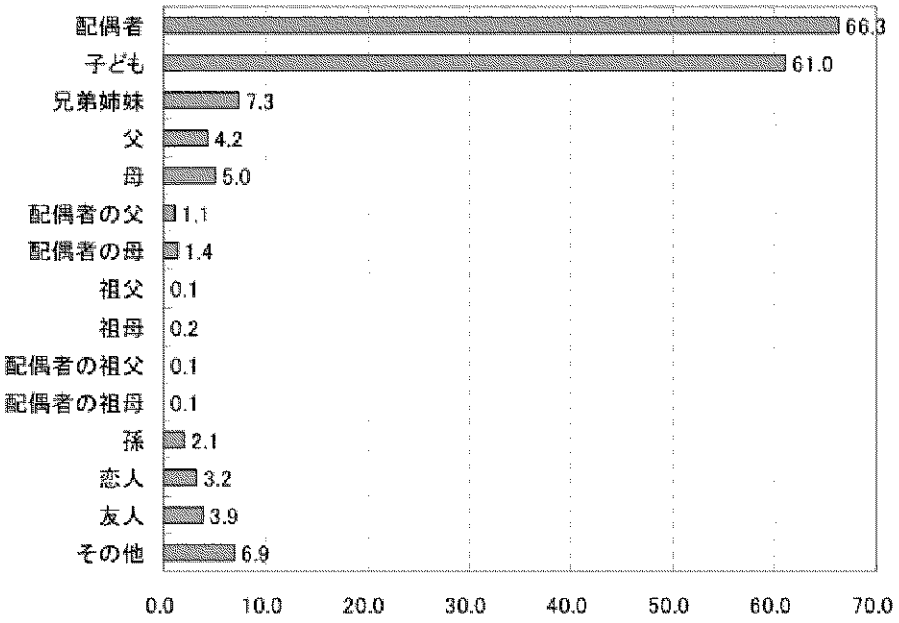
図９　世帯の人数




次に、回答者が同居する世帯構成についてたずねた。「あなたを含めて、現在、あなたの世帯に住んでいる人は全部で何人ですか」と質問したところ、最も多かったのは３人で 27%、ついで４人の 24%であった。１人や２人という世帯も多く、２人世帯は全体の 18%、単身世帯は 14%であった。６人以上の大きな世帯については、それほど多くないが、全体の 3%が、６人以上からなる世帯を構成している。

9-1　現在、あなたと一緒に住んでいる人すべてに○をつけてください（○はいくつでも）。

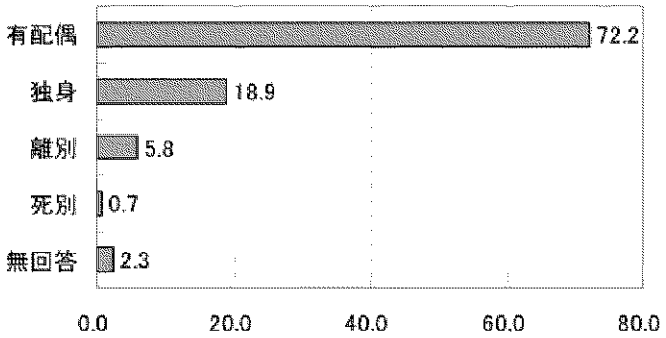
図 9-1　世帯構成




引き続き、現在、対象者と同居する人の続柄について回答を求めたところ、次の結果になった。最も選択率が高かったのは配偶者であり、66%の人が配偶者と同居していると答えている。そして、子どもとの同居率も高く、61%が子どもと同居していると答える。他方で、他の続柄との同居率については、配偶者・子どもとの同居率に比べ、著しく低い。いずれも 1 割を超えるものはなく、兄弟姉妹で 7%、父、母との同居率が 4%と 5%である。恋人や友人との同居率もそれほど高くなく、それぞれ 3%程度である。祖父母との同居率では、いずれも 1%を下回っている。

9-2　現在のあなたの配偶状況についてお聞きします。

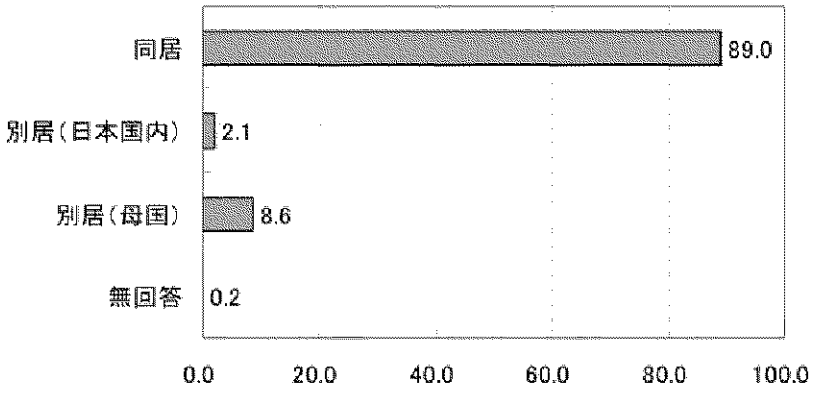
図 9-2　婚姻上の地位




回答者の婚姻上の地位についてたずねたところ、有配偶者が最も多く、7 割を超えている。独身者は、18%と 2 割を少し下回っている。離死別者については、離別者が 5%、死別者は 0.7%と 1%を下回っていた。

9-3　9-1 で、(1)配偶者あり　に○をつけた方にお聞きします。

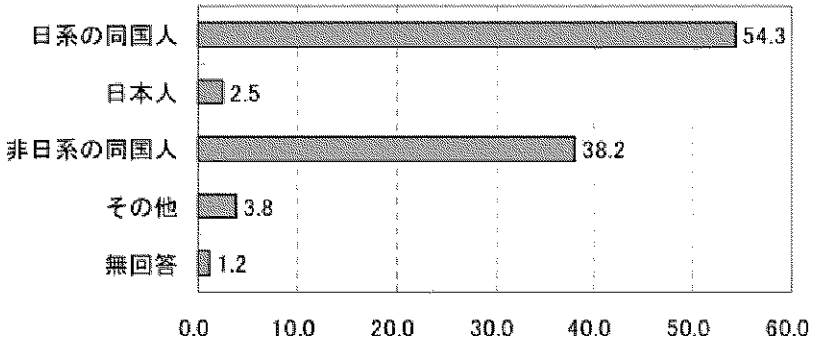
図 9-3　配偶者との同別居（N=904）




引き続き、配偶者との同別居についてたずねた。有配偶者に限定して回答を集計すると、実に 9 割近い回答者が配偶者と同居している。他方で、配偶者とは別居しているという回答も見られ、8%が母国におり、2%は日本国内の別のところに居住していると答えている。

9-4　あなたの配偶者は、以下のどれにあてはまりますか（○は 1 つ）。

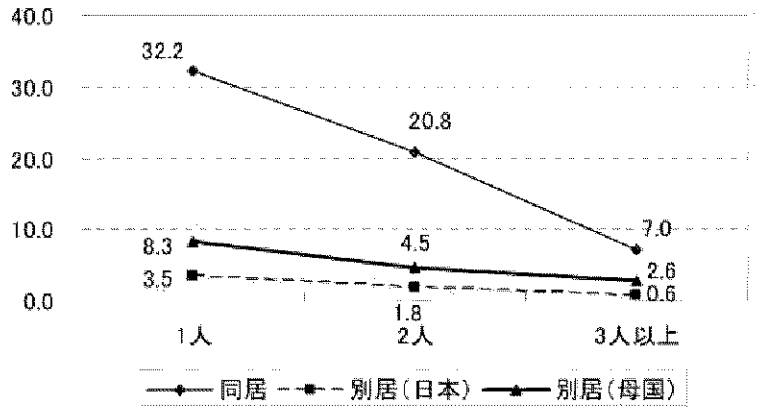
図 9-4　配偶者の民族・エスニシティ（N=904）




さらに、配偶者の民族・エスニシティについてたずねた。日系の同国人と回答する者が最も多く、全体の半数以上を占める。他方で、非日系の同国人を配偶者に持つ者も多く、38%であった。その他の外国人や日本人との婚姻者は少なく、それぞれ 3%と 2%であった。

9-5　お子さんがいらっしゃる方にお聞きします。カッコ内に数字をご記入ください。

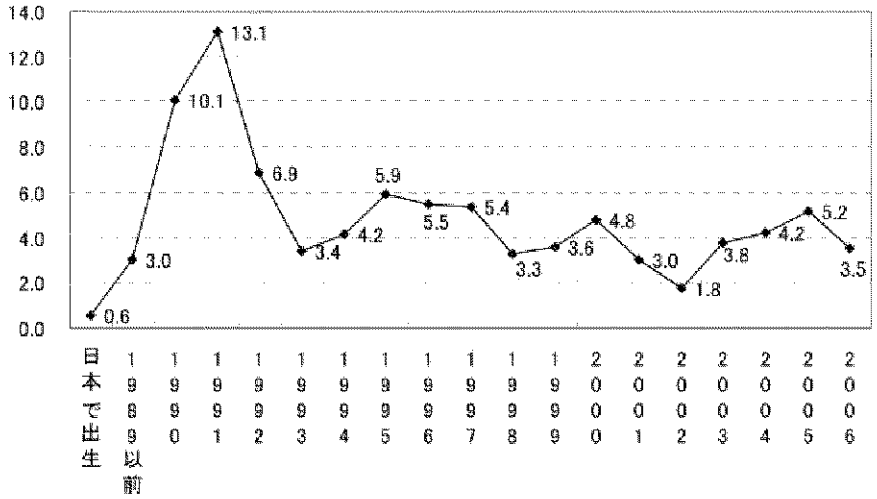
図 9-5　同居・別居と子ども数




最後に、子ども数について、同居・別居に区分してたずねた。回答者の多くは、同居している子どもを持つ者が多い。同居している子ども数が 1 人の回答者は全体の 32%であり、2 人が 20%、3 人以上が 7%であった。母国に居住する子どもを持つ者がついで多く、1 人が 8%、2 人が 4%、3 人以上が 2%であった。日本国内の別の場所に居住する子どもを持つ者は、全体から見てそれほど多くない。1 人が 3%、2 人が 1%、3 人以上は 0.6%と、1%を下回っている。

10　あなたが初めて日本に来た年は？

図 10　初来日年

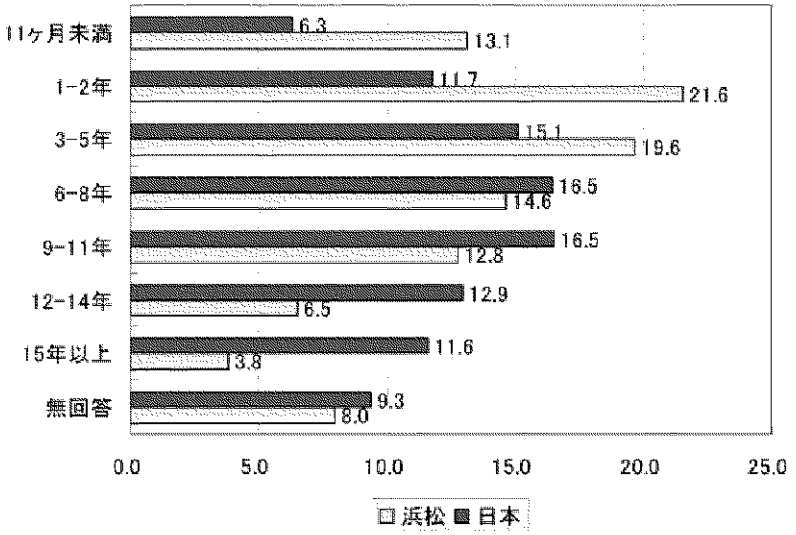



今度は、初来日年の結果についてみていく。今回の調査対象者のうち、日本で出生した人は非常に少なく、0.6%にすぎない。1989 年以前に初来日した人もそれほど多くなく、3%である。1 年おきに区切った数値では、1990 年と 91 年に日本に初めて入国した人が最も多く、全体の 2 割以上がこの 2 年間に初めて日本に来たと答えている。その後に入国した人は、この 2 年間と比べるとやや減少傾向を示す。しかし、1995 年から 97 年の 3 年間はそれ以前よりも増加傾向を示す。この 3 年間で 17%程度の人たちが初来日している。2000 年から 2002 年にかけてふたたび減少傾向を示したが、2003 年以降は再度増加傾向にある。1998 年以降は、おおむね 3 から 4%前後で初来日者が推移していることが分かる。浜松市に居住する日系南米人を対象とした調査結果から見る限り、ここ数年、新規入国者は安定的に推移していることがわかる。

11　日本での通算滞在年月は

12　浜松での通算滞在年月は

図 11/12　通算滞日年数

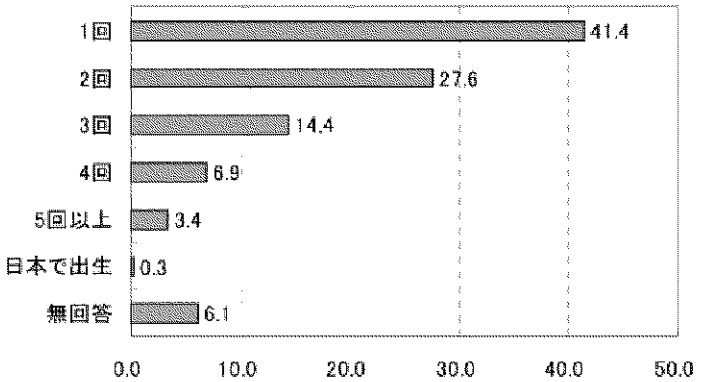



次に、日本での通算滞在年数についてたずねた。まだ 11 ヶ月未満という回答も多く、全体の 6%を占める。最も多いのが、6 から 8 年と 9 から 11 年であり、それぞれ 16%である。3 から 5 年の比較的滞日年数の短い人たちも、15%と一定数を占める。全体的に、対象者の通算滞在年数は、人によって大きく異なっているようだ。12 年以上の長期滞在者も全体の 4 分の 1 近くを占める一方、2 年以下の短期滞在者も全体の 2 割近くを占めている。

他方で、浜松での通算滞在年数についてはどうか。日本よりも浜松での滞在年数の方が、やや短い傾向が認められる。5 年以下の滞在年数については、日本よりも浜松の方がパーセントが高く、11 ヶ月未満で 13.1%、1 から 2 年で 21.6%、3 から 5 年で 19.6%となっている。とはいえ、12 年以上の長期滞在者も一定数おり、回答者の 1 割程度が浜松市に 12 年以上居住していると答えている。

13　今回で通算、何回目の来日ですか（クリスマス等、一時的な帰国をのぞく）。

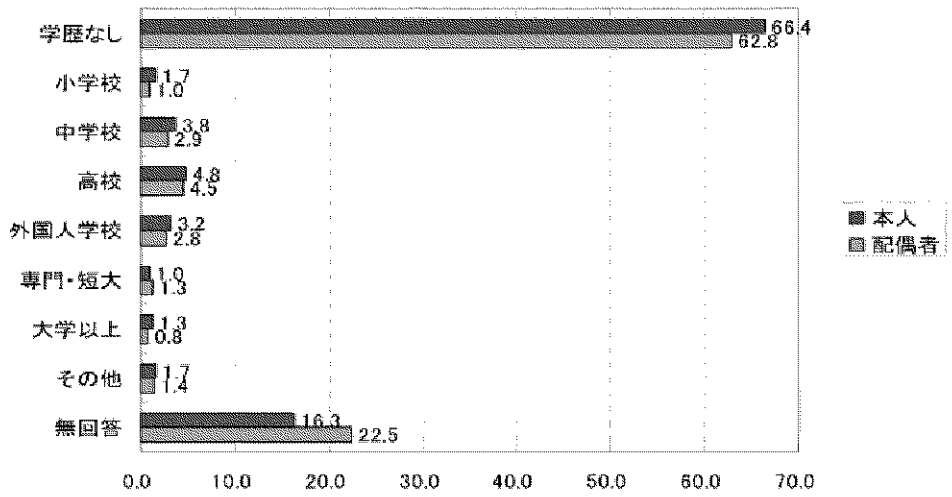
図 13　来日回数




来日回数についてたずねた。来日回数が今回も含めて 1 回という回答が最も多く、4 割を占める。来日回数が 2 回との回答がついで多く、27%である。3 回が 14%、4 回が 6%とつづく。5 回以上という頻繁に日本と母国を行き来する人はそれほど多くなく、3%にすぎない。

14　あなたと配偶者の方の日本での最終学歴を教えてください（未婚者は本人のみ）。

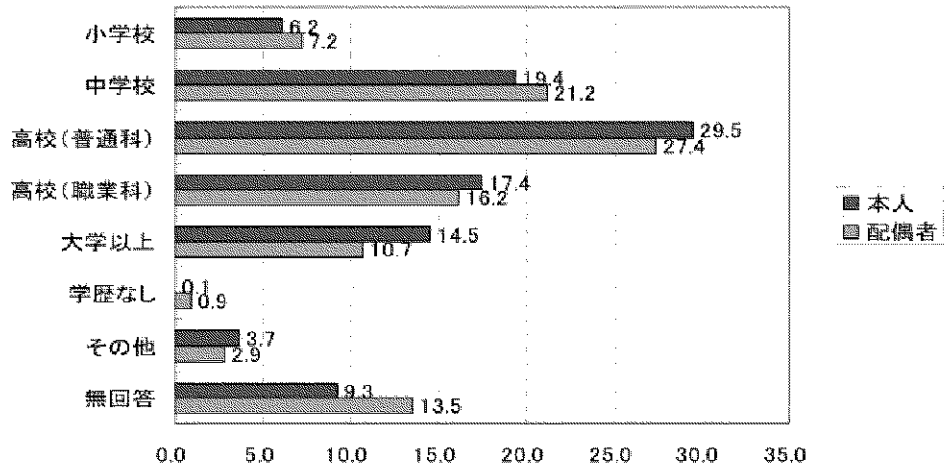
図 14　日本での学歴（本人：N=1252、配偶者：N=904）




本人と配偶者の学歴について、日本で取得した学歴と出身国で取得した学歴の双方についてたずねた。日本で取得した学歴の結果を見ると、学歴なしが非常に多い。本人では全体の 3 分の 2 が日本での学歴はないと答え、配偶者でも 62%が学歴なしと答えている。日本で学歴を取得した人は、全体から見て少数派である。とはいえ、そのなかでも高卒程度が最も多く、本人、配偶者ともに 4%が、高卒程度の学歴を有している。中卒程度では、本人で 3%、配偶者で 2%がそのように回答する。大卒以上については非常に少なく、本人で 1.3%、配偶者でも 0.8%にすぎない。

15　あなたと配偶者の母国での最終学歴を教えてください（未婚者は本人のみ）。

図 15　出身国での学歴（本人：N=1252、配偶者：N=904）




他方で、出身国での学歴に注目する。日本での学歴とは対照的に、出身国での学歴なしという回答が非常に少ない。本人で 0.1%、配偶者も 0.9%と非常にわずかである。出身国で取得した学歴で最も多い回答は、普通科高校程度であり、本人で 29%、配偶者で 27%である。小卒、中卒程度の初等教育終了程度の者も、日本の進学率の数値と比較すると明らかに多い。中卒では、本人で 19%、配偶者で 15%であり、小卒では、本人で 6%、配偶者で 5%であった。職業科高校卒業の者も多く、本人で 17%、配偶者で 21%であった。大学以上の高等教育修了者は、本人で 14%、配偶者で 10%であった。

【②雇用・労働】

はじめに、日本での仕事の決定過程についてたずねた。来日以前に仕事が決まっていた者が、6割以上を占める一方、来日前に未定だった者も3割程度存在する。日本での仕事がすでに決まっていた人に限定して、その手段をたずねたところ、斡旋業者等の紹介がそのうちの7割近くを占める。その他では、家族・親族の紹介が15%、友人・知人の紹介が5%であった。

本人と配偶者の現在の職業についてたずねたところ、従業上の地位では、派遣・請負の形態で働く者が本人で76%、配偶者で64%と多数を占めている。直接雇用は、正社員とパート・アルバイトを合計しても1割程度にすぎない。産業については、自動車関連の製造業が最も多い。過去の結果と比較すると、自動車関連の製造業が一貫して増加傾向にある。職種については、ブルーカラー系の肉体労働に従事する者が最も多い。

他方で、ホワイトカラーの職務に従事する者は、非常に少ない。販売・サービス、専門管理、事務を合計しても6%程度にとどまる。従業先の規模については、人によって大きく異なる。9人以下の零細企業で働く者が1割程度である一方、300人以上の大企業で働く者は、2割程度存在する。

1日あたりの労働時間と週当たり労働日数については、2003年調査でも質問されており、2006年の結果との比較を試みる。2003年では、1日の労働時間が8時間程度という回答が全体のほぼ半数を占め、10から11時間程度が23%、12時間以上が12%であった。他方で本調査では、8時間程度が25%に大きく減少し、10から11時間が37%、12時間以上が15%と増加している。ここ数年で、労働時間が増加していることが分かる。労働日数についても、2003年では、週当たり労働日数が5日という回答は62%、6日は27%だったが、2006年では5日が53%、6日が33%となっており、労働日数でも増加傾向にある。

現在の職場での勤続期間については、11ヶ月未満が34%と多数を占めている。1年程度という回答も多く、20%である。現在の職場での勤続期間が5年以上の者も一定数おり、17%が現在の職場に5年以上在籍している。

本人の月収については、1996年の調査から継続的に質問されているが、一貫した傾向は確認できない。本調査では、20万円台前半が最も多く18%、ついで20万円台後半が16%である。30万円以上の月収を稼ぐ者もおり、17%が月収30万円以上である。

母国での仕事について、従業上の地位、職種、企業規模の3点についてたずねた。従業上の地位については、フルタイムが最も多く30%、ついで自営業主の19%である。学生という回答も多く12%、家族従業が9%である。仕事の職種については、販売が最も多く27%であり、その他が15%、事務が14%となっている。日本で従事するブルーカラー系の職種に従事する者は、12%にすぎない。従業先の規模については、9人以下の零細企業で働く者が多く、全体の半数近くを占める。300人以上の大企業で働く者は、全体の1割程度にすぎない。

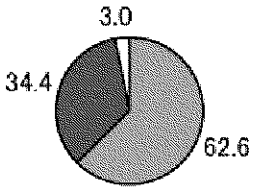
過去の調査結果との比較においては、従業上の地位や職種については大きな変化はみられない。しかし、労働時間については、以前と比べて労働時間や日数の増加傾向を読み取ることができる。

16　あなたは、はじめて日本に入国する前に、日本での仕事がすでに決まっていましたか。

本調査では、南米出身の外国人の雇用・労働の状況を明らかにするため、はじめに日本での仕事が来日以前にすでに決まっていたかどうかたずねた。

来日以前にすでに決まっていたという人が、6割以上にのぼっている。3分の1の回答者は来日以前には仕事は決まっていなかったと回答する。

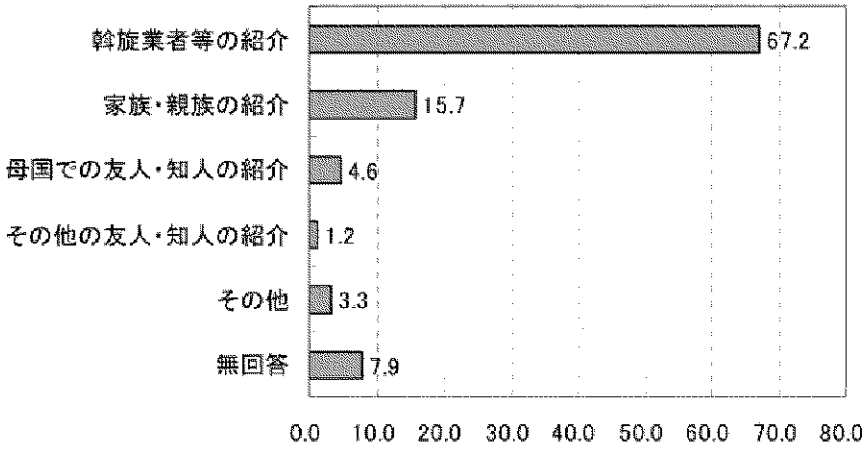
図16　来日以前の仕事の決定




■決定 ■未定 □無回答

17　16で「はい」と答えた方だけにおうかがいします。どのような手段で仕事を見つけましたか。

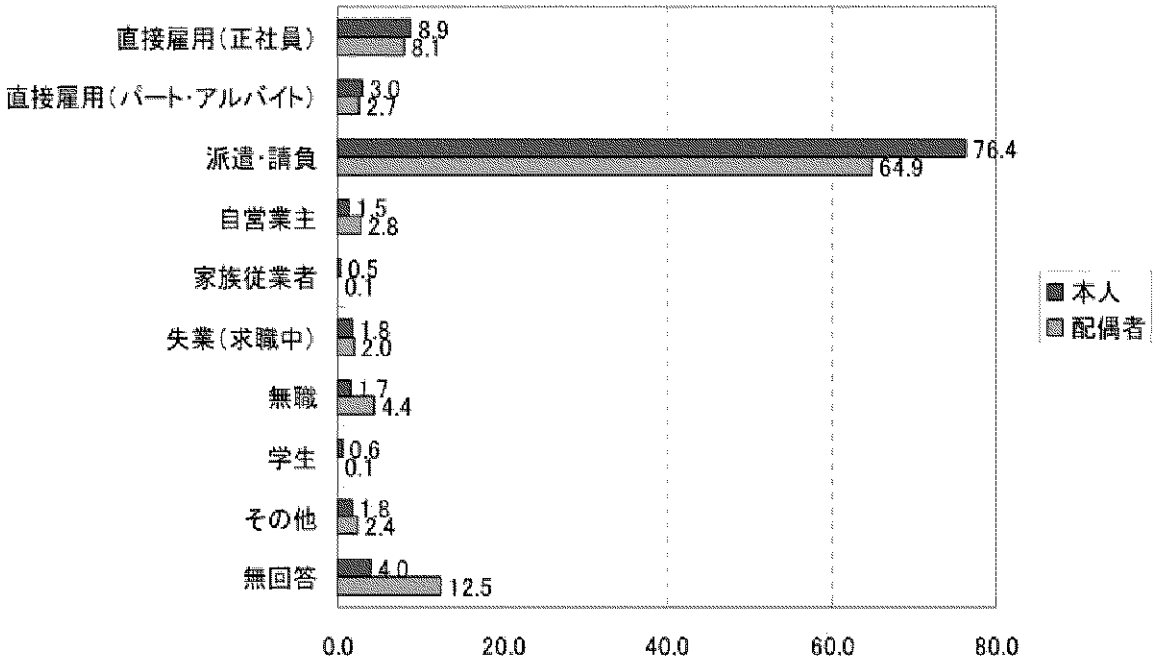
図17　仕事を見つけた手段（N=821）




今度は、来日以前に仕事が決まっていた人に限定して、自分の出身国でどのようにして仕事を見つけたかについてたずねた。斡旋業者等の紹介で見つけた人は、およそ3分の2にのぼる。家族・親族の紹介を通じて、事前に仕事を見つけていた人はそれほど多くなく、15%程度である。家族・親族以外の友人・知人を通じて仕事を見つける人は、さらに少ない。家族・親族や、友人・知人といったパーソナル・ネットワークを通じて事前に仕事を見つけていた人は、全体の2割程度である。

18　あなたと配偶者の方のお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか（未婚者は本人のみ）。

図 18　本人と配偶者の従業上の地位（本人：N=1252、配偶者：N=904）




以下では、本人と配偶者の職業について細かく見ていく。

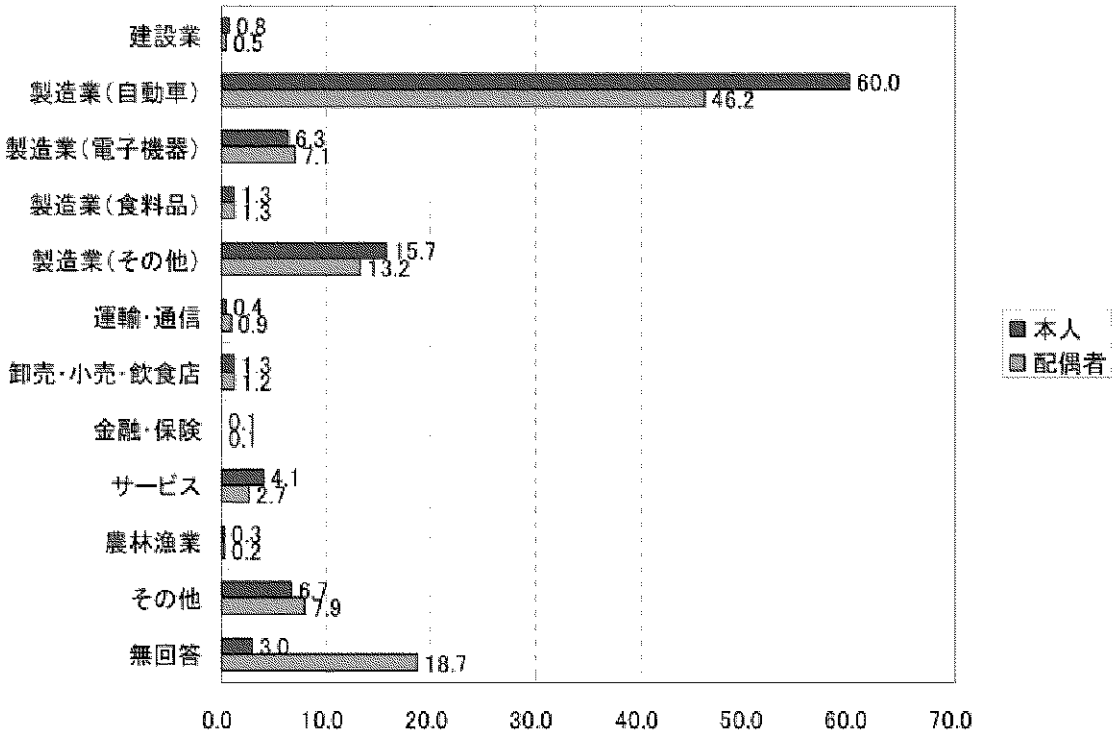
従業上の地位については、本人、配偶者ともに、派遣・請負の形態で働く者が大半を占めていることがわかる。とはいえ、本調査では、派遣会社経由でも調査票を配布しているため、調査票の配布方法が、派遣・請負の比率の過大推定をもたらしている可能性も否定できない。ついで多いのが直接雇用の正社員であるが、本人と配偶者ともに 8%となっており、派遣・請負の比率と比べると非常に少ない。同様に、直接雇用でパート・アルバイトの形態で働く者も非常に少なく、本人で 3%、配偶者で 2%である。

自営業に従事する者も非常に少ない。自営業主については、本人で 1.5%、配偶者で 2.8%、家族従業者では本人・配偶者ともに 1%を下回っている。

このように、本調査の対象者となった浜松市の南米出身の外国人の多くは、派遣・請負の雇用形態で就労しているといえる。

19　あなたと配偶者の方は、どのような分類の仕事をしていますか。

図 19　本人と配偶者の産業（本人：N=1152、配偶者：N=847）

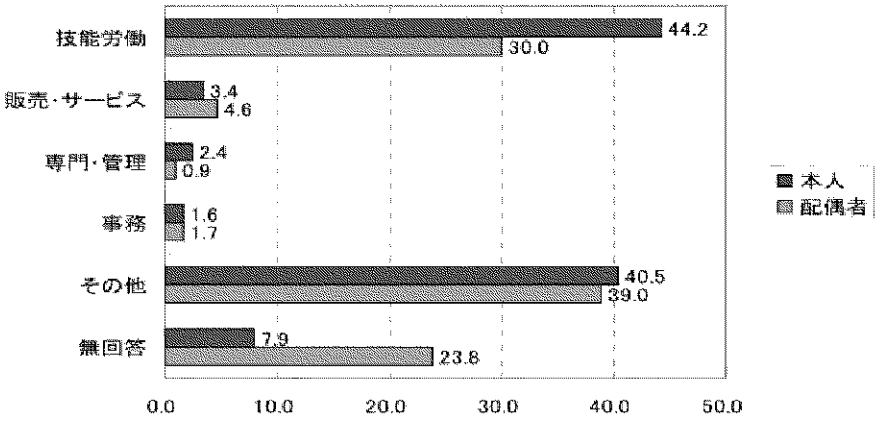



以下の産業・職種等に関する調査結果の記述に際しては、問 18 で失業・無職・学生と回答した者を予め除外した上で、パーセントの計算を行った。配偶者の回答の集計に際しては、未婚者を非該当として、分析から除外した。

本人と配偶者が働く会社の産業については、次のような結果になった。自動車関連の製造業が最も多く、本人で 60%、配偶者で 46%であった。ついで多いのがその他の製造業であり、本人で 15%、配偶者で 13%であった。電子機器の製造業では本人で 6%、配偶者で 7%であった。このように、回答者の働く会社の産業は、浜松市における産業構造を反映して、製造業に集中しているといえる。販売・サービス業に従事する外国人は、浜松市では非常に少ない。販売とサービスを合計した数値では、本人で 5%、配偶者でも 4%にすぎない。

20　あなたと配偶者の方の具体的な仕事の内容を教えてください。

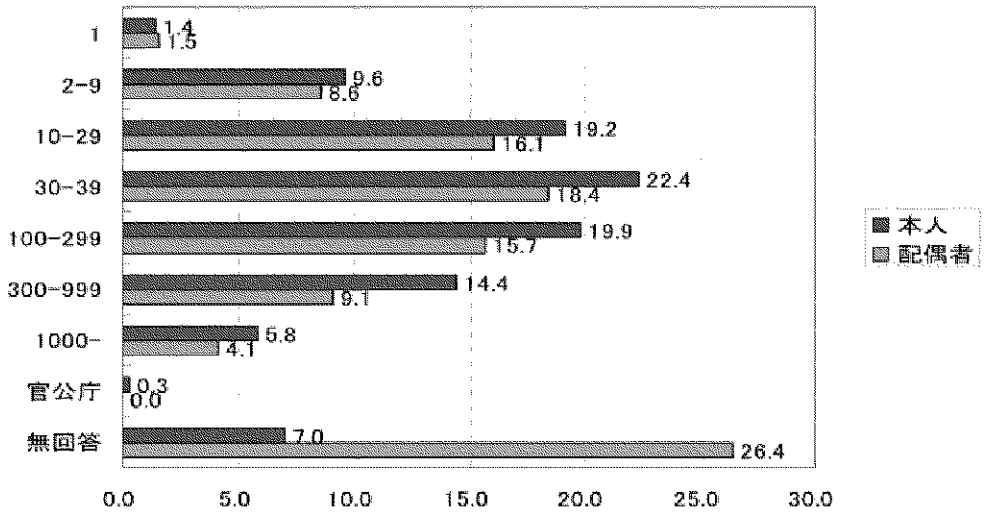
図 20　職種（本人：N=1152、配偶者：N=847）




次に、職種についてみてみる。ブルーカラーなどの技能労務・一般作業に従事する者は、本人で 44%、配偶者で 30%であった。その他も多く、本人で 40%、配偶者で 39%であった。ホワイトカラーの職務に従事する者は、それほど多くない。販売・サービスでは、本人で 3.4%、配偶者で 4.6%である。専門管理については、本人で 2.4%、配偶者で 0.9%であった。事務についても少なく、本人で 1.6%、配偶者で 1.7%である。このように、職種に関しても、浜松市に居住する南米出身の外国人は非常に同質性が高い。

21　従業員（働いている人）は、会社全体で何人くらいですか。派遣や請負などで会社に派遣されている人は、派遣されている会社の従業員の全体の人数をお答えください。

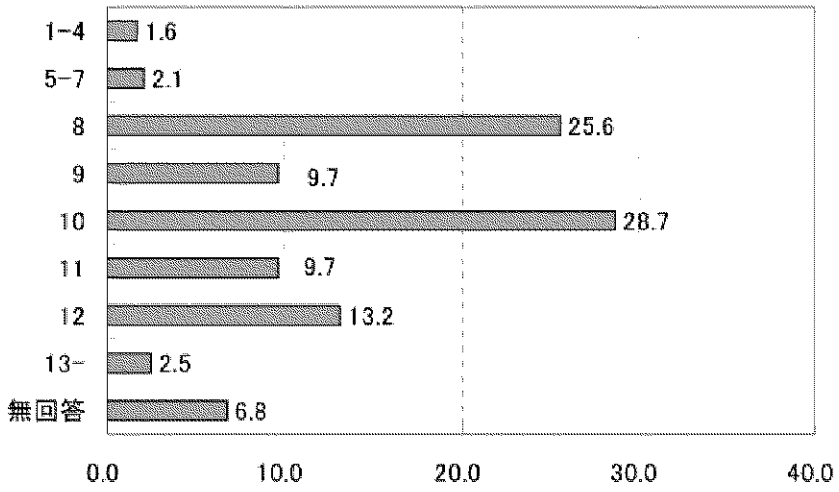
図 21　従業先の規模（本人：N=1152、配偶者：N=847）




従業先の規模についてもあわせてたずねた。派遣・請負の形態で働いている人は、派遣先の会社の従業員数での回答を求めた。30 人から 99 人程度の中規模企業で働く者が最も多く、本人で 22%、配偶者で 18%であった。10 人から 29 人の小規模の企業や、100 人から 299 人の中規模ながら若干従業員の多い企業で働く人が、同程度に多い。10 人から 29 人では、本人で 19%、配偶者で 16%である。100 人から 299 人では、本人で 19%、配偶者では 15%であった。300 人以上の大企業で働く者も多い。300 人から 999 人と 1000 人以上の結果を合計すると、本人ではほぼ 20%、配偶者では 13%が 300 人以上の大企業で就労している。

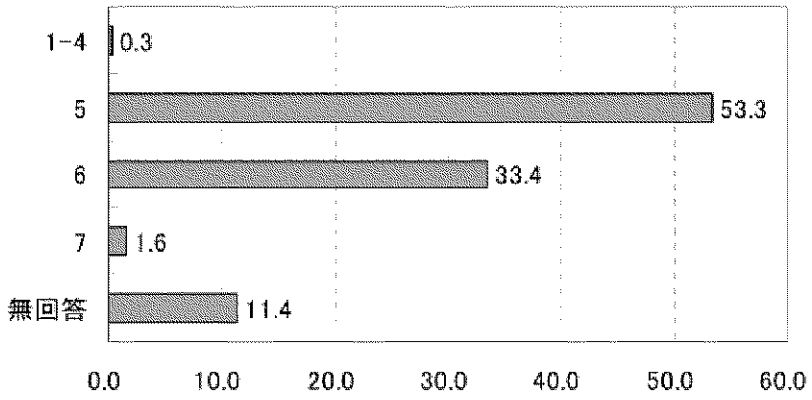
22　あなたはこのお仕事を１日何時間、週何日していますか（残業の時間も含む）。

図 22-1　１日あたりの労働時間（N=1152）




浜松市の南米出身の外国人は、どの程度の時間を労働に振り向けているのだろうか。１日あたりの労働時間についてみたところ、最も多い回答が 10 時間であった。28%の回答者が 1 日 10 時間働いている。25%の回答者は、1 日 8 時間ほど労働に従事している。7 時間以下の短時間労働に従事する者は、3%と少ない。他方で、1 日 11 時間以上の長時間労働に従事する者も多い。1 日あたり 12 時間以上も仕事に従事する者は 15%も存在する。

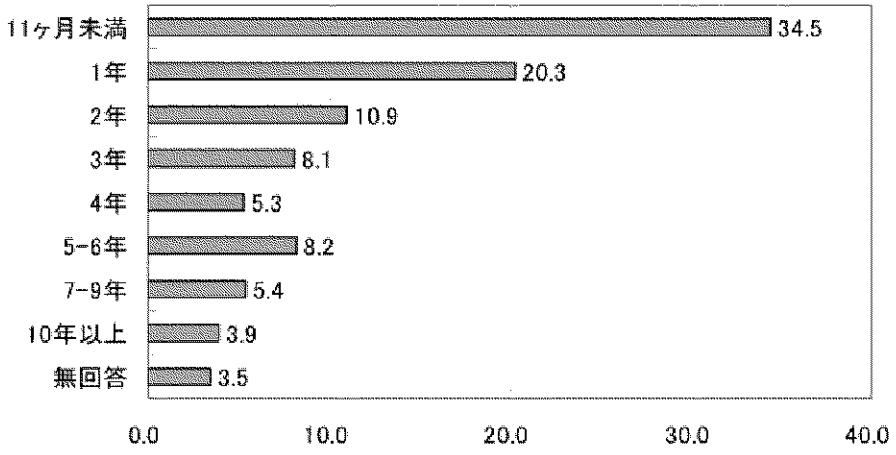
図 22-2　１週間の労働日数（N=1152）




1 週間の労働日数に注目すると、回答者のおよそ半数が週に 5 日働いている。また、33%の回答者が、週に 6 日働いていると答えている。浜松市の南米出身の外国人の多くは、週に 5 日ないし 6 日、働いているようである。

23　あなたは、現在の職場での勤続期間はどのくらいですか。

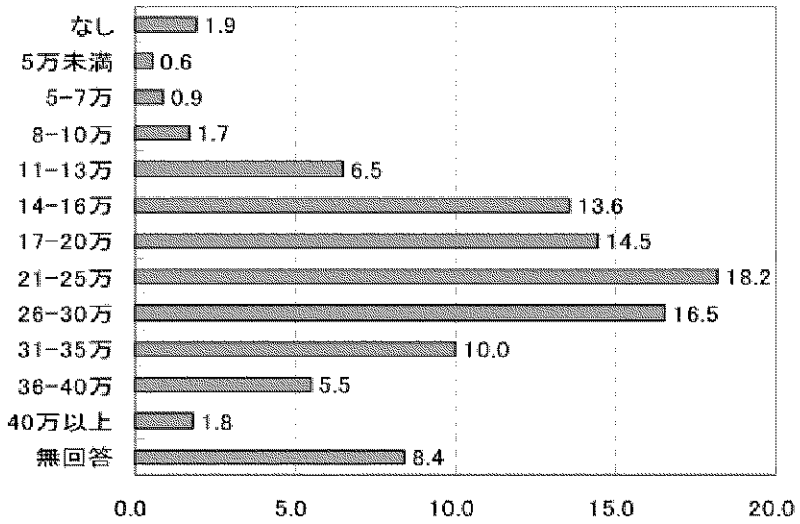
図 23　現在の職場での勤続期間（N=1152）




現在の職場での勤続期間についてみてみる。なお、派遣・請負の形態で働いている人については、現在の派遣先や働いている工場での勤続期間についてたずねている。11ヶ月未満という回答が 34%と非常に多くを占める。1 年程度という回答も多く、20%の回答者は、勤続が 1 年程度である。他方で、勤続が 5 年以上の回答者も一定数存在する。5 から 6 年が 8%、7 から 9 年が 5%であり、10 年以上という回答も 3.9%存在する。現在の職場での勤続期間で見ると、浜松の外国人の中でも、現在の職場での勤続期間が短い層と長い層に分化しているといえる。

24　あなたの現在の 1 ヶ月あたりの平均的な収入（税込み）についておうかがいします。

図 24　本人月収

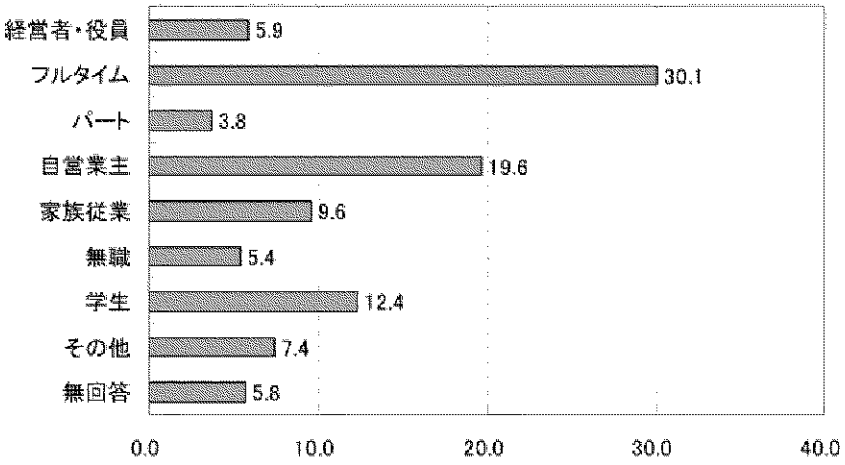



所得については、本人の 1 ヶ月あたりの平均的な収入についてたずねた。21 から 25 万円が最も多く、18.2%である。ついで、26 から 30 万円程度が 16.5%であった。10 万円台の月収もそれぞれ 1 割を超えている。17 から 20 万円が 14.5%、14 から 16 万円が 13.6%であった。30 万円以上の月収を稼ぐ者もおり、30 万円台前半が 10%、後半が 5%であった。

（25　不適切な選択肢があり測定結果の信頼性に欠けると判断されるため、集計から除外）

26　（母国での）あなたのお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

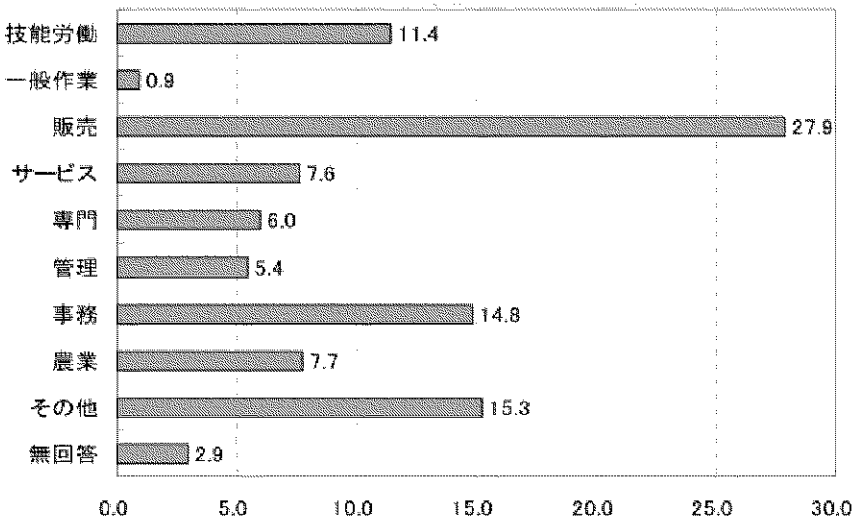
図 26　母国での主な仕事の従業上の地位




母国での主な仕事について、従業上の地位、職種、企業規模の 3 項目についてたずねた。従業上の地位については、日本でのかれらの従業の上の地位とは対照的に、フルタイムでの勤め人が最も多く、回答者の 3 割がフルタイムでの勤め人であった。ついで多いのが、自営業主であり、19.6%であった。家族従業者も含めれば、これも 3 割近い人たちが、自営業に従事していることがわかる。また、ほぼ 6%の回答者は、経営者・役員と回答する。日本での従業上の地位とは異なり、パートタイムで就労する者は少なく、3.8%にすぎない。母国では就労経験はなく、学生であった者も多く、12%である。

27　あなたは職場でどのような仕事をしていましたか。具体的な仕事の内容を教えてください。

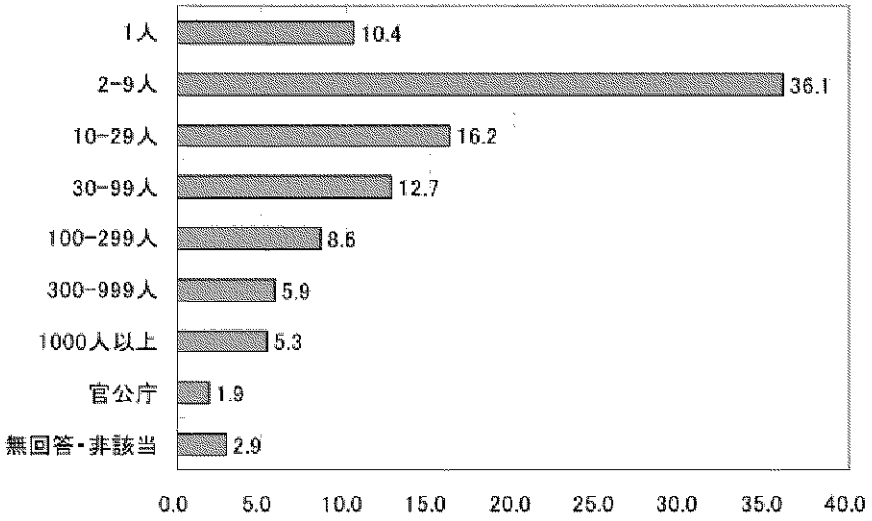
図 27　母国での主な仕事の職種（N=957）




母国での主な仕事の職種についてたずねたところ、販売が最も多く 27%であった。専門管理に従事していた者は、合計で 11%である。事務職は 14%である。技能労働と一般作業を合計したブルーカラー労働に従事していた者は 12%である。また全体の 7%が農業に従事していた。このように、日本でかれらが従事する職種と比較して、母国では非常に多様な職業に従事していたことが理解できる。

28　従業員（働いている人）は、会社全体で何人くらいでしたか。

図 28　母国での従業先の規模（N=957）




従業先の規模については、先の自営業の比率の高さを反映して、2 から 9 人の零細企業で働く者が最も多く、36%である。ついで 10 から 29 人の 16%、30 から 99 人の 12%であった。300 人以上の大企業で働く者は 11%にすぎない。

【③居住】

過去3回の浜松における外国人を対象とした調査（1996年、1999年、2003年）と2006年に実施した今回の「浜松市における南米系外国人の生活・就労実態調査」とは、調査対象者の抽出方法や調査項目が大きく異なっており単純に比較は出来ない。その点に注意しつつ、外国人の生活実態の変化を把握するため、大きな変化についてのみ言及する。

居住形態に関して注目に値するのは、「持ち家」に居住する外国人市民割合の増加である。持ち家に居住する外国人の割合は、1996年・1999年・2003年調査ではそれぞれ、1%、1%、2%であった。今回の調査において「持ち家」比率は3%に上昇している。住宅の購入は、浜松市への長期的滞在・定住志向を示唆しており、少数ではあるが外国人市民の中から浜松市に定住する層が徐々に出始めていることを物語っている。

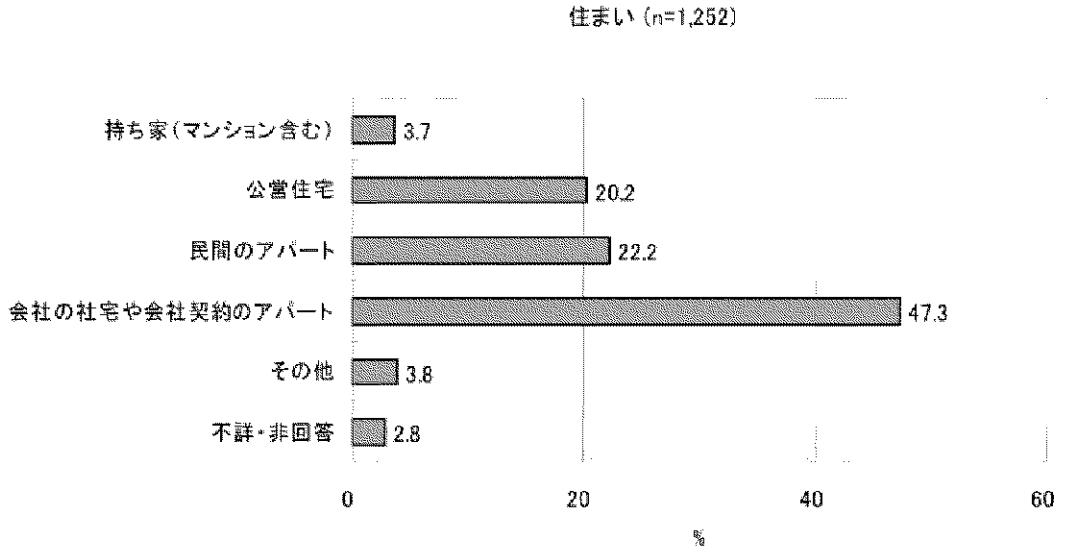
「会社の社宅や会社契約のアパート」の居住割合は、1999年に35%、2003年には23%と減少傾向にあったが、今回調査では反転し47%と大幅に上昇している。会社関連の居住形態割合が上昇した分、民間のアパート・公営住宅に居住する者の割合は、1999年調査の59%（アパート31%、公営住宅28%）から42%（アパート22%、公営住宅20%）に低下した[4]。社宅や会社契約のアパートの居住割合が上昇したのは、今回の調査対象者に企業経由で抽出したグループがいたためかもしれない。

そこで、企業経由で抽出した調査対象者と企業経由以外の調査対象者とで居住形態を比較したところ（不詳・非回答は除く）、次のようなことがわかった。会社の社宅や会社契約のアパートに居住する者の割合は、企業経由では67%にも達しているが、企業経由以外では34%に過ぎない。即ち、今回の調査で「会社の社宅や会社契約のアパート」などの企業関連の居住形態割合が上昇したのは、予想通り、企業経由の調査対象者が多かったことによるところが大きい。一方、民間のアパートに居住する者の割合は、企業経由で16.3%、企業経由以外では27%と企業経由以外の対象者で高い。公営住宅（企業経由7%、企業経由以外30%）でも同様の傾向がみられる。また、持ち家の割合も企業経由では2%であるが、企業経由以外では4%となっている。以上の結果から、企業経由以外の対象者の方で持ち家、民間のアパートや公営住宅に居住する者の割合が高く、企業経由の対象者よりも日本滞在期間が長く、定住化が進んでいることをうかがわせる。

住宅を借りる際に必要な保証人に関しては、必要だったケースが43%、必要でなかったケースが25%であった。必要でなかった割合が高いのも、会社の社宅や会社契約のアパートに居住する者の割合が高いためと思われる。保証人が必要だった場合、保証人になるのは仕事関係の日本人が最も高く、41%を占めた。仕事以外の関係者では知り合いの同国人が16%、続いて知り合いの日本人と親戚が13%と並ぶ。居住に関する調査結果に関しては、サンプル中の企業経由での抽出者と企業経由以外の抽出者の傾向が大きく異なることから、全サンプルの結果の解釈には、注意を要する。

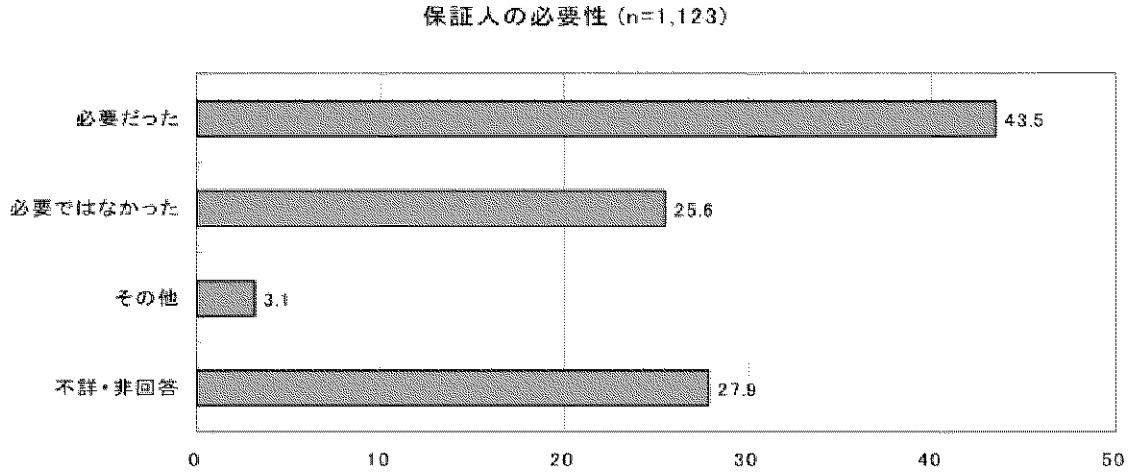
[4] 2003年調査では、「民間のアパート」、「公営住宅」という区分を用いていないため、比較はできなかった。

29　現在のあなたのお住まいはどれにあたりますか。



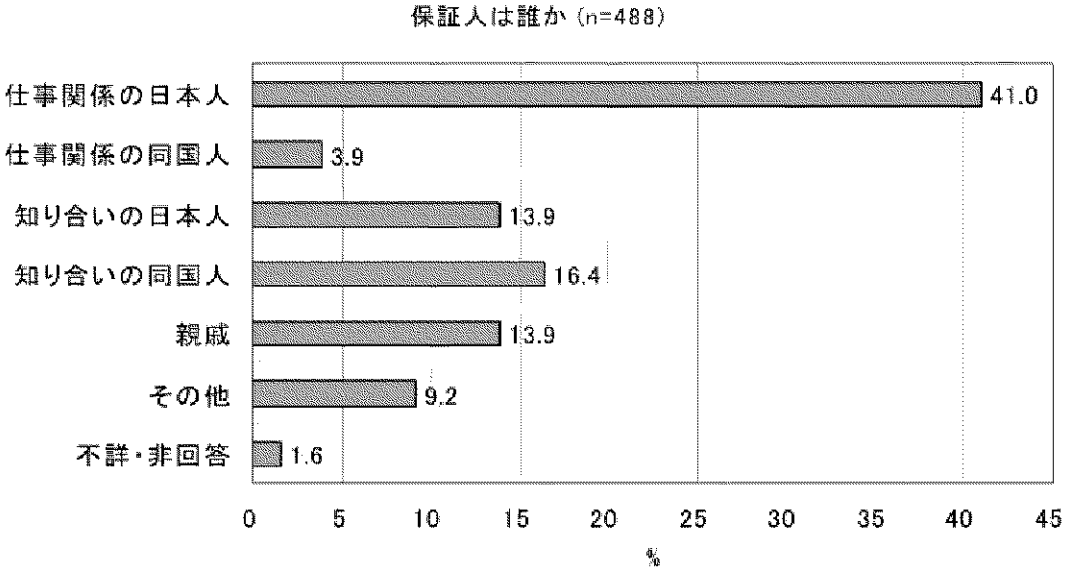

調査対象者の住まいは、「会社の社宅や会社契約のアパート」が最も多く、全体の 47%を占めた。「民間のアパート」、「公営住宅」がそれぞれ約 20%でそれに続く。マンションを含む持ち家比率は、3%であった。

30　29 で(1)から(3)に○をした方にお聞きします。現在の住宅を借りるときに保証人は必要でしたか。




この設問では 29 で、「持ち家」と「その他」以外に○をした対象者に限定して、保証人の必要性の有無を聞いている。「不詳・非回答」が 27%と高いが、「必要だった」との回答が全体の 43%を占めている。「必要ではなかった」との回答が 25%と比較的高いのは、会社契約のアパートに居住する対象者が多いためと思われる。

31　30で「(1)必要だった」に○をした方にお聞きします。保証人はどなたでしたか。




この設問は、30で「保証人が必要だった」と回答した対象者に絞って誰が保証人だったかを聞いている。回答中最も多かったのは「仕事関係の日本人」で41%である。続いて「知り合いの同国人」(16%)、「知り合いの日本人」と「親戚」がどちらも13%で並ぶ。「仕事関係の日本人」の割合が高いのは、会社契約のアパートに居住する対象者が多いためかと思われる。

【④医療・保険】

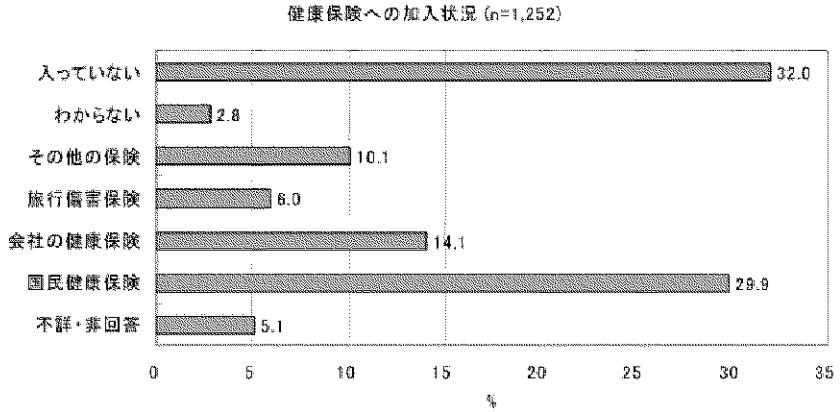
健康保険への加入状況の変化を見ると、今回調査では未加入者の割合が大幅に低くなっている。未加入者の割合は、1999 年調査では 50%、2003 年調査で 47%と過去の調査においては約半数が未加入という状況であった。今回の調査では未加入の割合が 32%であった。次に健康保険の中でも、国民健康保険への加入割合についてみると、1999 年調査で 18%、2003 年調査で 34%と上昇の一途を辿っていた。しかし、今回調査では 29%に留まっている。社会保険加入者の割合は、1999 年で 16%、2003 年で 11%と国民健康保険加入者割合とは逆に減少傾向を示していた。今回の調査で「会社の健康保険加入者」は 14%であり、国民健康保険加入者の割合が減少した分、社会保険加入者の割合は若干上昇している。

健康保険未加入者の割合の減少、及び国民健康保険加入者割合の減少と社会保険加入者割合の上昇は、企業経由で抽出した調査対象者の割合が高いことが寄与している可能性が高い。そこで、対象者を企業から抽出した場合と企業以外から抽出した場合とで、健康保険の加入者割合、国民健康保険・社会保険加入者割合の比較をした（不詳・非回答は除く）。その結果、健康保険未加入者の割合は、企業経由が 38%、企業経由以外が 30%と企業経由の方が高かった。更に、加入している健康保険の種類を抽出経由別で比較したところ、国民健康保険加入者の割合は、企業経由が 20%、企業経由以外が 39%であった。これは企業経由で抽出した対象者の方が会社の健康保険に加入している割合が高いためかもしれない。しかし、会社の健康保険加入者の割合は企業経由が 12%、企業経由以外が 16%と企業経由以外の方が高いという意外な結果を得た。加入している健康保険の中で企業経由の方が高かったのは旅行傷害保険（企業経由 11%、企業経由以外 2%）、そしてその他の保険（企業経由 11%、企業経由以外 9%）の二種類であった。また、自分の健康保険加入状況がわからない者が企業経由で 5%、企業経由以外が 1%と、企業経由の方で高かった。

少なくとも今回の調査結果から示唆されるのは、企業経由の対象者の方で旅行傷害保険やその他の保険への加入割合が高いことや、加入状況が理解できていない者の割合が高いことから、企業経由の対象者の方が日本滞在年数が浅く、来日して間もない者が比較的多いということである。企業経由以外の対象者は 70%弱の者がなんらかの健康保険に加入しており、企業経由対象者よりも生活が安定している様子がうかがわれる。

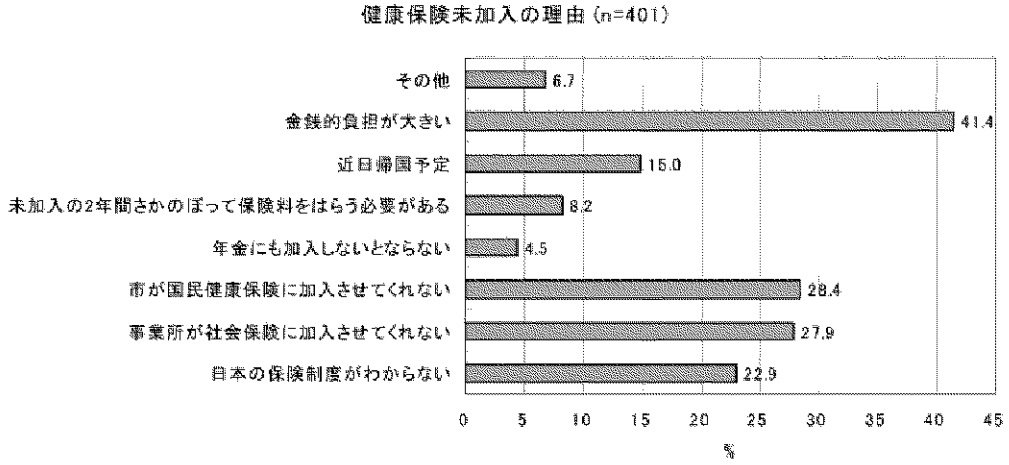
定期健康診断の受診状況についてみると、「会社の定期検診を受けている」と回答した者の割合は 48%と高い。この結果についても企業経由の対象者が多いためと考えられるため、上記同様、企業経由の対象者と企業経由以外の対象者とで比較を試みた（不詳・非回答を除く）。その結果、「会社の定期検診を受けている」と回答した者の割合は、企業経由で 57%、企業経由以外で 45%であった。やはり企業経由の対象者の多さが会社の定期検診受診の割合を押し上げているとみることができる。「個人で受診」は、企業経由が 8%であるのに対し、企業経由以外では 15%と倍近く高い。「ボランティアによる無料検診会」受診者の割合は、企業経由が 3%、企業経由以外では 5%であった。「受診していない」者の割合は、企業経由が 30%、企業経由以外が 33%で、大きな違いは見られない。企業経由以外でも会社の定期検診を受診している者の割合が半数近くおり、過去の調査で定期健康診断受診に関する調査項目が設けられていないので時系的な変化は把握できないが、全国的にみれば比較的高い数値と思われる。

32　日本での健康保険への加入状況を教えてください。




健康保険への加入状況では、「入っていない」が 32%、「国民健康保険」加入が約 30%とわずかに未加入者の割合が国民健康保険を上回っている。「会社の健康保険」への加入者が 14%、「その他の保険」が 10%、「旅行傷害保険」が 6%となっており、何らかの健康保険に加入している対象者の割合は、全体の約 60%になっている。また、加入状況が自分でわからない対象者が約 3%存在する。

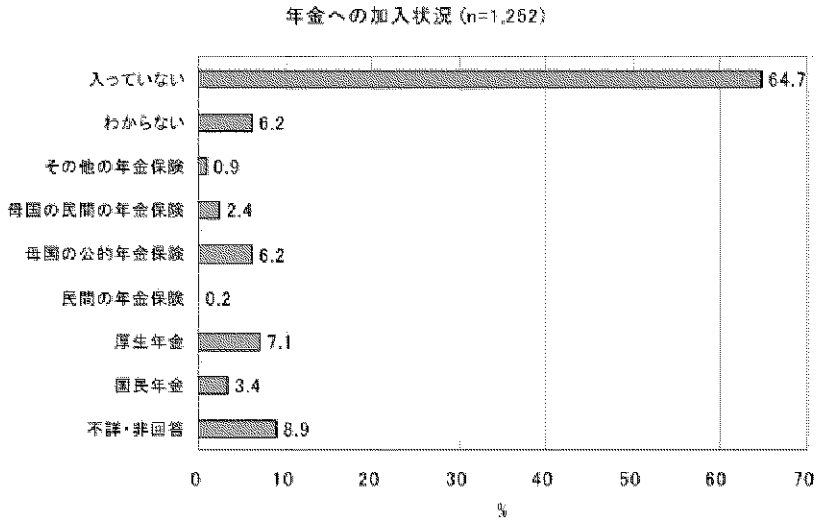
33　32 で(6)に「入っていない」に○をした方にお聞きします。健康保険に加入していないのはなぜですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。




33 では、32 で「健康保険に入っていない」と回答した対象者に健康保険未加入の理由を聞いている。当てはまる理由全てを選択させる設問なので、グラフでは設問ごとに○をつけた対象者の割合を示している。

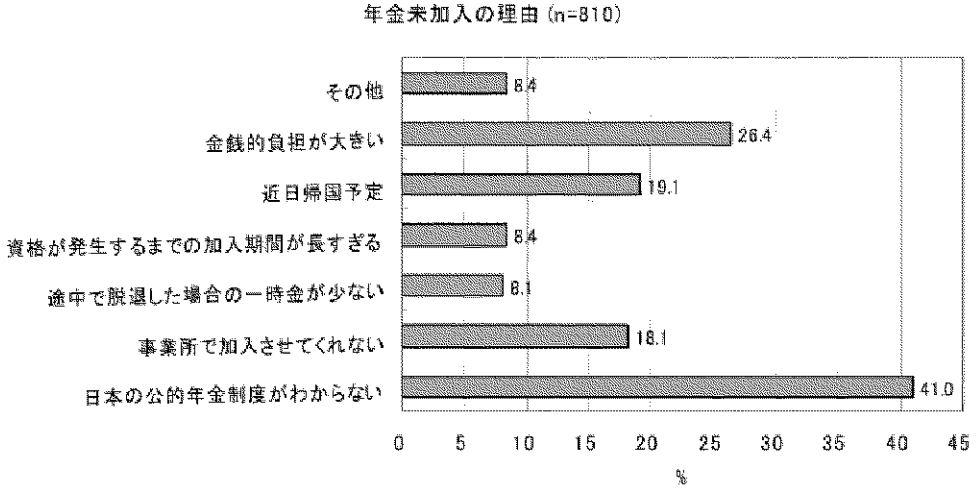
健康保険未加入の理由で最も多いのは、「金銭的負担が大きい」の 41%である。続いて「市が国民健康保険に加入させてくれない」(28%)、「事業所が社会保険に加入させてくれない」(27%) とほぼ同水準で続く。「日本の保険制度がわからない」と回答したのは 22%、「近日帰国予定」が 15%である。「国民健康保険に加入すると、未加入の 2 年間にさかのぼって保険料を払わなければならないから」が 8%、「国民健康保険・社会保険に加入すると、年金にも加入しないとならないから」を挙げたのは 4%であった。この二つの理由は「金銭的負担が大きい」と重なる所があるので、金銭的負担が健康保険未加入の大きな理由であることが推察される。

34　年金への加入状況を教えてください。



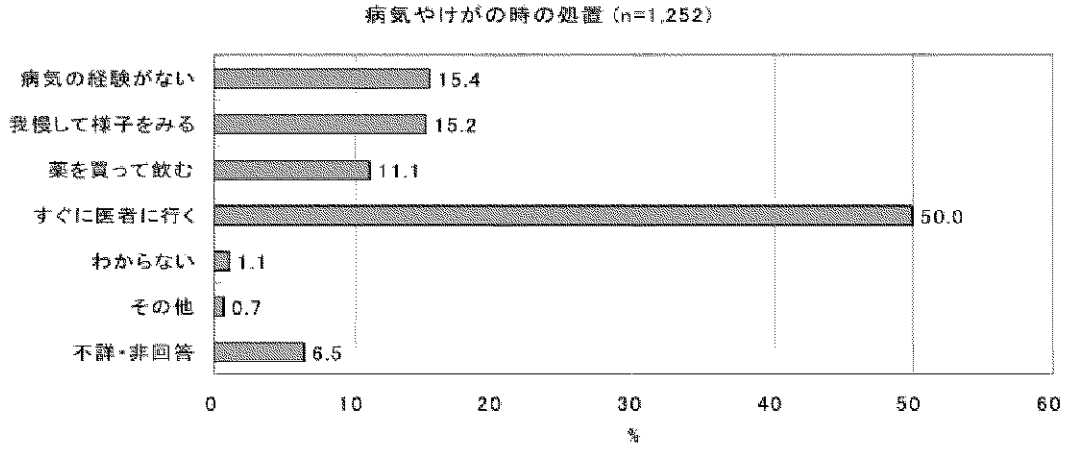

年金未加入者は全対象者の64.7%にのぼり、健康保険への未加入率32%よりも2倍近く高い。加入している年金の中で最も多いのは「厚生年金」の7%、母国の公的年金保険の6%である。国民年金への加入者割合はわずか3%、母国の民間の年金保険が2%である。日本・母国にかかわらず何らかの年金に加入しているのは20%と、年金加入の割合は総じて低い傾向にある。また、自分の年金の加入状況がわからない対象者が6%おり、健康保険の同分類（2%）より多い。

35　34で(8)「入っていない」に○をした方にお聞きします。年金に加入していないのはなぜですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。



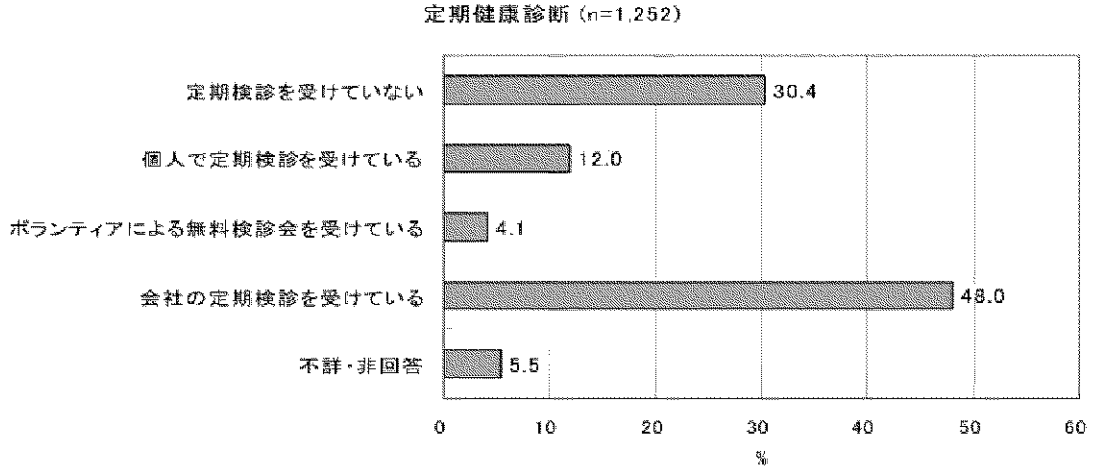

35では、34で「年金に入っていない」と回答した対象者に年金未加入の理由を聞いている。当てはまる理由全てを選択させる設問なので、グラフでは設問ごとに○をつけた対象者の割合を示している。年金未加入の最大の理由は、「日本の公的年金制度がわからない」の41%である。続いて「金銭的負担が大きい」の26%、「近日帰国予定」（19%）、「事業所で加入させてくれない」（18%）の順番になっている。「年金をもらえる資格が発生するまでの加入期間が長すぎる」は8%、「途中で脱退した場合の一時金が少なすぎる」が8%である。年金未加入の最も大きな理由は年金制度に関する情報と理解度の低さであり、健康保険未加入の理由とは異なる。

## 36　病気やけがをした時、どうしますか。




病気やけがをした時の処置としては、「すぐに医者に行く」が圧倒的に高く、全体の半数を占めた。「病気の経験がない」（15%）、「我慢して様子をみる」（15%）がほぼ同水準でそれに続く。来日してから病気の経験がないという対象者もいる一方（15%）、病気になった場合にすぐ医者に行かれない事情がある対象者もいる。すぐに医者に行かれない回答者は、「我慢して様子をみる」（15%）と「薬を買って飲む」（11%）をあわせると 26%に達する。

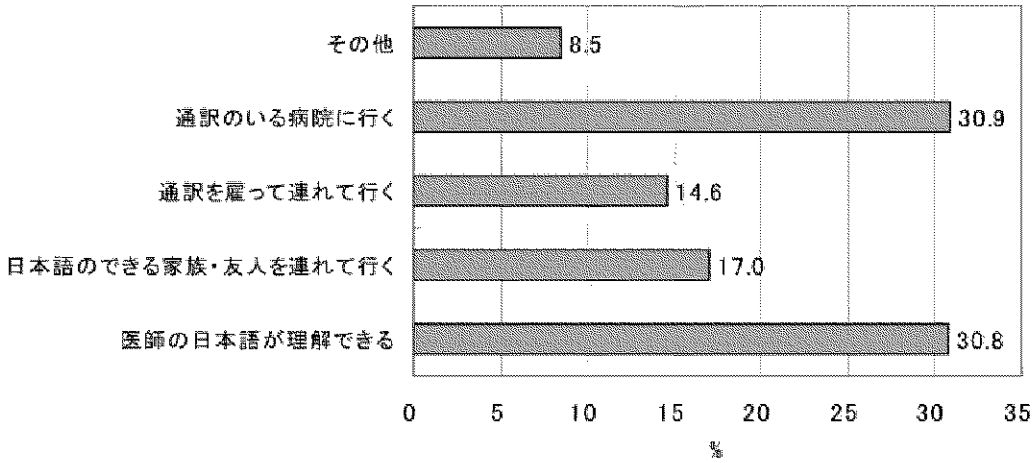
## 37　あなたは、定期健康診断を受けていますか。




定期健康診断の受診状況をみると、「会社の定期検診を受けている」が最も多く、48%であった。続いて「定期検診を受けていない」の 30%となっている。会社以外の定期検診を受けている者は、「個人で定期検診を受けている」（12%）と「ボランティアによる無料検診会を受けている」（4%）をあわせると 16%である。

38　あなたは普段病院に行くとき、病院での言葉の問題についてどのように対応していますか。

病院での言葉の問題に対する対応方法（n=1,252）




この設問は、当てはまる選択肢全てに○をつけるよう指示しているため、合計は 100%を越える。「医師の日本語が理解できる」と回答した者が約 3 割いる一方で、ほぼ同数が「通訳のいる病院に行く」と回答している。「日本語のできる家族・友人を連れて行く」は 17%となっている。「通訳を雇って連れて行く」も 14%存在する。設問は二者択一ではないため、解釈には注意を要するが、自分で医師の日本語を理解できない場合、通訳のいる病院に行くのが病院での言葉の問題に対する最も一般的な対処方法と考えられる。

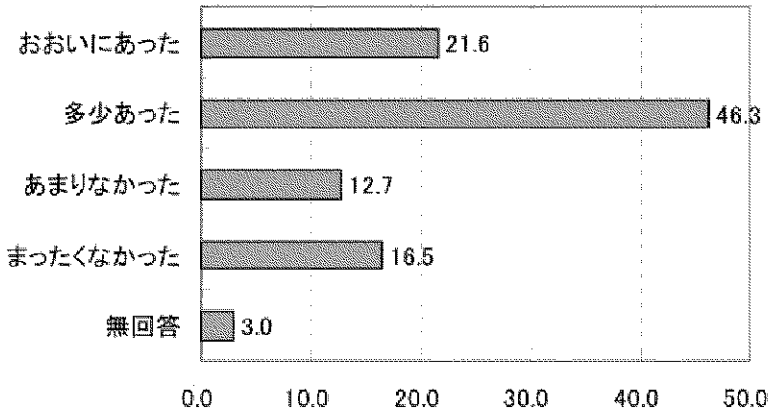
【⑤ストレス】

今回の調査では、ストレスについて、日本人を対象に過去に行われた質問紙調査の質問文にもとづき、ストレスに関する調査項目の設計を行った。ここ１ヶ月の日常生活におけるストレスについて質問したところ、多少あったという回答が最も多く 46%、おおいにあったが 21%であり、両者を合計すると、対象者のおよそ３分の２以上が日常生活で一定のストレスを経験していることが分かる。その具体的な内容については、「収入・家計のこと」と、「仕事上のこと」の選択率が非常に高く、前者が 57%、後者が 50%であった。「子どもの教育」や「母国にいる家族のこと」でストレスを感じている回答者も多く、前者が 28%、後者が 30%であった。

心理学やストレス研究でよく使われる心理的抑うつ度（ディストレス）についても、12 の具体的な質問項目を用いて調べた。抑うつ得点が４点以下という、比較的抑うつ度の低い回答者が全体の５割程度を占める一方、抑うつ度が 10 から 19 点の回答者が 16%、20 点以上の回答者が 6%いる。回答者の多くは、心理的抑うつ度はさほど高くないが、一部の回答者については抑うつ度の高い状況にあるようである。

**39　あなたはこの１ヶ月に日常生活で不満、不安、悩み、苦労などのストレスを感じたことがありましたか。**

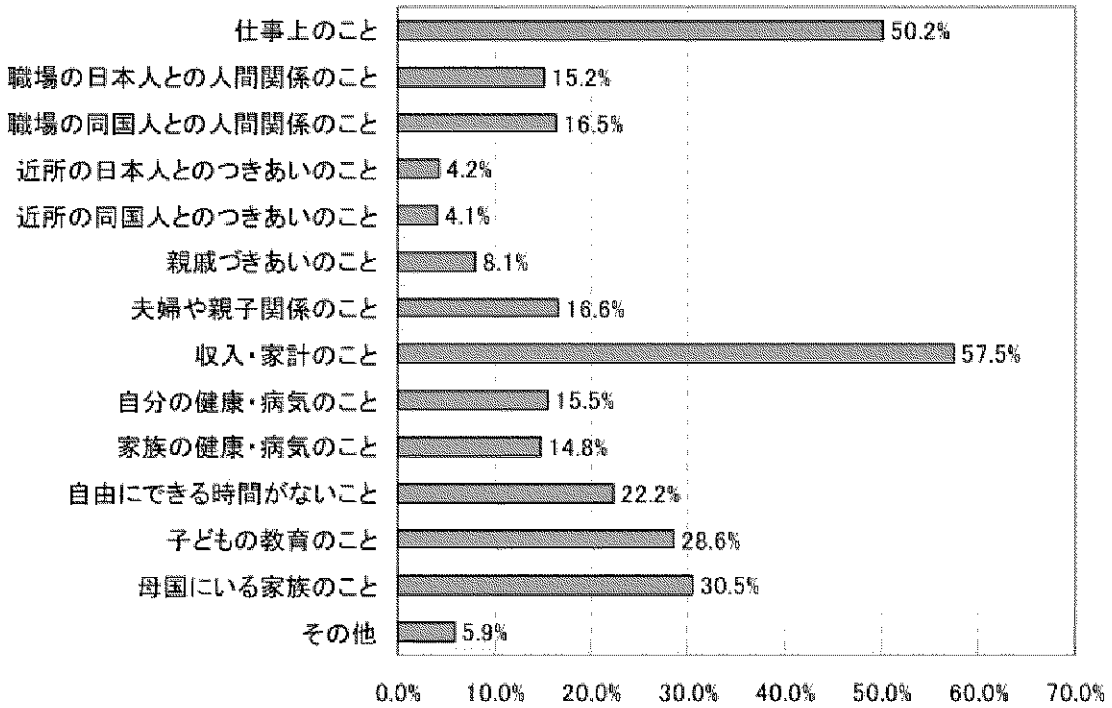
表 39　ここ１ヶ月の日常生活におけるストレス




本調査では、日常生活の悩み、ストレスについて質問した。この１ヶ月にストレスを感じたかという質問に、『おおいにあった」という回答は、全体の 21%である。「多少あった』という回答も合計すると、３分の２の回答者が日常生活にストレスを感じているという。「あまりなかった」は 12%、「まったくなかった」は 16%である。３割に満たない回答者はさほどストレスを感じていないようである。

40　ストレスを感じることが「おおいになった」「多少あった」と答えた方におたずねします。そのストレスはどのような内容のものでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

図 40　ストレスの内容（N=850）




つぎに、ストレスの内容についてたずねてみた。なお、各項目の選択率を算出するに際しては、ここ１ヶ月のストレスの質問で、「おおいにあった」と「多少あった」に回答した 850 名を分母としている。

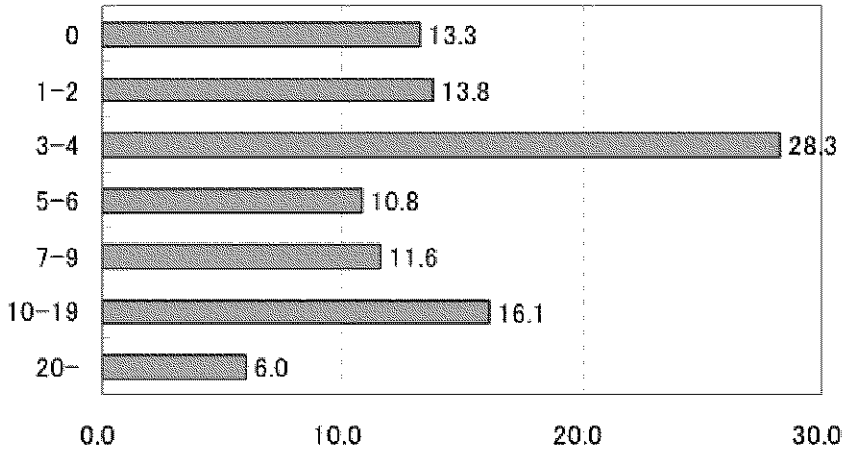
選択率が５割を超えているのは、「収入・家計のこと」と「仕事上のこと」の２つであった。いずれも職業や所得といった経済的な問題に関するものであり、これらが、浜松市に住む南米出身の外国人のストレスにおいて顕著な問題となっていることがうかがえる。

選択率が２割を超えているのは、「母国の家族のこと」、「子どもの教育のこと」、「自由にできる時間がないこと」であった。トランスナショナルな移動を経た人たちにとって、母国に残してきた家族は、主要なストレス源の１つとなっているようである。また、子どもの教育のことも、悩ましい問題である。子どもたちをどのように教育していくかということは、子どもたちが今後母国と日本、どちらに足場をおいて生きていくかを考えるとき、非常に重要な問題である。親たちにとっても、こうした問題がストレス源の１つとなっている。

他方で、人間関係・近所づきあいは、それほど大きなストレス源とはなっていないようである。「近所づきあい」に関係する選択率はいずれも 5%を下回っている。そのことから、回答者にとって近隣での人間関係が疎遠であることがうかがえる。

41　この１週間のあなたのからだや心の状態についてお聞きします。以下のような気分やことがらをどのくらい経験しましたか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

図 41　心理的抑うつ度（N=731）




ここでは、心理学、ストレス研究などでよく使われる心理的抑うつ度を 12 の設問を用いて質問した（質問項目については単純集計結果一覧を参照）。心理的な抑うつ状況は、個々の設問単位の測定状況を考察するというよりも、これらの設問を合計したもので分析が行われることが多い。本報告でも、これらの点数を合計したものを用いてその集計結果を紹介する。最低値が 0、最高値が 36 である。この表では、パーセントの計算にあたり、12 の質問文にすべて回答したもののみを分母としている。

分析結果を見ると、3-4 点の回答者が最も多く、28%である。0 点と 1-2 点は、それぞれ 13%であった。5 割以上の回答者が、心理的抑うつ得点が 4 点以下と、それほど高くないことが分かる。他方で、心理的抑うつ度が 10 点以上と高得点の者に注目する。10 点から 19 点の回答者が 16%であり、20 点以上が 6%であった。回答者の多くにとって、心理的抑うつはそれほど高くないようだが、一部の回答者については、抑うつ度の高い状況にあるようである。

【⑥社会的ネットワーク】

今回の調査では、外国人のパーソナル・ネットワークを把握するに当たり、重要なことや悩みを相談する人を 3 人あげてもらった。相談相手の属性について調べたところ、対象者からみて異性よりも同性を相談相手とする傾向が強く、年齢についても、20 代から 40 代が中心であった。相談相手のエスニシティについてたずねたところ、同国人が 64%と大半を占め、日本人は 4%、その他の外国人でも 3%程度にとどまった。相談相手と知り合った場所については、母国にいたときからが 17%、日本に来てからが 46%となった。南米出身の外国人は、同国人同士で付き合う傾向が強いものの、母国にいたときからのネットワークが、来日後も継続する反面、来日後に形成したネットワークも重要な要素となっているようである。相談相手と知り合った文脈については、職場の同僚が最も多く 31%、ついで家族・親戚が 21%であった。

相談相手 3 人それぞれの関係についてたずねたところ、相互に知り合いであるという回答が多くを占め、知り合いではないと思うという回答が少ない傾向が見られた。調査結果からは、相談相手にあがった 3 人は、それぞれ知り合いである可能性が高く、南米出身の外国人は相互に緊密度の高いネットワークを保持する傾向がみられる。

**42　あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人たちを 3 人思い浮かべてください（同居している人は除く）。その３人の方をかりにＡさん、Ｂさん、Ｃさんとします。Ａさん、Ｂさん、Ｃさんのプロフィール、お付き合いについておたずねします。あてはまる番号に○をつけてください。**

| | A さんについて<br>↓ | B さんについて<br>↓ | C さんについて<br>↓ |
|---|---|---|---|
| 性別 | (1) 女性<br>(2) 男性 | (1) 女性<br>(2) 男性 | (1) 女性<br>(2) 男性 |
| 年齢 | 歳 | 歳 | 歳 |
| その人は、次のうちどれにあてはまりますか（○は１つ） | (1)同国人<br>(2)その他の中南米出身者<br>(3)日本人<br>(4)中南米以外の外国人 | (1) 同国人<br>(2)その他の中南米出身者<br>(3)日本人<br>(4)中南米以外の外国人 | (1) 同国人<br>(2)その他の中南米出身者<br>(3)日本人<br>(4)中南米以外の外国人 |
| いつからの知り合いですか（○は１つ） | (1)母国にいたときから(日本に来る前から)<br>(2)日本に来てから<br>(3)その他 | (1)母国にいたときから(日本に来る前から)<br>(2)日本に来てから<br>(3)その他 | (1)母国にいたときから(日本に来る前から)<br>(2)日本に来てから<br>(3)その他 |
| どのようにして知り合いましたか（○は１つ） | (1)学校が同じ<br>(2)職場が同じ<br>(3)趣味を通して<br>(4)近所だった<br>(5)子どもを通じて<br>(6)同国人の集まり<br>(7)家族・親戚である | (1)学校が同じ<br>(2)職場が同じ<br>(3)趣味を通して<br>(4)近所だった<br>(5)子どもを通じて<br>(6)同国人の集まり<br>(7)家族・親戚である | (1)学校が同じ<br>(2)職場が同じ<br>(3)趣味を通して<br>(4)近所だった<br>(5)子どもを通じて<br>(6)同国人の集まり<br>(7)家族・親戚である |

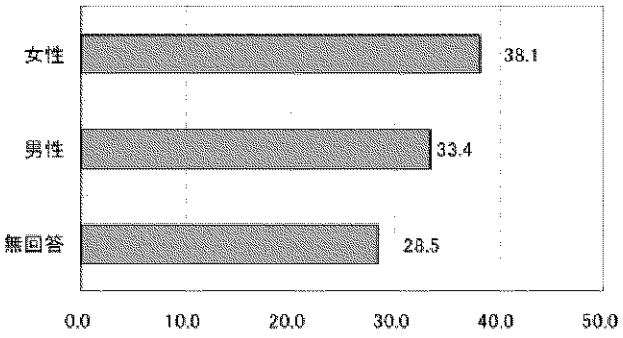
**43　それでは、Ａさん、Ｂさん、Ｃさん同士はどのようなご関係ですか。**

| ＡさんとＢさん | ＢさんとＣさん | ＣさんとＡさん |
|---|---|---|
| (1) 知り合いである<br>(2) 知り合いではないと思う | (1) 知り合いである<br>(2) 知り合いではないと思う | (1) 知り合いである<br>(2) 知り合いではないと思う |

本調査では、南米出身の外国人が重要なことを話したり、悩みを相談する人たちを 3 人思い浮かべてもらい、その 3 人の属性や 3 人相互の関係についてたずねた。はじめに、回答者が答えた 3 人の属性についてみていきたい。

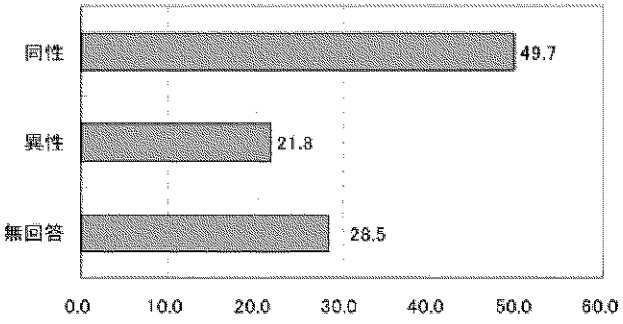
調査結果の記述に際しては、3 人の結果を合算したものを用いる。3 人の結果を合計しているため、パーセントの分母は 3756 となった。

図 42-1　相談相手の性別（N=3756）



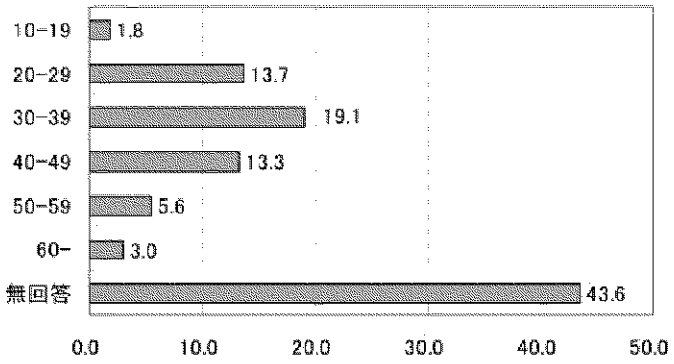

相談相手の性別に注目したところ、女性のほうが多く 38%、男性が 33%であった。

図 42-2　相談相手が同性か異性か（N=3756）



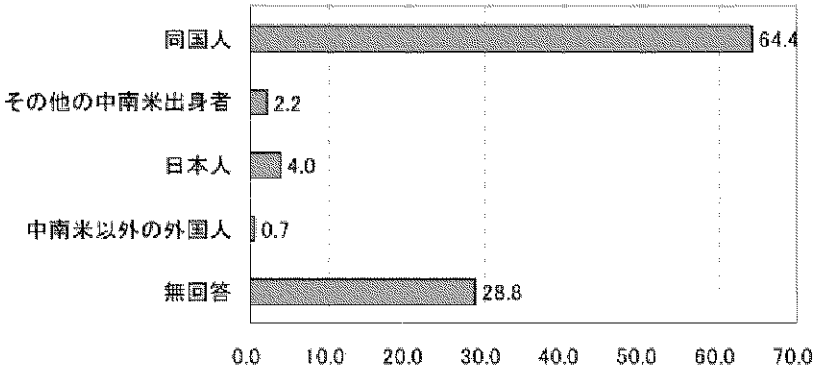

これについてはさらに、回答者の性別と比較して、同性か異性かに注目したところ、同性を重要な相談相手とする人のほうが多く、全体の 49%が同性を相談相手とし、21%が異性を相談相手としていた。

図 42-3　相談相手の年齢（N=3756）



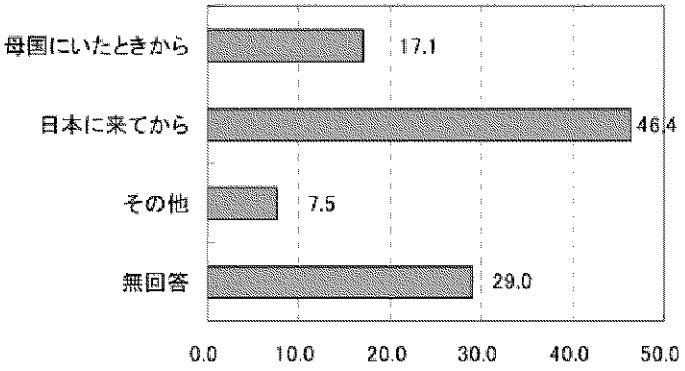
つぎに、相談相手の年齢に注目する。年齢では、回答者の年齢傾向を一定程度反映しているようである。20 代から 40 代に多く、30 代で 19%、20 代と 40 代はそれぞれともに 13%であった。50 代の比率も一定程度高く、5.6%であった。

図 42-4　相談相手のエスニシティ（N=3756）



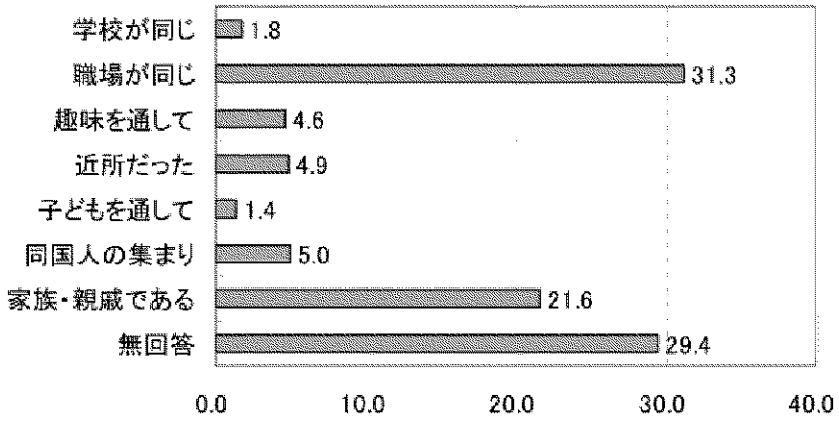

回答者のエスニシティについてたずねたところ、大半が同国人と回答している。全体では、64%が同国人を選択している。日本人、その他の南米出身者、南米以外の外国人が選択されることは非常に少ない。日本人が 4%、その他の南米出身者で 2%、南米以外の外国人ではわずかに 0.7%であった。

図 42-5　相談相手と知り合った場所（N=3756）



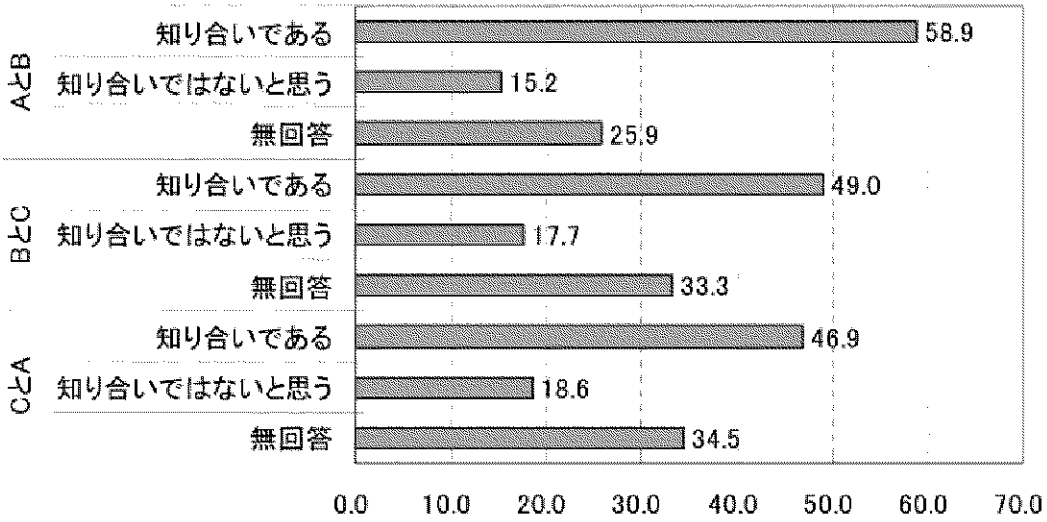

相談相手と知り合った場所についてたずねたところ、回答者の半数近くは、日本に来てから知り合ったと回答している。母国にいたときからの知り合いであるという回答も多く、17%である。その他が 7%であった。このように、南米出身の外国人は、同国人同士で付き合う傾向が強いものの、母国にいたときからのネットワークが、来日後も継続する反面、来日後に形成したネットワークも重要な要素となっているようである。

表 42-6　相談相手と知り合った文脈（N=3756）




最後に、相談相手と知り合った文脈についてたずねている。最も多い回答は「職場が同じ」であり、31%がこれを選択している。ついで「家族・親戚」であり、21%である。南米出身の外国人にとって、職場と家族・親族が、世帯外のネットワーク形成において重要なことがうかがえる。それ以外の項目は、選択率が1割を下回るものの、「同国人の集まり」、「近所だった」、「趣味を通して」はいずれも5%程度の選択率であった。

図 43　相談相手 3 人それぞれの関係（N=1252）




本調査では、回答者にあげてもらった 3 人相互の関係についてたずねた。A さんと B さん、B さんと C さん、C さんと A さんそれぞれの関係について、図にしてまとめてみた。それぞれ知り合いであるという回答が多いことが分かる。A さんと B さんとの関係では 58%、B さんと C さんとの関係では 49%、C さんと A さんとの関係では 46%であった。「知り合いではないと思う」は、A さんと B さんで 15%、B さんと C さんで 17%、C さんと A さんで 18%であった。

このように、相談相手にあがった 3 人がそれぞれ知り合いである可能性が高く、南米出身の外国人は相互に緊密度の強いネットワークを保持する傾向が強いようである。

【⑦地域生活】

地域の行事・活動への参加経験についてみると、同国人同士で開催する行事への参加経験が38%と最も高い反面、同国人団体への参加経験を持つ者は 6%と対照的である。キリスト教会などの宗教施設への参加経験率も高く、26%である。地域の行事への参加も27%と高いが、町内会・自治会となると7%まで低下する。

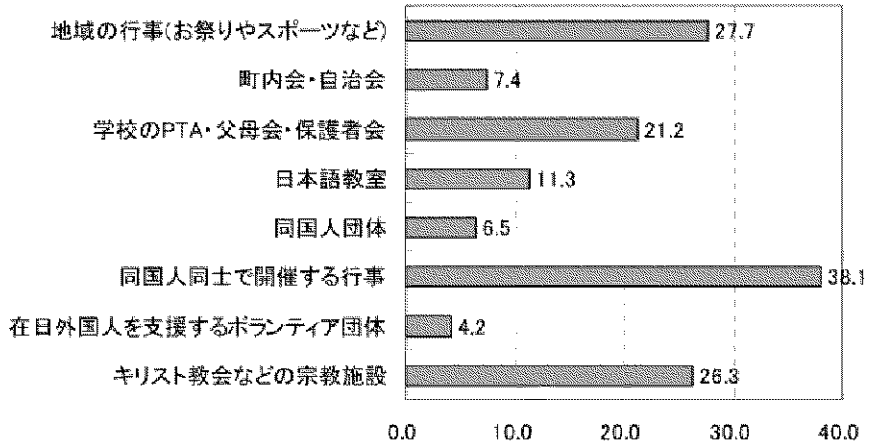
よく利用するメディア・情報源については、過去の調査でも質問されている。聞き方が異なるため、一概に比較できないものの、過去の調査と比べると、2006年ではインターネットを活用しているという回答が飛躍的に増加していることが分かる。1999年ではわずかに3%、2003年でも1%にすぎなかったが、2006年では68%と著しい。ただしこれは、過去の調査では「主な情報源」という聞き方をしているのに対して、今回は、「よく利用する情報源」という形で質問しており、聞き方の相違が、結果の相違をもたらしている可能性も否定できない。今回の調査では、他にも、母国語で書かれた新聞、ラジオ・テレビ、雑誌の利用率が高い。市役所のポルトガル語版広報も33%と活用されている。

育児・子育て、仕事の内容、給料、余暇、日本人、同国人との関係、生活全般についての満足度についてたずねた。いずれの項目も、満足、どちらかといえば満足という回答が多くを占めている。日本での生活全般への満足度が最も高く、回答者の8割以上が満足と回答する。現在の給料については最も満足度が低く、満足という回答は6割程度にとどまっている。

防災に関連しては、避難場所の認知程度しか対策がとられていない。今後、防災意識の啓発が求められるだろう。

**44　あなたは以下にあげる団体や活動に参加したことがありますか（○はいくつでも）。**

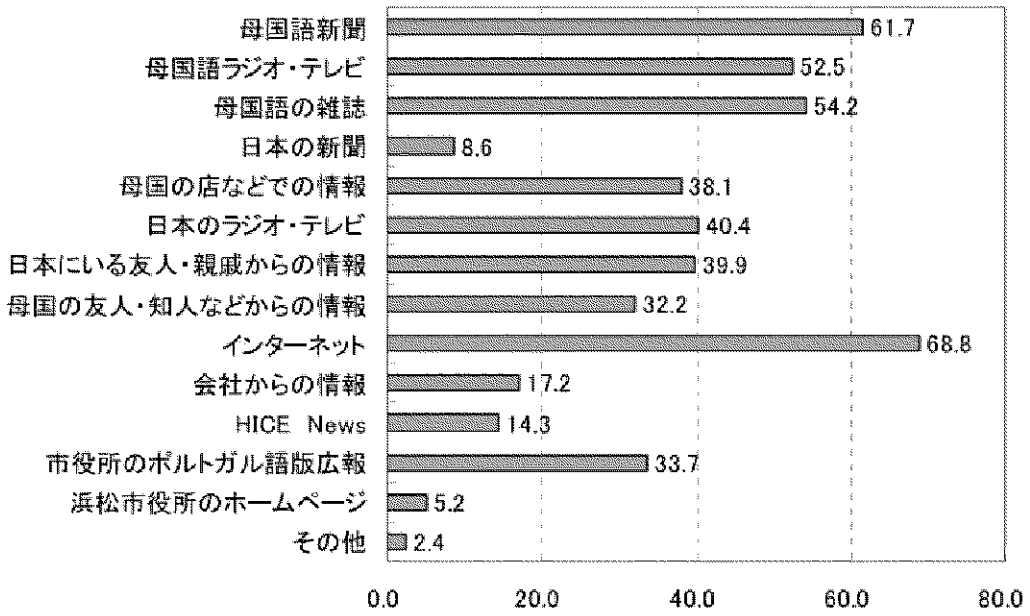
図44　地域の団体・活動への参加状況




地域社会の団体や活動に、南米出身の外国人は、どの程度参加しているのであろうか。本調査では、以下にあげる8つの項目についての参加経験の有無についてたずねた。同国人同士で開催する行事への参加率が最も高く、38%である。ついで多いのが地域の行事であり27%である。また、宗教施設への参加者も多く、26%が参加経験ありと回答する。このような活動と比較して、日本語教室への参加率はそれほど高いものではないが、1割程度が参加経験ありと答えている。町内会・自治会、同国人団体、在日外国人支援のボランティア団体への参加率は、それほど高くなく、それぞれ7%、6%、4%であった。

45　よく利用するメディアや情報は何ですか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

図 45　利用するメディア・情報源



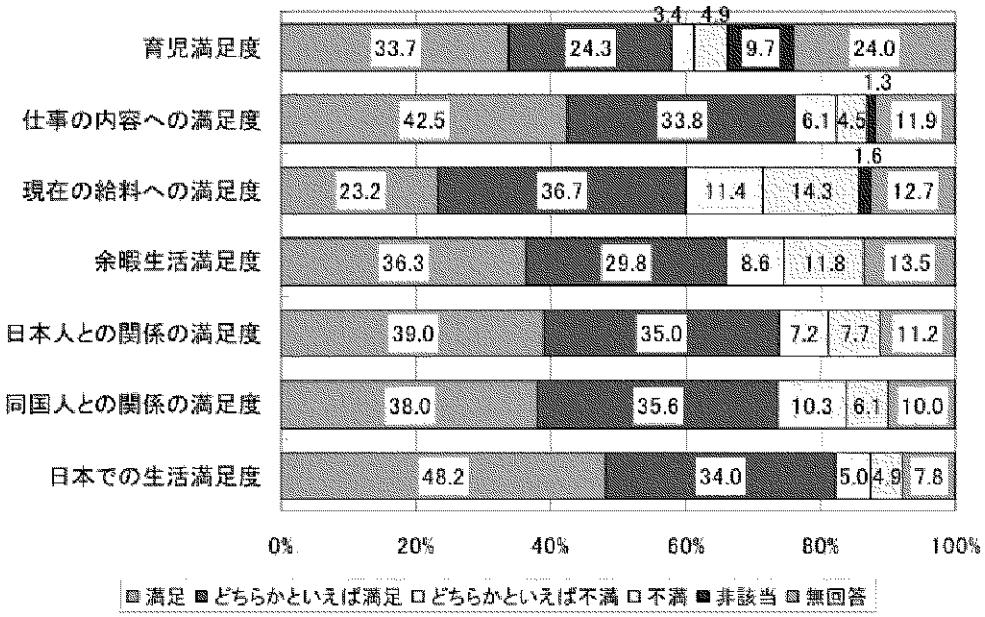

南米出身の外国人の中で、最も選択率の高いものがインターネットであり、選択率は 68%であった。新聞・テレビなど、他のマス・メディアより利用率が高い点も非常に印象的である。インターネットが、外国人にとっても大きく活用されている状況がうかがえる。ついで高いのが、母国語で発信・刊行されているマス・メディア（新聞、ラジオ・テレビ、雑誌）であり、いずれも選択率は 5 割を超えていた。

他方で、日本のマス・メディアについてみると、ラジオ・テレビは選択率が 4 割を超えるなどよく利用されている反面、新聞の利用は選択率が 1 割を下回っており非常に低調である。母国の店を通じた情報も活用されており、選択率は 38%である。また、ネットワークを通じた情報もよく利用されている。日本にいる友人・親戚からの情報が 39%、母国の知人からの情報も 32%が、よく利用すると答えている。

行政から発信される情報についてはどうか。市役所のポルトガル語版広報が最も高く、選択率は 33%であった。HICE　News は 14%が利用すると答えている。他方で、浜松市役所の HP については、よく利用するという回答はそれほど多くなく、5.2%にとどまる。本調査の外国人にとって、インターネットが活用されている反面、浜松市役所の HP はさほど活用されていないようである。

46　以下の項目について、あなたはどの程度満足していますか（○は１つずつ）。

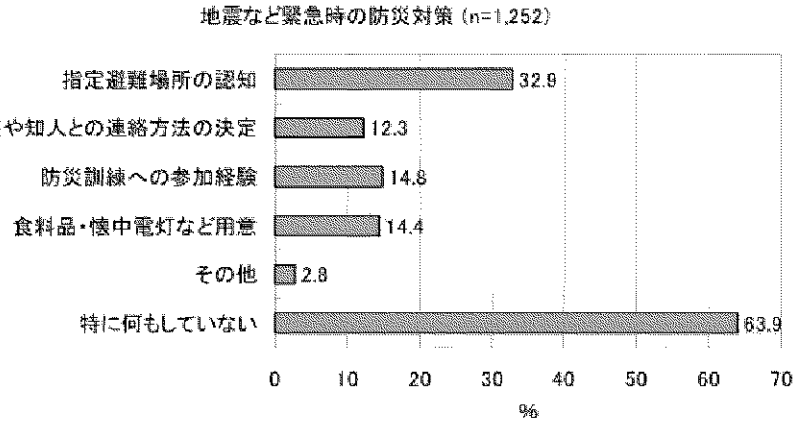
図 46　生活領域ごとの満足度




本調査では、生活領域ごとに区分した形で、生活満足度についてたずねた。質問した領域は、育児・子育て、現在の仕事の内容、現在の給料、余暇の過ごし方、日本人との関係、同国人との関係、日本での生活全般の７つである。いずれの項目も、満足、どちらかといえば満足という回答が、非常に多くを占めている。

最も満足度の高いのは日本での生活全般であり、「満足」と「どちらかといえば満足」を合計すると、回答者の８割以上が満足と回答している。逆に最も満足度の低いのは現在の給料であり、満足とどちらかといえば満足の合計は６割程度にとどまっている。給与水準と比べると、現在の仕事の内容の方が満足度は高い。およそ４分の３の回答者が、現在の仕事の内容に満足している。日本人や同国人との関係に対する満足度も、総じて高いようである。これらについても、およそ４分の３程度の回答者が満足しているようである。

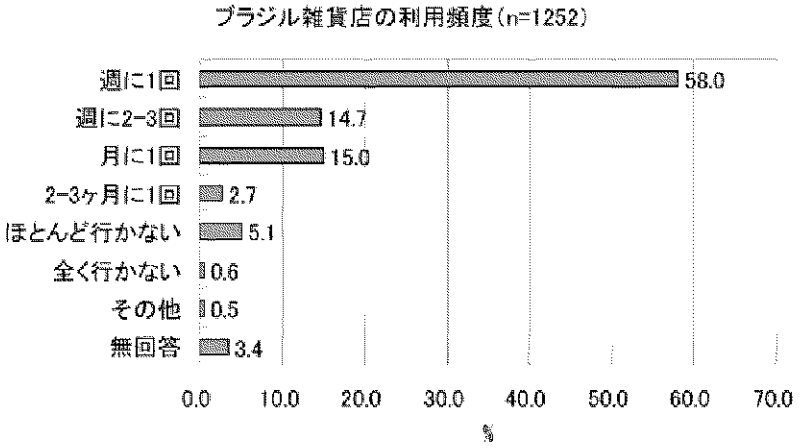
47　あなたは地震などの緊急時の（防災）対策をしていますか（○はいくつでも）。




静岡県下では東海地震に備えた防災施策が進められているが、「特に何もしていない」との回答が 63%で圧倒的多数を占めた。「指定避難場所の認知」も全体の３分の１程度でしかない。全般的に防災に対する意識の低調さがうかがえる。

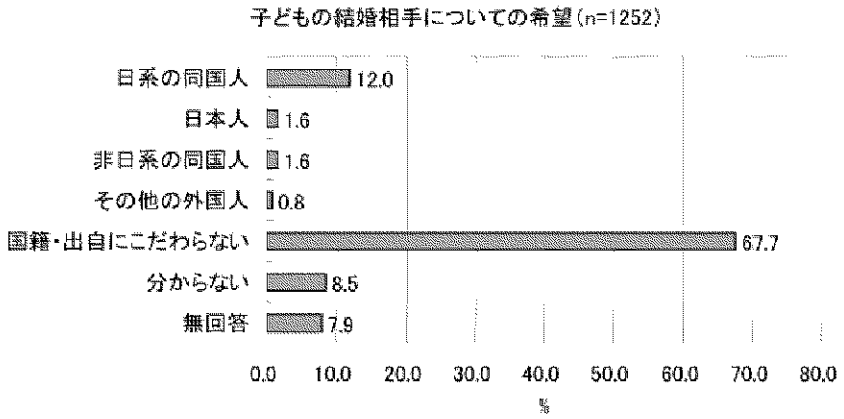
【⑧アイデンティティ】

48　どの頻度でブラジル雑貨店（中南米の商品の販売店）に行きますか（○は１つ）。



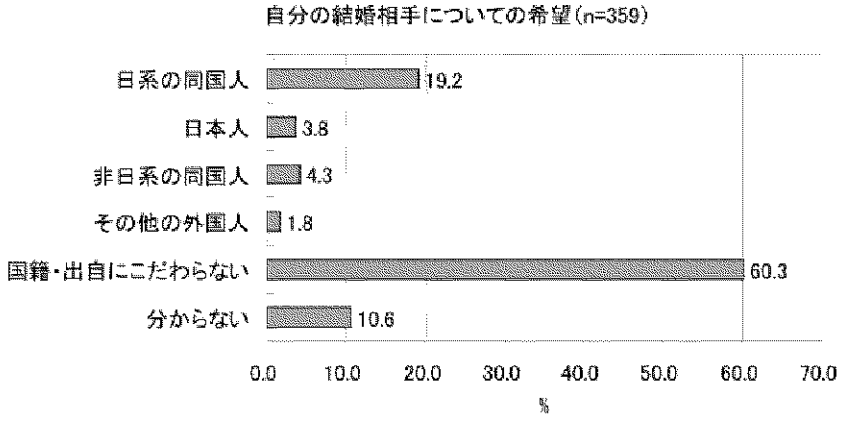

日常生活で、ブラジル雑貨店に行く頻度を聞いたところ、回答者の58%が週1回は行くと答えている。また、週に2, 3回通っていると答えた人が14%である。両者を合わせると４分の３近くの回答者が頻繁に通っていることになる。ブラジル雑貨店では主に食品が売られているが、雑誌、新聞、そして、ポルトガル語バージョンのコンピュータなども売られている。そのほか、お店の掲示板では、ブラジル人向けの仕事の募集や託児所の紹介など、様々な情報が見られる。以上のことから、浜松市に住んでいるブラジル人の４分の３は主にブラジルの食生活を維持しており、ブラジル人コミュニティ内の情報を頼りにしていることが推測できる。

49　将来的に、お子さんの結婚相手に関して、あなたはどちらかと言えば、どのような人と結婚してほしいですか。お子さんがいない方もお子さんがいると仮定してお答えください（○は１つ）。




子供の結婚相手に関する問いでは、「日系の同国人」が望ましいと答えているのは12%である。回答者の67%は相手の国籍・出自にはこだわらないと答えている一方、はっきりと「日本人」と「非日系人の同国人」が望ましいと答えているのはそれぞれ1%に過ぎない。また、「他の外国人」と答えたのはわずか0.8%である。ここから推測できるのは、日本に住んでいても、子供には、日本人や他の外国人より、自分の出身国の日系人と結婚してほしいと言う願望が見られることである。

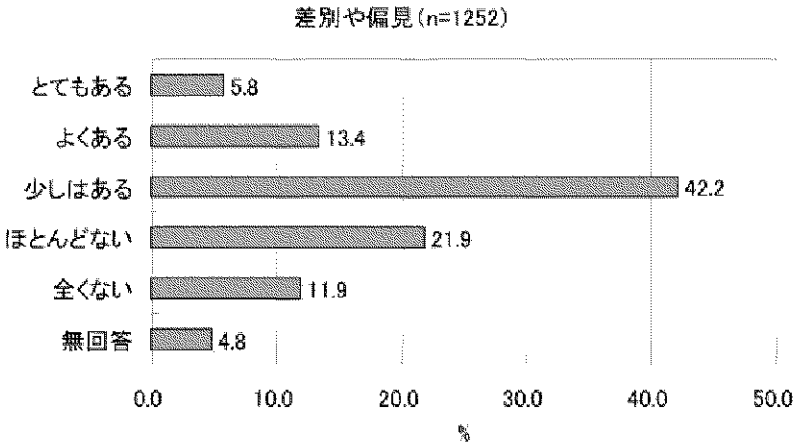
50　独身の方に限定しておうかがいします。あなたにとってどのような人が結婚相手として望ましいと思いますか（○は１つ）。




この設問は独身者に限定して回答を求めているため、有効回収総数の1252人から無回答の853人（独身ではないから回答しなかったと考えられる者）及び不詳の4人を差し引いた395人を分母として分析する。今回の調査では、9-2において回答者の配偶状況を尋ねている。そこでは独身（237人）・離別（73人）・死別（9人）・無回答（29人）の合計が348人となっており、この人数が配偶者を持たない者の最大数として想定される。本設問における分母（395人）はその最大数より多いため、回答の中には既婚者の回答も含まれると考えられる点に注意が必要である。

自分の結婚相手として望ましい人について聞いたところ、「日系の同国人」と答えた人は19%である。「相手の国籍・出自にこだわらない」と答えたのは60%である一方、「日本人」と答えたのは3%、「非日系の同国人」は4%、「他の外国人」は1%となっており、いずれもごく少数である。ただ、回答者の中でほぼ２割が「日系の同国人」とはっきりと答えており、さらに「国籍・出自にこだわらない」という回答には、日系の同国人でもよいという判断が含まれる点を考慮すると、日本に住んでいても、自分の家族は同じ日系人、そして同国人が望ましいと思っている人が大多数であると推測できる。

51　あなたは普段の生活の中で、日本人に差別されていると感じることはありますか。




日本人からの差別を感じるかという問いについては、1996年と1999年にも同じような質問がある。それらの結果を見ると、「頻繁にある」との回答は1996年と1999年の調査でそれぞれ19%、16%、また「ときどきある」との回答はそれぞれ60%、47%であった。本調査では、「とてもよくある」が5%、「よくある」が13%で、合計するとほぼ2割になる。また「少しはある」が42%であり、回答者の6割強が何らかの形で差別を「感じる」と答えている。質問の仕方が異なるので単純に比較できないが、日本人からの差別を感じている人は、1996年以降現在に至るまでも60%以上いることになる。

また、本調査では「ほとんどない」と答えた人が21%であり、全く感じないと答えているのは11%に過ぎない。1996年と1999年の調査で差別を（全く）感じていないと答えたのは、それぞれ14%、17%であった。先行調査の数字と比較して考えると、浜松市では外国人が多く在住し、また長期滞在している人が多いにもかかわらず、日本人との交流が盛んに行われているとは言い難い。また、仕事や生活の面で、日本人から何らかの差別を感じているため、外国人の日本社会への適応に問題が生じていることが読み取れる。

【⑨日本語学習】

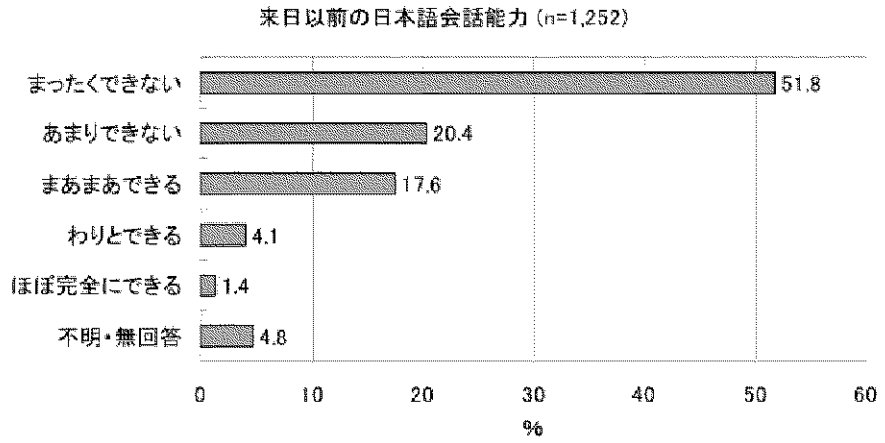
日本語能力については、1996 年、1999 年、2003 年の各年の調査で、ほぼ同じ形式と選択肢で質問されている。しかし今回の調査では、日本語能力をより詳細に把握するため、来日前の日本語会話能力と現在の日本語能力について詳細な設問を用意し、日本語学習についても質問した。

これまでの調査では、日本語能力を全般的にたずねる質問に対して、「読み書きともに可能」、「会話なら可能」、「何とか意思疎通が可能」、「少しなら聞き取りが可能」、「ほとんどできない」の 5 つの選択肢が用意され、いずれか一つを選ぶ形式だった。このうち「会話なら可能」との回答率は 1996 年が 10%、1999 年が 15%、2003 年が 24%と上昇していた。今回の調査では設問形式が異なり、会話能力自体について自分のレベルを回答する形であるため、単純な比較はできないが、「ほぼ完全にできる」と「わりとできる」を合わせると 29%、「まあまあできる」は 44%であった。これまでの調査の「会話なら可能」と今回の調査の（会話が）「まあまあできる」がほぼ同じレベルと仮定すれば、この間で日本語の会話能力はある程度高まったことが推測される。

つぎに読み書き能力の比較を試みる。先行調査では「読み書きともに可能」との回答率についても 1996 年が 9%、1999 年が 13%、2003 年が 19%と上昇していた。しかしそこではひらがな等と漢字の区別がなされていないし、読む能力と書く能力を分けずに質問していた。今回の調査では、ひらがな等を読む能力についてたずねたところ、「ほぼ完全にできる」と「わりとできる」の回答率は 38%であった（ただし、漢字を読む能力については「ほぼ完全」と「わりとできる」を合計してもわずか 3%でしかない）。書く能力については「ほぼ完全」と「わりとできる」を合計すると 7%、さらに「まあまあできる」を加えると 31%になる。日本語の場合、「読み書きともに可能」という評価はかなり幅広いが、今回の調査からはひらがな等を読んだり初歩的な日本語を書いたりできるレベルの人が 3 割ほどと見積もることができる。2003 年時点よりもひらがな等、簡単な日本語の読み書きに慣れてきた人が増えていることがうかがえる。

日本語学習の実態と希望については、1999 年調査で詳細な分析がなされている。今回の調査で初めて、来日前の日本語会話能力をたずねたところ、51%の人が日本語会話能力をまったく欠いた状態で来日したことがあきらかになった。日本語学習経験のない人は 1999 年の 51%から 2006 年の 36%へと減少している。日本語の学習希望についてみると、「学習したい」ないし「機会があれば学習したい」との回答率が 1999 年の 86%から 69%へと減じている。これは、十分な日本語能力を身につけた人が増えたからというよりも、日本語を使わなくても生活できる環境ができあがっているためと考えられる。

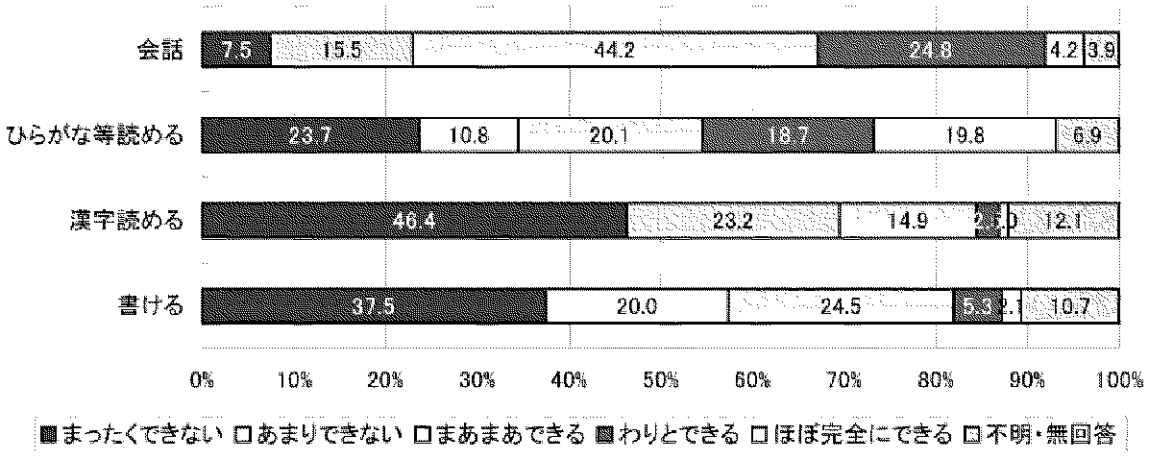
**52　あなたははじめて日本に来る前に、日本語での会話をどの程度できましたか（○は１つ）。**



日本語能力について、まず来日以前の段階における日本語での会話能力を尋ねた。「まったくできない」との回答が 51%で半数を超えていた。「あまりできない」の 20%と合計すると、7割を超える人が十分な日本語能力のない状態で来日したことがわかる。「わりとできる」と「ほぼ完全にできる」のように、日本語能力に自信を持って来日した者は1割にも達していない。

**53　あなたは日本語をどの程度理解していますか。あてはまるものにそれぞれ○をつけてください。**

現在の日本語能力 (n=1,252)




今回の調査では、日本語での会話、ひらがな・カタカナの読解、漢字の読解、日本語の作文能力という四つの指標を立て、現在の日本語能力について質問した。

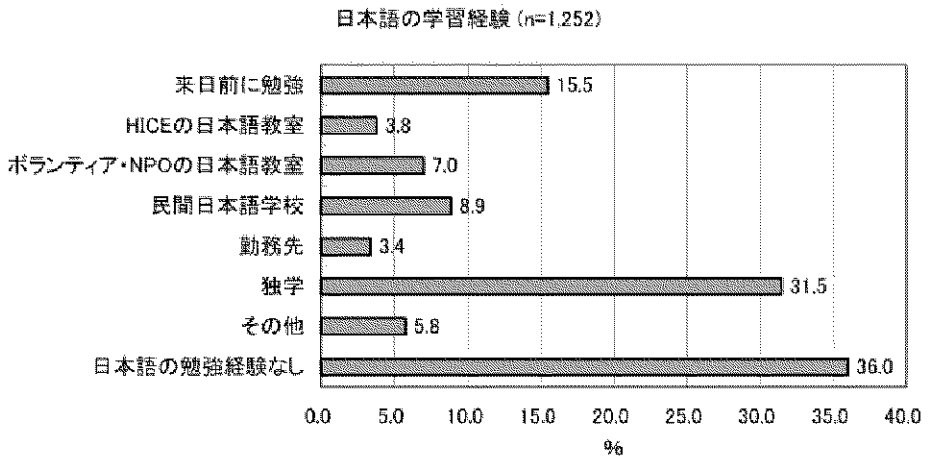
日本語での会話については、「まったくできない」が 7%、「あまりできない」が 15%であった。両者を合わせた否定的評価は 2 割強だが、これは四つの指標のなかではもっとも低い割合である。別言すれば、会話についてみると４人に１人は否定的自己評価をしているが、４人に３人は「まあまあできる」以上の肯定的な自己評価をしていることになる。

ひらがな・カタカナ等の読解については、「まったくできない」が 23%と増え、「あまりできない」と合わせると、約３分の１が否定的自己評価となっている。しかし、「ほぼ完全にできる」との回答がほぼ 2 割を占めている点に注目すべきである。外国人向けに日本語の文章を作成する場合、口語に近い表現を用い、さらにルビを振ることで、内容理解が深まる可能性が高まることが示唆される回答と言えよう。

それに対して漢字の読解については、「まったくできない」だけで 46%にも達している。「あまりできない」と合わせると、否定的自己評価は約 7 割を占める。日本語を読むことができる人にとっても漢字の壁が厚いことがうかがえる。

四点目の指標は日本語を書く能力である。ここではとくに漢字を含んだ作文能力とは限定しなかった。そのため、漢字の読解よりも、肯定的自己評価の割合は高くなった。しかしながら、６割弱は否定的自己評価をしている。会話と比べ、日本語の文書での情報発信には困難が大きいことが読み取れる。

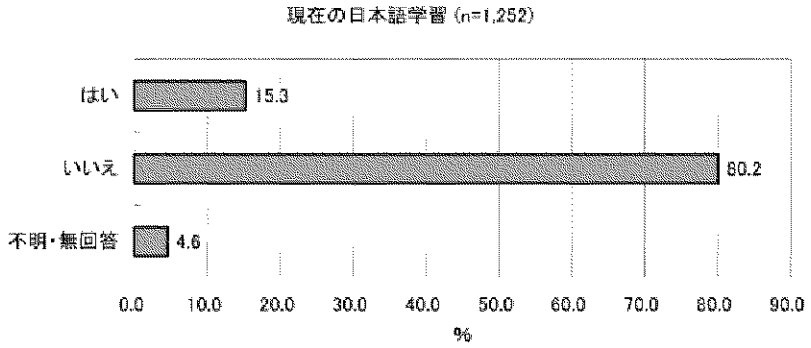
54　あなたは日本語を勉強したことがありますか（○はいくつでも）。




もっとも多かった回答は「日本語の勉強の経験がない」というものだった（36%）。日本語学習経験を有する人の場合、独学での学習が31%と最多であった。続いて来日前に勉強した人が15%を占めた。来日後に日本語教室等で勉強した人もいるが、民間の日本語学校で8%、ボランティア・NPOの日本語教室で7%と、いずれも1割に満たない。

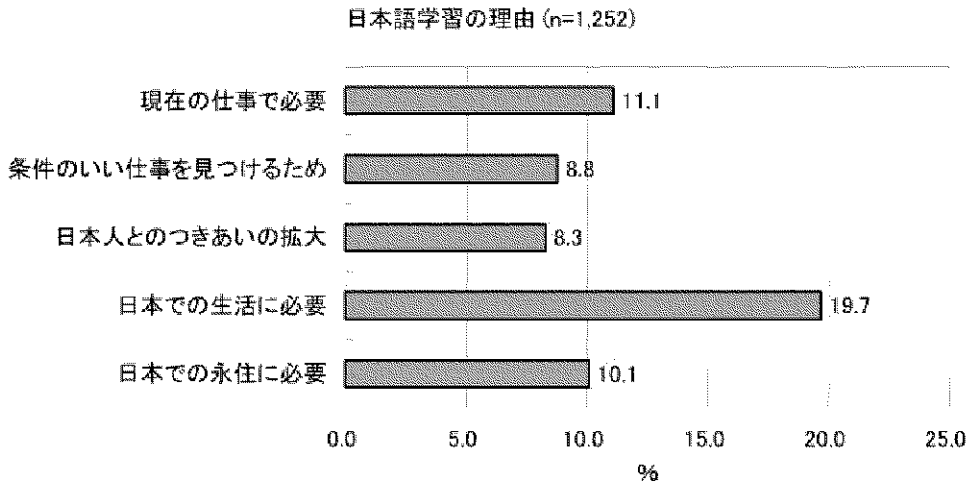
1999年調査にもほぼ同様の設問があるため、比較が可能である。独学で日本語を学んだ人の割合は、1999年調査で33%、今回の調査で31%とほぼ変わらない。しかし、来日前に勉強した人は1999年調査では28%だったが、今回は15%に減少している。1999年時点と比べて、日本に来る際に日本語を身につけておく必要性を感じる人が少なくなったからと理解できる。1999年調査との比較で注目すべきは、勤務先での学習経験の比率の変化である。1999年は勤務先で日本語を学習したと回答した者が18%いたが、今回の調査ではそれが3%に激減している。労働時間の延長に伴い、勤務先は労働以外の活動をする場所ではなくなってきたことがうかがえる。

55　あなたは現在日本語を学習していますか。




現在の日本語学習について尋ねたところ、「はい」との回答は15%、「いいえ」が80%を占めた。圧倒多数が現在は日本語を学習していないことが明らかになった。

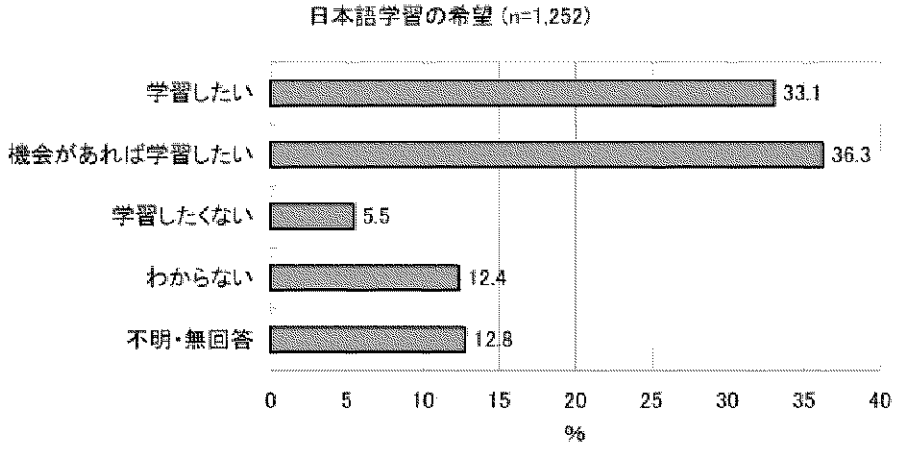
56　現在日本語を学習している理由は何ですか（○はいくつでも）。




この質問については設問の流れからすると、先の設問 55 で「はい」と回答した者（191 人）を分母とすべきだが、選択肢によっては回答数が 191 を上回るものもあったため、有効回収総数の 1252 を分母として比率を示した。

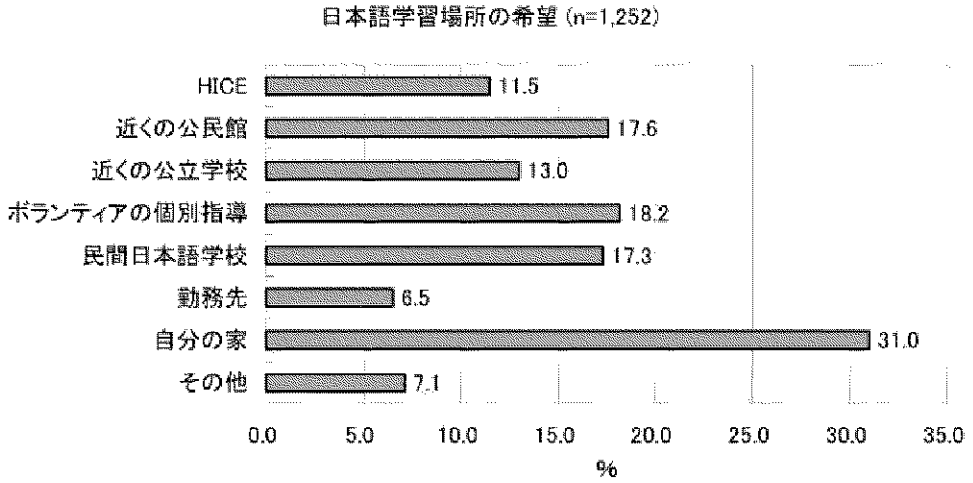
日本語学習の理由として一番多いのは「日本での生活に必要」という回答だった（19%）。あとは、「現在の仕事で必要」（11%）と「日本での永住に必要」（10%）がほぼ同率で続く。若干比率は低くなるが、「条件のいい仕事を見つめるため」(8%)、「日本人とのつきあいの拡大」(8%) も同程度に選択されていた。

57　あなたは今後日本語を学習したいと思いますか。



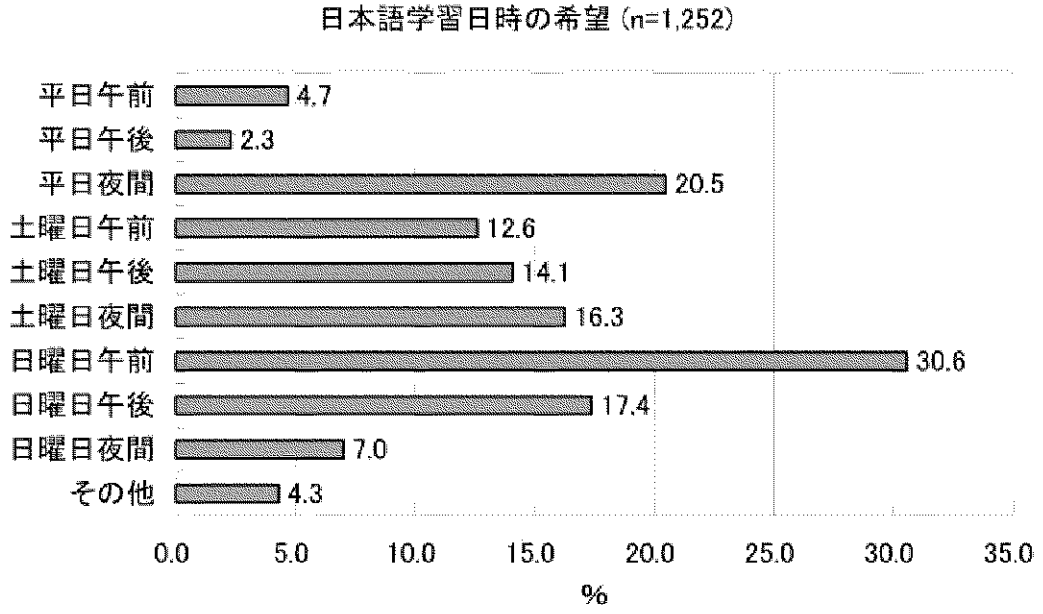

今後の日本語学習の希望を尋ねたところ、「学習したい」が 33%、「機会があれば学習したい」が 36%で、両者を合わせると約 7 割の人が日本語の学習に前向きの意向を示していた。しかし別の見方をすれば、約 3 割は日本で生活しながら日本語の学習について積極的姿勢を示していないとも言える。外国人が日本語能力を身につけ、日本社会で自活し社会参加できるようになってもらうためには、積極的学習意欲を持つ人への的確な学習機会の提供と同時に、消極的姿勢の人たちに対してどうやって学習の必要性を認識してもらうかが課題となろう。

58　あなたは今後どこで日本語を学習したいですか（○はいくつでも）。




日本語学習を希望する場所を尋ねたところ、もっとも多かった回答は「自分の家」（31%）であった。次に多かった「ボランティアの個別指導」（18%）と合わせると、ほぼ半数の人が自分の都合とレベルに合った個別的な指導を求めていることがうかがえる。「近くの公民館」（17%）や「近くの公立学校」（13%）など、近隣での学習機会を求める人もいた。それに対して勤務先での学習を希望する人は6%で少なかった。

59　あなたの日本語学習の希望日と時間帯を教えてください（○は３つまで）。



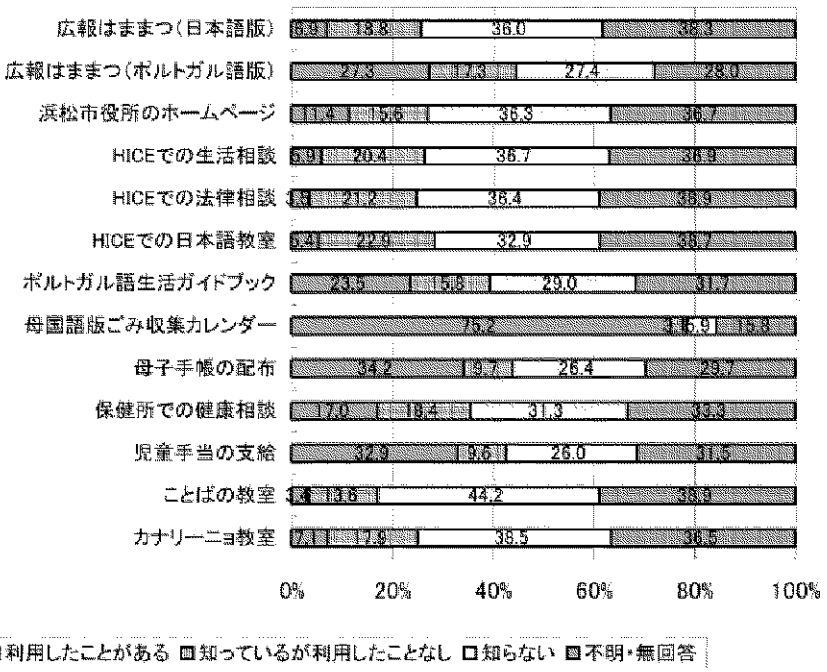

日本語学習の希望の曜日と時間帯に尋ねたところ、もっとも希望が多かったのは日曜日午前だった（30%）。次に平日夜間（20%）が続いた。土曜日も仕事がある少なくないと思われるため、土曜日の午前・午後の希望は平日夜間より少なかった。平日夜に学習し休日は休養や家族・友人と過ごしたい人と、平日は仕事（と休息）に専念し日曜日に学習したい人がいるのかもしれない。1999年調査と比較すると、日曜午前の希望はほぼ3割で変わらないが、日曜午後の希望が23%から17%に減少し、かわって平日夜間が15%から20%へと増加している。

【⑩行政サービス】

1999年調査では行政サービスの認知度について設問があったが、本調査では認知度と利用度を分けて把握した。その結果、認知度（知っていること）と利用度（実際に利用すること）の間には落差があることが浮き彫りになった。

**60　行政が行っている以下のサービスについて、利用したことはありますか。該当するものにそれぞれ１つずつ○をつけてください。**

行政サービスの認知と利用 (n=1252)




行政サービスのうちもっともよく利用されているのは「母国語版ごみ収集カレンダー」である。その比率は群を抜いて高く、75%が利用したことがあると回答している。ついで、母子手帳（34%）と児童手当（32%）がよく利用されている。行政からの情報提供についてみると、広報はままつ（ポルトガル語版）の利用が27%、ポルトガル語版生活ガイドブックの利用が23%となっており、紙媒体の有効性が現在でも変わらないことがうかがえる。他方で、HICE[5]での相談業務や日本語教室は、「知らない」と「不明・無回答」を合計すると７割に達しており認知度は低い。また、いずれも認知度に対して利用者比率が少なく１割に満たないため、効果的な広報が必要であろう。

ことばの教室[6]やカナリーニョ教室[7]は利用者比率がそれぞれ3%、7%と少ないが、これは本調査が子どものいる外国人のみを対象としているわけではないためと思われる。両者について知らないとの回答比率が高いことからもその点がうかがえる。

---

5　（財）浜松国際交流協会の略称。市民主役の国際交流・協力や地域共生の実現に向け取り組んでいる。

6　外国人児童生徒が学校生活に円滑に適応できるように言語や学習の指導を行う教室。正式名称は「外国人子ども教育支援教室」。

7　外国人の子どもの実情に合わせた多様な教育機会を提供するため、日本語及びポルトガル語のバイリンガルで、基本教科を子どもの教育水準に合わせて指導する教室。正式名称は「外国人児童学習サポート教室」。

【⑪教育】

子どもの就学先については、1999年・2003年調査でも設問を設けている。しかし、過去の調査と今回の調査では対象者の抽出方法、子どもの出生順位への考慮、及び複数回答の扱い方が異なっていると見受けられるため、経年的な比較は困難である。従って、変化については大きな事項のみ言及するにとどめておく。

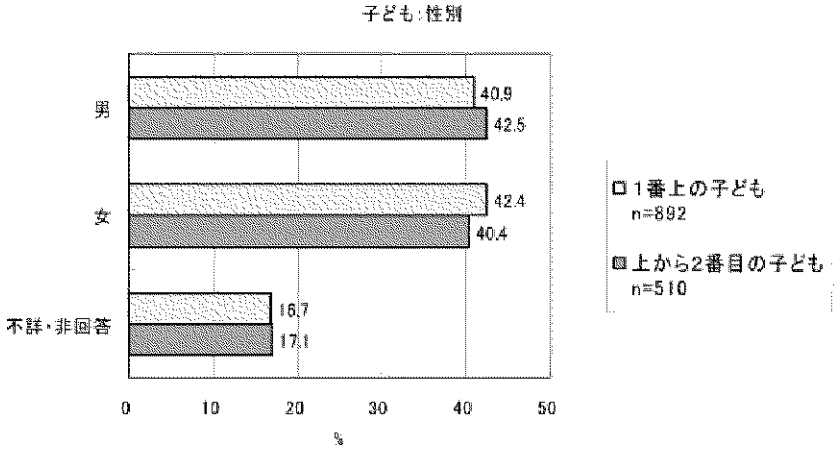
子どもの年齢構成をみると、第一子・第二子共に0～14歳に子ども全体の約6割が集中している。子どもの年齢が比較的低いためか、親と同居している子どもも6割強いる。子どもと別居の場合、子どもは日本国内よりも母国に居住している割合の方が高い。日本国内にいる別居子の割合は5%程度であるのに対し、母国での別居子の割合は12～13%となっている。

子どもの出生国をみると、約半数が母国、30%弱が日本となっている。約3割弱が第2世代ということになる。日本で出生した子どもの割合は、第一子で22%、第二子で30%である。一方、母国で生まれた子どもの初入国年齢をみると、出生順位にかかわらず約3割が0歳～4歳までの間に日本に入国しており、5歳～9歳で入国した子ども達を含めると、約8割の子ども達が比較的幼い頃から日本と接触を持っていることがわかる。もちろん、これらの数値から子ども達が日本に継続的に居住していたとは確定できない。その間、母国と日本との間を何度か往復した場合もあるであろう。しかし、日本を母国として育つ層も少なからず存在することは明らかである。

子どもの就学状況についてみると、「学校に在籍しているが不登校」、「学齢期だが不就学」の2項目を合わせて第一子では約2.0%、第二子では約3.9%の子どもが教育を受けていない状況に置かれている。第一子・第二子共に「学齢期だが不就学」の割合の方が、「学校に在籍しているが不登校」の割合よりも高い。1999年調査では「学校に通っていない」割合が約2%、2003年調査では「教育を受けさせていない」割合も約2%であった。第一子の割合で比較すると、不就学児童の割合にそれほど大きな変化は見られないが、第二子の割合で比較すると不就学児童の割合は上昇している。不登校より不就学が多いという事は、学校へ登校しなくなった子どもよりもそもそも学校に行っていない子どもが多いという事を示している。

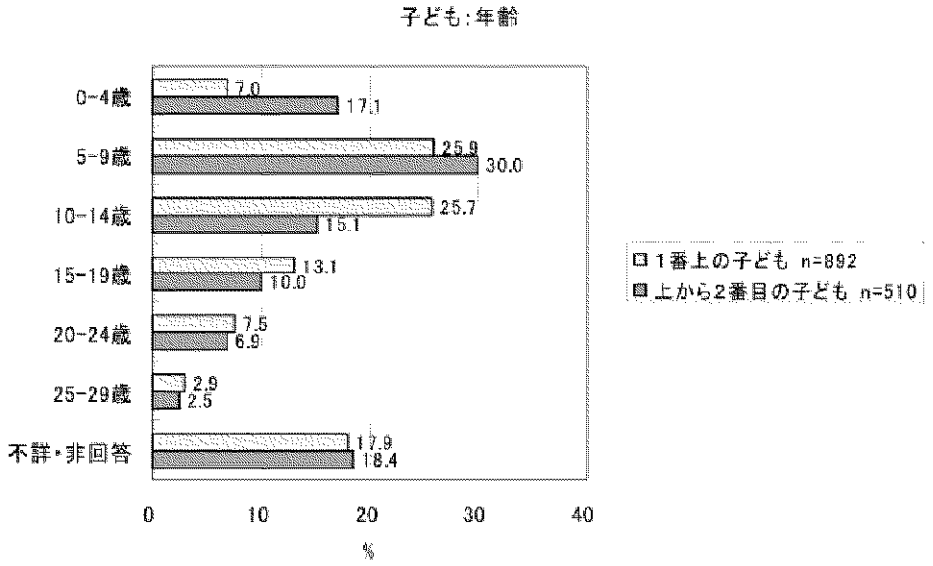
ブラジル人学校に通う児童の割合は、1999年調査では4%、2003年調査では26%であった。今回の調査では外国人学校（小・中・高）に通う児童の割合が第一子で35%、第二子で28%となっている。外国人学校の設置数や受入生徒数が増加したため、外国人学校に通う児童の割合は増えていると解釈できるが、この変化は外国人学校経由で抽出した対象者で配布した数が多かったためであるかもしれない。

**61　あなたのお子さんについて、お聞きします。お子さんが2人以上いる場合、上の2人についてお答えください。**

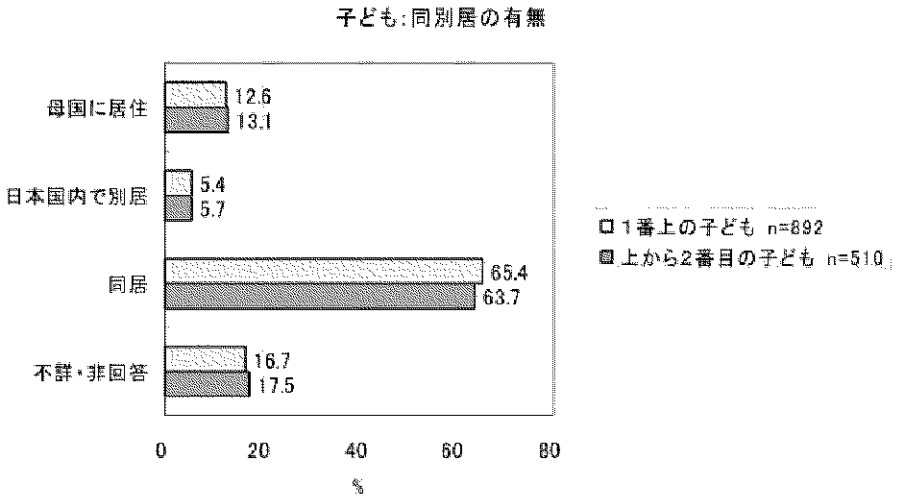


61 から 63 の子どもに関する設問は、「1番上の子ども」に関しては子どもがいる回答者を、「上から2番目の子ども」に関しては、子どもが2人以上いる回答者を対象として集計結果を算出している。

まず、子どもの性別であるが、第一子では男性が 40%、女性が 42%と女性が若干上回っている。第二子では男性が 40%、女性が 40%であった。

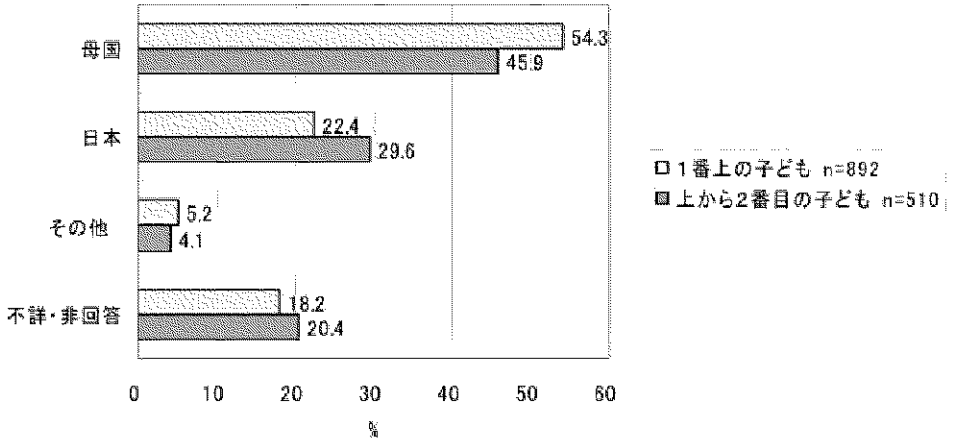



子どもの年齢構成をみると 0 歳～29 歳までの間に広く分布している。第一子では 5～9 歳が 25%、10～14 歳が 25%と 5～14 歳に全体の 51%が集中している。第二子では当然ながら第一子よりも年齢が低くなり、5～9 歳が 30%、0～4 歳が 17%と 0～9 歳で全体の 47%を占める。



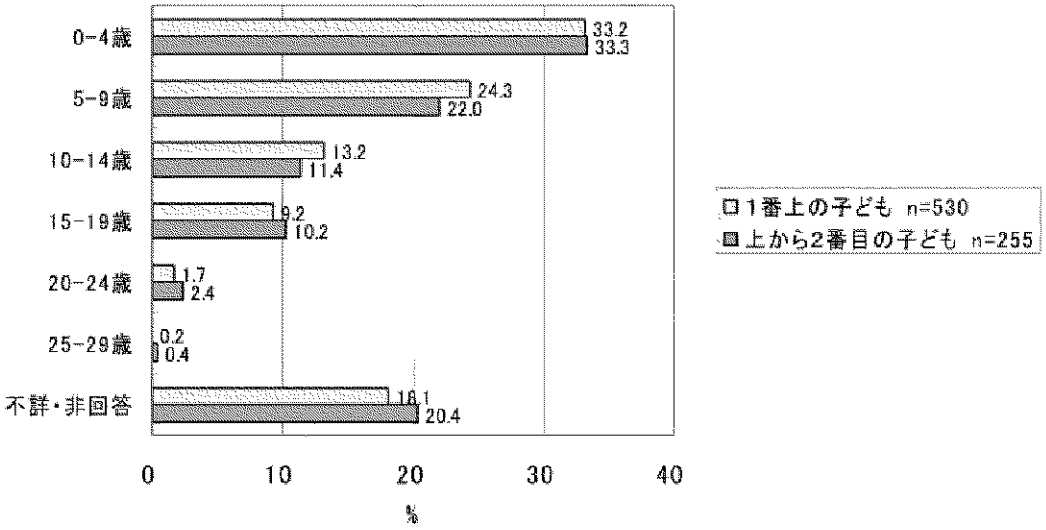

子どもと親との同別居状況をみると、第一子、第二子共に 63～65%が親と同居している。その一方、親と別居している子どもの割合は母国・日本国内合わせて第一子で 18%、第二子で 18%存在する。親と別居している子どもの居住先は、出生順位にかかわらず母国の方により多い。

子ども：生まれた場所



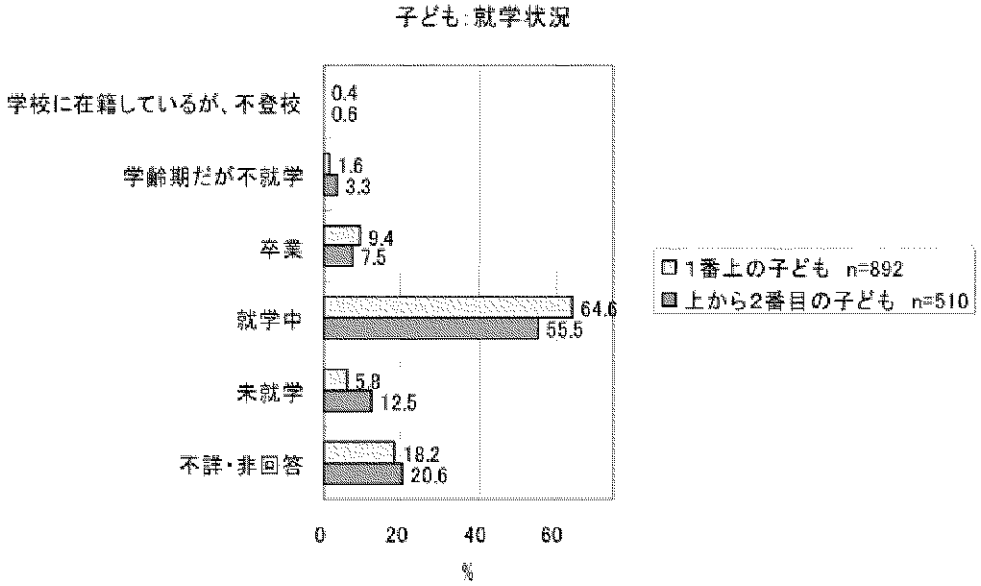

子どもが生まれた場所は、第一子では「母国」が 54%と半数以上を上回っている。一方、日本生まれも 22%存在する。第二子では、第一子よりも「母国」生まれの割合が低下し、「日本」生まれが 29%に達する。

子ども：初入国年齢




初入国の年齢は、「母国生まれ」を除いた上で集計を行った。第一子・第二子共に最も多いのは、0～4 歳で両方ともそれぞれの対象者の約 3 割を占める。続いて多いのが 5～9 歳で、どちらも 2 割を越える。年齢が高くなるにつれ初入国者の割合は低下する。

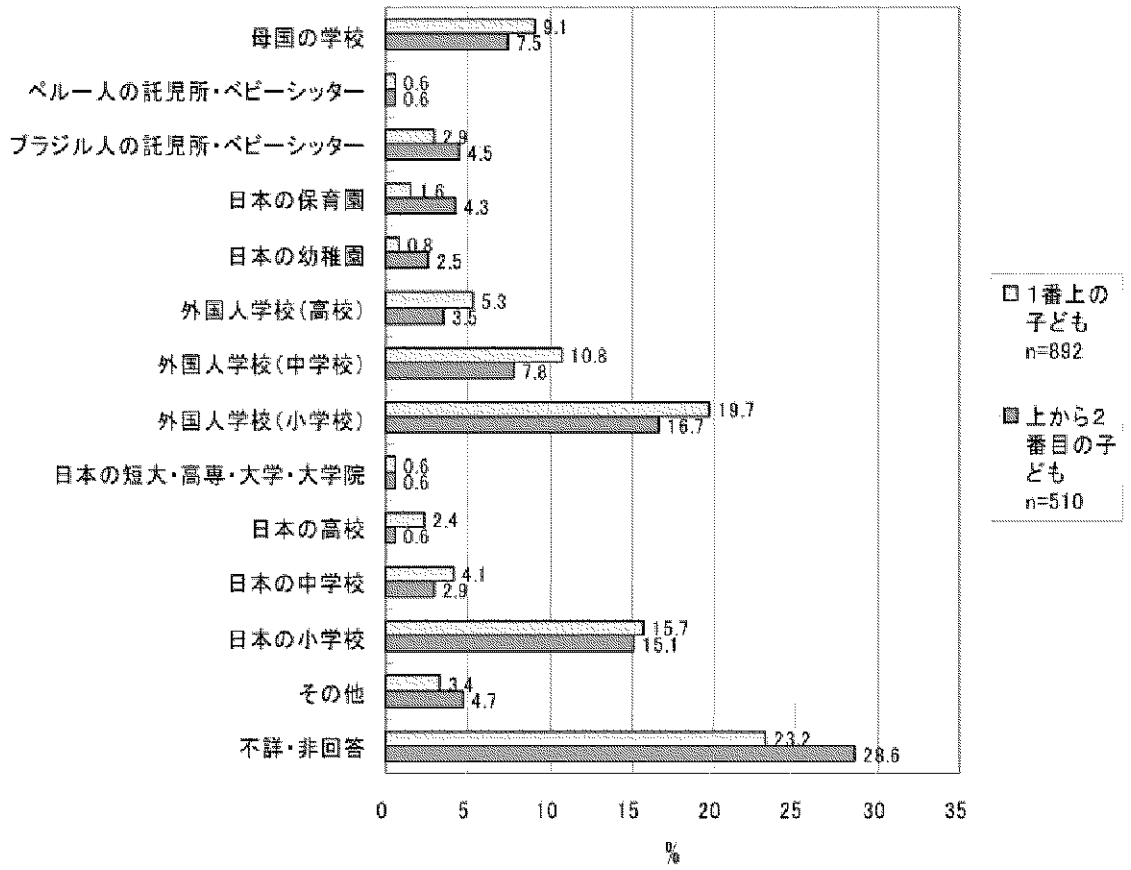
62　お子さんの就学状況について、当てはまるものに１つだけ○をつけてください。




第一子では「就学中」の割合が最も高く、約65%を占める。続いて「卒業」が9%、「未就学」が 5%、「学齢期だが不就学」(1%)、「学校に在籍しているが、不登校」(0%) の順であった。第二子の方が第一子よりも平均年齢が低いため、第二子では「就学中」が55%と第一子より低くなり、「未就学」が12%と高くなる。続いて「卒業」(7%)、「学齢期だが不就学」(3%)、「学校に在籍しているが、不登校」(0.6%) となっている。いわゆる不就学の状態にある「学校に在籍しているが、不登校」と「学齢期だが不就学」を会わせると、第一子が2%、第二子が3%と第二子で割合が高くなっている。

63　お子さんの就学している学校について、当てはまるものに１つだけ○をつけてください。
　　卒業したお子さんについては、最後に在籍した学校に１つだけ○をつけてください。

子ども:就学先




第一子の就学先では「外国人学校（小学校）」が 19%と最も多い。それに続くのが「日本の小学校」の 15%である。中学校では、「外国人学校（中学校）」（10%）の方が「日本の中学校」（4%）よりも就学割合が高い。「母国の学校」が 9%と比較的高い割合を示しているが、これは既に学校を卒業した対象者であろう。高校でも「外国人学校（高校）」の方が 5%と「日本の高校」の 2%を上回っている。一方、就学前児童では「ブラジル人の託児所・ベビーシッター」が 2%と最も高く、続いて「日本の保育園」（1%）、「日本の幼稚園」（0.8%）の順番となっている。

第二子の就学先は、「外国人学校（小学校）」が 16%、次が「日本の小学校」の 15%となっている。それに続いて「外国人学校（中学校）」の 7%、母国の学校の 7%になっている。第二子方が平均年齢は低いため、託児所、保育園、幼稚園への就学率が第一子よりも高い。就学前施設の就学割合をみると「ブラジル人の託児所・ベビーシッター」（4%）、「日本の保育園」（4%）、「日本の幼稚園」（2%）の順番になっている。

【⑫母国との関係】

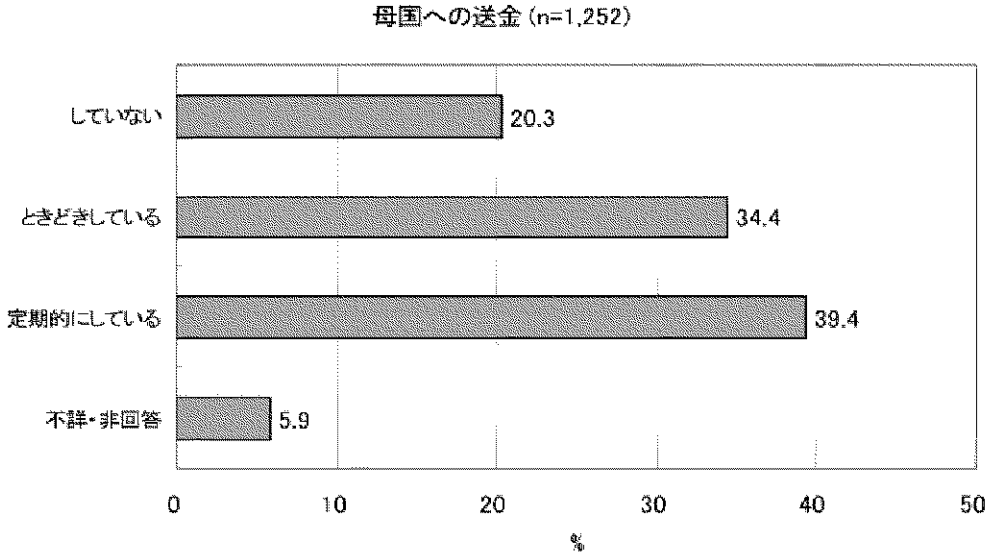
今回の調査では初めて母国への送金に関する設問を設けた。母国への送金は、「ときどきしている（34%）」と「定期的にしている（39%）」を合わせて 7 割を越えている。また、1 ヶ月の平均送金額は 50,000 円以上が 33%、10,000 円から 49,999 円が約 30%と比較的多額の送金を行っており、母国との絆の強さを示している。

日本における滞在予定に関しては、1999 年・2003 年調査でも同様の質問を行っている。しかし、今回調査とは選択肢が異なるため、比較は難しい。1999 年調査においては「当分の間日本で生活したい」が約 45%と最多を占め、続いて「2～3 年のうちには帰国予定」が 18%で 2 番目に多かった。2003 年調査ではこの二つの選択肢が逆転し、「2～3 年のうちに帰国」を選んだ者の割合が最も高く 27%であった。続いて「母国の状態をみて帰国」(21%)、「当分日本で生活したい」(20%)の両者が拮抗していた。今回の調査では、「できるだけ長く日本に滞在し、いずれは母国に帰国予定」の 39%が最多をしめた。それに続くのが「3 年以内に母国に帰国予定」の 21%である。2～3 年日本に滞在し、その後、帰国予定という比較的短期の滞在を意図している層の割合は 2 割前後と大きな変化は見られないが、できるだけ長く日本に滞在する、という意図をもった層が 40%近く存在する。「日本に定住・永住する予定」の者の割合は、1999 年調査で 7%、2003 年調査で 6%、今回調査では 5%であった。今回の調査では、企業経由の抽出者の割合が 4 割と高いため、「日本に永住する予定」の割合が比較的低く出た、とも考えられる。

そこで企業経由と企業経由以外の対象者を分け、日本での滞在予定の分布を比較したところ、次のようなことがわかった。まず、企業経由の対象者は「3 年以内に母国に帰国する予定」と回答した者の割合が 27%となっており、企業経由以外の対象者（18%）と比べて格段に高い。一方、企業経由以外の対象者は、「日本に永住する予定」（7%）と「できるだけ日本に長く滞在し、いずれは母国に帰国する予定」（44%）の割合が企業経由の対象者（それぞれ 4%、37%）に比べて高い。住宅や健康保険の加入状況同様、企業経由以外の抽出者における日本への定住志向の強さを示唆している。

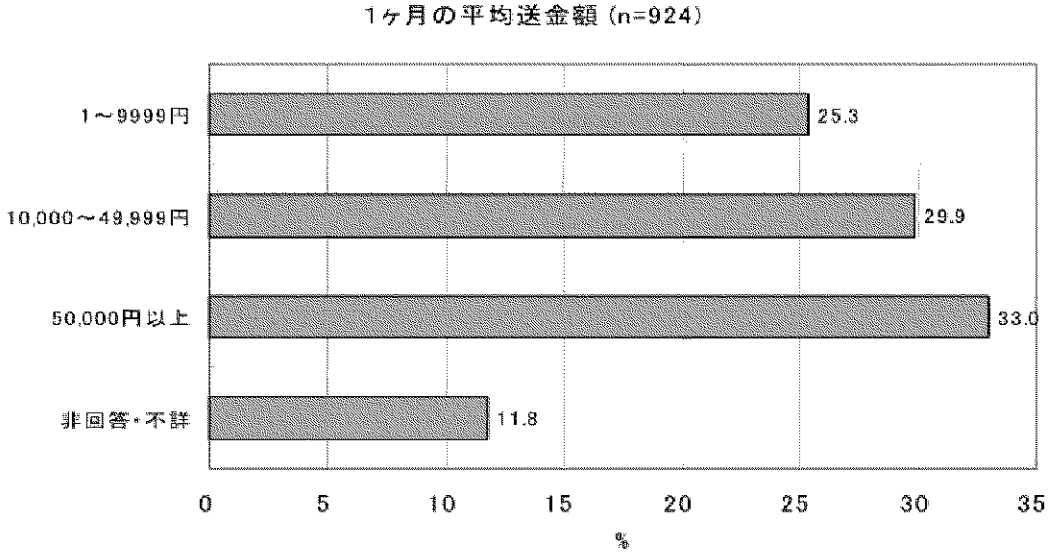
また、公立学校経由と外国人学校経由の対象者に分類して日本での滞在予定を比較したところ、以下のような傾向をつかむことができた。外国人学校経由者は、「日本に永住する予定」が 2%であるのに対し、公立学校経由者は 7%と高い。また、公立学校経由者は「母国と日本以外の国に行く予定」（3%）が、外国人学校経由者よりも比較的高い（1%）。逆に外国人学校経由者は「3 年以内に母国に帰国する予定」が 25%（公立学校対象者は 21%）と高かった。子どもを公立学校に通わせている対象者は、外国人学校に通わせている対象者と比べて日本への定住志向が強いことが示唆される。

64　あなたは母国に送金していますか。




母国への送金については、39%の対象者が「定期的にしている」と回答した。「ときどきしている」の 34%とあわせれば、全体の 73%が何らかの形で母国へ送金していることになる。

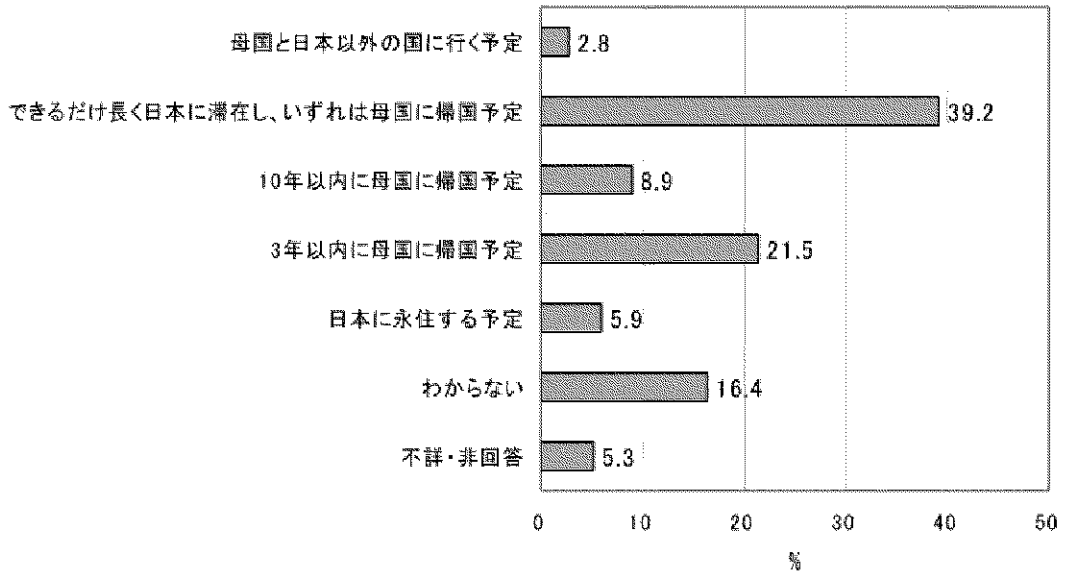
65　送金は１ヶ月平均だいたい、いくら位していますか。




１ヶ月の平均送金額は、50,000 円以上が 33%、10,000 円から 49,999 円が 30%と比較的多額の送金を行っており、母国との絆の強さを示唆している。

66　あなたは、今後の日本での滞在をどのようにお考えですか？　１つに○をつけて下さい。

今後の日本での滞在予定 (n=1,252)




今後の日本での滞在予定を聞いたところ、「できるだけ長く日本に滞在し、いずれは母国に帰国予定」の 39%が最も多い回答であった。3 年以内、10 年以内と時間的区切りを念頭において日本に滞在している対象者は「3 年以内に母国に帰国予定」(21%)、「10 年以内に母国に帰国予定」(8%) を合わせるとほぼ 3 割であった。その一方で、「わからない」と回答する者も 16%存在する。永住予定の回答者は 5%、母国と日本以外の第三国へ行く予定という回答者は 2%であった。

## 結び

今回の調査は、南米系外国人を対象に浜松市が実施したこれまでの調査と比較して、次の3点において特徴がある。

（1） サンプル数が1252部とこれまでになく大規模である。

（2） 外国人登録の無作為抽出に加えて、企業経由、外国人学校経由、公立学校経由と、多様なルートでサンプルを収集した。

（3） 雇用・労働や日本語学習、教育などの項目ではより詳細な設問としたほか、ストレスや社会的ネットワークなど、新たな調査項目を盛り込んだ。

今後さらに詳細なクロス分析を進める予定だが、単純集計の分析だけでも、いくつかの注目すべき事実が浮かび上がった。以下、要点をまとめる。

**【①基本属性】**

- 30歳代が4割近くを占め、20歳代と40歳代は2割程度。
- ブラジルが86%でペルーが10%。日本国籍は1%。出身地はサンパウロが6割近く。
- 1世は6%と少数。2世と3世がそれぞれ33%、38%で多数派。非日系も18%。
- 在留資格は、日本人の配偶者等、定住者、永住者がいずれもほぼ3割。永住資格を持たない者は全体の7割だが、全体の5割近くが永住資格取得を考えている。
- 配偶者との同居が66%、子どもとの同居が61%。1999年調査以降、家族帯同型の滞在が多数派。
- 通算滞日期間は多様化。12年以上の長期滞在者が全体の4分の1を占めるが、2年以下の短期滞在者も2割近くを占める。
- 1999年、2003年、2006年の調査で比較すると、通算来日回数が1回の比率は52%、45%、41%と低下。しかし、3回以上の比率は11%、15%、24%と上昇。日本とブラジルの間の国境を越えた移動形態が一部の層に広まりつつあると思われる。
- 母国での学歴は普通科高校卒業程度が多数。大卒以上は14%にとどまる。

**【②雇用・労働】**

- 派遣や請負の間接雇用が76%で圧倒多数。直接雇用は1割程度。比率はこれまでの調査とほぼ同じ。
- 従来と同様、自動車関連産業の製造業でブルーカラー系の肉体労働に従事する者が多い。
- 1日の労働時間は増加傾向。2003年と2006年の調査を比較すると、8時間程度の比率は51%から25%に急減したが、10～11時間が23%から37%に増加し、12時間以上も12%から15%へと微増。
- 1週間の労働日数も増加傾向。2003年と2006年の比較では、週当たり5日の比率は62%から53%へ低下するが、6日の比率は27%から33%へと上昇。
- 職場での勤続期間は、11ヶ月未満が34%と多数で、1年程度も20%。他方で5年以上在籍も17%。外国人のなかでも勤続期間の短い層と長い層に分化が認められる。

**【③居住】**

- 絶対数は多くないが、持ち家比率が上昇している点は注目に値する。1996年は1.4%、1999年は1.0%、2003年は2.2%だったが、2006年は3.7%に。住宅の購入は浜松市での長期滞在・定住志向を示唆。

・ 他方で、「会社の社宅や会社契約のアパート」の比率は1999年の35%、2003年の23%に対し、2006年は47%に上昇。企業経由の回答者の影響が考えられる。

【④医療・保険】

・ 医療保険の未加入者は1999年で50%、2003年で47%とこれまでの調査では約半数だったが、2006年は32%へと低下。しかしサンプリング方法によるバイアスの影響も考えられる。
・ 企業経由以外の回答者は7割弱がなんらかの健康保険に加入。企業経由の対象者より生活の安定している様子がうかがえる。

【⑤ストレス】*NEW!*

・ 対象者の3分の2が日常生活で一定のストレスを経験。具体的な内容は「収入・家計」と「仕事」の選択率が非常に高く50%。ついで「母国にいる家族」(30%)、「子どもの教育」(28%)がストレスの原因。他方で近隣関係がストレス源となるのは5%未満。近隣での人間関係の希薄さがうかがえる。
・ 心理的抑うつ度の低い回答者が5割程度を占める一方、抑うつ度の高い10点以上の回答者も多く、10～19点が16%、20点以上が6%。全般的には心理的抑うつ度がさほど高くないが、一部の回答者については抑うつ度の高い状況が認められる。

【⑥社会的ネットワーク】*NEW!*

・ 重要なことや悩みを相談する相手は同国人が64%で多数。知り合った場所は母国が17%だが、日本に来てからも46%。母国でのネットワークが来日後も継続する反面、来日後に形成されたネットワークも重要な要素。同僚が31%、家族・親戚が21%。
・ 相談相手は互いに知り合いである可能性が高く、相互に緊密度の高いネットワークを保持。

【⑦地域生活】

・ 同国人の行事への参加経験は38%と高いが、同国人団体となると6%と低調。キリスト教会など宗教施設への参加も26%と高い。地域の行事には27%が参加経験ありと回答するが、町内会・自治会にはわずかに7%。ネットワーク型の交友関係に比して、団体形成型の交友関係の機会が乏しいことがうかがえる。
・ 情報源としてはインターネットの利用が68%と圧倒多数。
・ 日本での生活全般に対する満足度は高く、回答者の8割以上が満足と回答。
・ 防災対策としては「何もしていない」が63%で多数。防災意識の低さが目立つ。

【⑧アイデンティティ】

・ ブラジル雑貨店に週に1回は行く回答者が58%で多数。ブラジルの食生活を維持すると同時に、コミュニティの情報を頼りにしていることがうかがえる。
・ 子どもの結婚相手として「日系の同国人」を挙げる回答は12%、自分の結婚相手としては19%。「国籍・出自にこだわらない」が60%台で多数だが、そこには「日系の同国人でも構わない」との意識も読み取れる。
・ 日本人からの差別を感じる人は、1996年調査から2006年調査に至るまでほぼ6割。

【⑨日本語学習】

・ 十分な日本語能力のないままで来日した人が7割以上。

- 現在の日本語能力についてみると、会話能力を「まあまあできる」以上に肯定的に自己評価する者が4分の3。
- ひらがな等の読解では「ほぼ完全にできる」と「わりとできる」が 2 割ずつ。漢字の読解については7割が否定的自己評価なので、ルビ振りの有効性が示唆される。
- 日本語学習希望については、1999 年の 86%から 2006 年の 69%に減少。これは日本語を使わなくても生活できる環境ができあがっているためと考えられる。
- 日本語の学習を希望する者のほぼ半数が、自分の都合とレベルに合った個別的な指導を求めている。

**【⑩行政サービス】**

- 母国語版ごみ収集カレンダーの利用率が 75%で群を抜いて高い。
- 行政からの情報提供では、広報はままつポルトガル語版とポルトガル語版ガイドブックの利用がそれぞれ 27%、23%だが、浜松市のホームページ（ポルトガル語版）の利用は 11%と低い。情報源としてインターネットがかなりの割合で利用されていることを考慮すれば、外国人市民がよくアクセスするサイトにリンクを張ることで、市のホームページの利用者が増加する可能性もある。

**【⑪教育】**

- 回答者の子どもは約半数が母国で出生、3 割弱が日本で出生。比較的幼い時期から日本社会と接触を持つことが多く、日本を母国として育つ層も少なからず存在。
- 不登校と不就学を合わせると、第一子では 2%、第二子では 4%に及ぶ。
- サンプリング方法の影響も考えられるが、外国人学校に通う子どもは 1999 年調査で 4%、2003 年調査で 26%、2006 年調査では第一子で 35%、第二子では 28%。

**【⑫母国との関係】**

- 母国への送金を「ときどき」ないし「定期的」にしている回答者は 7 割以上。1 ヶ月の平均送金額が 5 万円以上の回答者も 3 分の 1。母国との絆の強さがうかがえる。
- できるだけ長く日本に滞在する、との意図を持った層が 4 割で最多。「3 年以内に帰国予定」が 2 割でそれに続く。
- 企業経由以外の対象者と企業経由の対象者を比較すると、「日本に永住予定」は前者が 7%で後者が 4%、「できるだけ日本に長く滞在」は前者が 44%で後者が 37%。前者については、居住状況や健康保険の加入状況でも示唆されたように、日本への定住志向の強さがうかがえる。

# 単純集計結果一覧

1. 単純集計では次の2つの場合に分けて表示している。
   (1)選択肢のひとつを回答する場合
      無回答分も含わせて合計値(有効回収総数分の 1252)を表示。
   (2)複数回答が可能な場合
      選択肢ごとの回答数を表示し、合計値は表示せず。
   いずれの場合も、パーセントは有効回収総数の 1252 を分母として計算している。

2. なお、問 25 については、不適切な選択肢が含まれていたため、測定結果の信頼性に欠けると判断される。そのため、今回の集計からは除外した。

## 【①基本属性】

### 1 性別

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性 | 547 | 43.7 |
| 男性 | 689 | 55.0 |
| 無回答 | 16 | 1.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 2 年齢

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 10-19 | 34 | 2.7 |
| 20-29 | 284 | 22.7 |
| 30-39 | 472 | 37.7 |
| 40-49 | 305 | 24.4 |
| 50-59 | 100 | 8.0 |
| 60-69 | 13 | 1.0 |
| 無回答 | 44 | 3.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 3 国籍(二重国籍の場合、○は2つ)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| ブラジル | 1081 | 86.3 |
| ペルー | 126 | 10.1 |
| 日本 | 13 | 1.0 |
| その他 | 11 | 0.9 |
| 無回答 | 21 | 1.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 4 出身地域(州、市)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| Amazonas | 2 | 0.2 |
| Maranhao | 1 | 0.1 |
| Piaui | 1 | 0.1 |
| Ceara | 1 | 0.1 |
| Pernambuco | 3 | 0.2 |
| Mato Grosso | 16 | 1.3 |
| Mato Grosso Do Sul | 17 | 1.4 |
| Goias | 4 | 0.3 |
| Brasilia | 7 | 0.6 |
| Minas Gerais | 15 | 1.2 |
| Rio De Janeiro | 24 | 1.9 |
| Sao Paulo | 730 | 58.3 |
| Parana | 140 | 11.2 |
| Santa Catarina | 4 | 0.3 |
| Rio Grande Do Sul | 5 | 0.4 |
| Shizuoka | 20 | 1.6 |
| Kanagawa | 7 | 0.6 |
| Aichi | 8 | 0.6 |
| Ibaraki | 3 | 0.2 |
| Saitama | 1 | 0.1 |
| Niigata | 2 | 0.2 |
| Tokyo | 2 | 0.2 |
| Gifu | 1 | 0.1 |
| Fukushima | 1 | 0.1 |
| Chiba | 1 | 0.1 |
| Tochigi | 2 | 0.2 |
| Osaka | 1 | 0.1 |
| Mie | 2 | 0.2 |
| Yamanashi | 1 | 0.1 |
| Gunma | 1 | 0.1 |
| Nagano | 1 | 0.1 |
| Hiroshima | 1 | 0.1 |
| Fukui | 1 | 0.1 |
| Toyama | 1 | 0.1 |
| Arequipa | 1 | 0.1 |
| Callao | 8 | 0.6 |
| Huancavelica | 1 | 0.1 |
| Lima | 68 | 5.4 |
| Ucayali | 1 | 0.1 |
| Peru | 4 | 0.3 |
| BuenosAires | 1 | 0.1 |
| Paraquay | 4 | 0.3 |
| | 0 | 0.0 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 5 日系の何世か

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1世 | 76 | 6.1 |
| 2世 | 425 | 33.9 |
| 3世 | 479 | 38.3 |
| 4世 | 16 | 1.3 |
| 非日系 | 227 | 18.1 |
| その他 | 5 | 0.4 |
| 無回答 | 24 | 1.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 6 在留資格

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 永住者 | 346 | 27.6 |
| 日本人の配偶者等 | 392 | 31.3 |
| 定住者 | 384 | 30.7 |
| 日本国籍 | 23 | 1.8 |
| その他 | 50 | 4.0 |
| 無回答 | 57 | 4.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 7 永住資格について

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 永住資格はもっている | 361 | 28.8 |
| 永住資格取得を考えている | 603 | 48.2 |
| 資格取得は考えていない | 166 | 13.3 |
| 日本国籍 | 18 | 1.4 |
| その他 | 47 | 3.8 |
| 無回答 | 57 | 4.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 8 現在、外国人登録をしている場所

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 浜松市 | 1000 | 79.9 |
| 静岡県内 | 75 | 6.0 |
| 愛知県 | 40 | 3.2 |
| その他 | 97 | 7.7 |
| 日本国籍 | 14 | 1.1 |
| 無回答 | 26 | 2.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 9 世帯の人数

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1人 | 177 | 14.1 |
| 2人 | 232 | 18.5 |
| 3人 | 346 | 27.6 |
| 4人 | 306 | 24.4 |
| 5人 | 99 | 7.9 |
| 6人 | 23 | 1.8 |
| 7人 | 10 | 0.8 |
| 8人以上 | 11 | 0.9 |
| 無回答 | 48 | 3.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 9-1 世帯構成（複数回答可）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 配偶者 | 830 | 66.3 |
| 子ども | 764 | 61.0 |
| 兄弟姉妹 | 92 | 7.3 |
| 父 | 53 | 4.2 |
| 母 | 63 | 5.0 |
| 配偶者の父 | 14 | 1.1 |
| 配偶者の母 | 17 | 1.4 |
| 祖父 | 1 | 0.1 |
| 祖母 | 2 | 0.2 |
| 配偶者の祖父 | 1 | 0.1 |
| 配偶者の祖母 | 1 | 0.1 |
| 孫 | 26 | 2.1 |
| 恋人 | 40 | 3.2 |
| 友人 | 49 | 3.9 |
| その他 | 87 | 6.9 |

### 9-2 婚姻上の地位

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 有配偶 | 904 | 72.2 |
| 独身 | 237 | 18.9 |
| 離別 | 73 | 5.8 |
| 死別 | 9 | 0.7 |
| 無回答 | 29 | 2.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 9-3 配偶者との同別居

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 同居 | 815 | 65.1 |
| 日本国内で別居 | 20 | 1.6 |
| 母国 | 80 | 6.4 |
| 無回答 | 337 | 26.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 9-4 配偶者の民族・エスニシティ

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日系の同国人 | 510 | 40.7 |
| 日本人 | 26 | 2.1 |
| 非日系の同国人 | 349 | 27.9 |
| その他 | 38 | 3.0 |
| 無回答 | 329 | 26.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 9-5 同居・別居と子ども数

#### ① 同居している子ども数

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 0 人 | 1 | 0.1 |
| 1 人 | 403 | 32.2 |
| 2 人 | 261 | 20.8 |
| 3 人 | 68 | 5.4 |
| 4 人 | 13 | 1.0 |
| 5 人 | 6 | 0.5 |
| 7 人 | 1 | 0.1 |
| 無回答 | 499 | 39.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

#### ② 別居している子ども数（日本に居住）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 0 人 | 10 | 0.8 |
| 1 人 | 44 | 3.5 |
| 2 人 | 22 | 1.8 |
| 3 人 | 4 | 0.3 |
| 4 人 | 3 | 0.2 |
| 6 人 | 1 | 0.1 |
| 無回答 | 1168 | 93.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

#### ③ 別居している子ども数（母国に居住）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 0 人 | 9 | 0.7 |
| 1 人 | 104 | 8.3 |
| 2 人 | 56 | 4.5 |
| 3 人 | 23 | 1.8 |
| 4 人 | 4 | 0.3 |
| 5 人 | 2 | 0.2 |
| 6 人 | 2 | 0.2 |
| 無回答 | 1050 | 83.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 10 初来日年

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1980 以前 | 3 | 0.3 |
| 1981-1985 | 2 | 0.2 |
| 1986-1990 | 158 | 12.6 |
| 1991-1995 | 419 | 33.5 |
| 1996-2000 | 282 | 22.5 |
| 2001-2005 | 225 | 18.0 |
| 2006 以降 | 44 | 3.5 |
| 無回答 | 118 | 9.4 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 11 日本での通算滞在年数

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 11 ヶ月未満 | 79 | 6.3 |
| 1-2 年 | 147 | 11.7 |
| 3-5 年 | 189 | 15.1 |
| 6-8 年 | 206 | 16.5 |
| 9-11 年 | 207 | 16.6 |
| 12-14 年 | 162 | 12.9 |
| 15 年以上 | 145 | 11.6 |
| 日本で出生 | 4 | 0.3 |
| 無回答 | 113 | 9.0 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 12 浜松での通算滞在年数

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 11 ヶ月未満 | 164 | 13.1 |
| 1-2 年 | 270 | 21.6 |
| 3-5 年 | 246 | 19.6 |
| 6-8 年 | 183 | 14.6 |
| 9-11 年 | 160 | 12.8 |
| 12-14 年 | 81 | 6.5 |
| 15 年以上 | 48 | 3.8 |
| 日本で出生 | 2 | 0.2 |
| 無回答 | 98 | 7.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 13 来日回数

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1 回 | 518 | 41.4 |
| 2 回 | 346 | 27.6 |
| 3 回 | 180 | 14.4 |
| 4 回 | 86 | 6.9 |
| 5 回以上 | 42 | 3.4 |
| 日本で出生 | 4 | 0.3 |
| 無回答 | 76 | 6.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

14 日本での学歴

① 本人

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本学歴なし | 831 | 66.4 |
| 小卒 | 21 | 1.7 |
| 中卒 | 47 | 3.8 |
| 高卒 | 60 | 4.8 |
| 外国人学校卒 | 40 | 3.2 |
| 専門・短大卒 | 12 | 1.0 |
| 大卒以上 | 16 | 1.3 |
| その他 | 21 | 1.7 |
| 無回答 | 204 | 16.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

② 配偶者

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本学歴なし | 579 | 46.2 |
| 小卒 | 10 | 0.8 |
| 中卒 | 27 | 2.2 |
| 高卒 | 44 | 3.5 |
| 外国人学校卒 | 26 | 2.1 |
| 専門・短大卒 | 12 | 1.0 |
| 大卒以上 | 7 | 0.6 |
| その他 | 13 | 1.0 |
| 無回答 | 534 | 42.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

15 出身国での学歴

① 本人

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 小卒 | 77 | 6.2 |
| 中卒 | 243 | 19.4 |
| 高卒(普通科) | 369 | 29.5 |
| 高卒(職業科) | 218 | 17.4 |
| 大卒以上 | 182 | 14.5 |
| 母国の学歴なし | 1 | 0.1 |
| その他 | 46 | 3.7 |
| 無回答 | 116 | 9.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

② 配偶者

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 小卒 | 67 | 5.4 |
| 中卒 | 198 | 15.8 |
| 高卒(普通科) | 257 | 20.5 |
| 高卒(職業科) | 148 | 11.8 |
| 大卒以上 | 102 | 8.1 |
| 母国の学歴なし | 8 | 0.6 |
| その他 | 26 | 2.1 |
| 無回答 | 446 | 35.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 【②雇用・労働】

16 来日以前の仕事の決定

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| はい | 784 | 62.6 |
| いいえ | 431 | 34.4 |
| 無回答 | 37 | 3.0 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

17 仕事を見つけた手段

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 業者の紹介 | 613 | 49.0 |
| 家族・親族の紹介 | 144 | 11.5 |
| 母国での友人の紹介 | 40 | 3.2 |
| その他の友人の紹介 | 18 | 1.4 |
| その他 | 32 | 2.6 |
| 無回答 | 405 | 32.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 18 本人と配偶者の従業上の地位

### ① 本人

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 直接雇用(正社員) | 111 | 8.9 |
| 直接雇用(パート・アルバイト) | 38 | 3.0 |
| 派遣・請負 | 956 | 76.4 |
| 自営業主 | 19 | 1.5 |
| 家族従業者 | 6 | 0.5 |
| 失業(求職中) | 22 | 1.8 |
| 無職 | 21 | 1.7 |
| 学生 | 7 | 0.6 |
| その他 | 22 | 1.8 |
| 無回答 | 50 | 4.0 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### ② 配偶者

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 直接雇用(正社員) | 76 | 6.1 |
| 直接雇用(パート・アルバイト) | 27 | 2.2 |
| 派遣・請負 | 600 | 47.9 |
| 自営業主 | 26 | 2.1 |
| 家族従業者 | 1 | 0.1 |
| 失業(求職中) | 18 | 1.4 |
| 無職 | 40 | 3.2 |
| 学生 | 1 | 0.1 |
| その他 | 22 | 1.8 |
| 無回答 | 441 | 0.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 19 本人と配偶者の産業

### ① 本人

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 建設業 | 9 | 0.7 |
| 製造業(自動車) | 701 | 56.0 |
| 製造業(電子機器) | 75 | 6.0 |
| 製造業(食料品) | 15 | 1.2 |
| 製造業(その他) | 184 | 14.7 |
| 運輸・通信 | 5 | 0.4 |
| 卸売・小売・飲食店 | 15 | 1.2 |
| 金融・保険 | 1 | 0.1 |
| サービス | 48 | 3.8 |
| 農林漁業 | 3 | 0.2 |
| その他 | 87 | 6.9 |
| 無回答 | 109 | 8.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### ② 配偶者

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 建設業 | 4 | 0.3 |
| 製造業(自動車) | 429 | 34.3 |
| 製造業(電子機器) | 65 | 5.2 |
| 製造業(食料品) | 11 | 0.9 |
| 製造業(その他) | 119 | 9.5 |
| 運輸・通信 | 10 | 0.8 |
| 卸売・小売・飲食店 | 10 | 0.8 |
| 金融・保険 | 1 | 0.1 |
| サービス | 23 | 1.8 |
| 農林漁業 | 2 | 0.2 |
| その他 | 74 | 5.9 |
| 無回答 | 504 | 40.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 20 本人と配偶者の職種

### ① 本人

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 技能労働 | 517 | 41.3 |
| 販売・サービス | 40 | 3.2 |
| 専門・管理 | 28 | 2.2 |
| 事務 | 19 | 1.5 |
| その他 | 481 | 38.4 |
| 無回答 | 167 | 13.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### ② 配偶者

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 技能労働 | 277 | 22.1 |
| 販売・サービス | 43 | 3.4 |
| 専門・管理 | 8 | 0.6 |
| 事務 | 15 | 1.2 |
| その他 | 354 | 28.3 |
| 無回答 | 555 | 44.4 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 21 本人と配偶者の従業先の規模

### ① 本人

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1 人 | 17 | 1.4 |
| 2-9 人 | 111 | 8.9 |
| 10-29 人 | 224 | 17.9 |
| 30-39 人 | 259 | 20.7 |
| 100-299 人 | 232 | 18.5 |
| 300-999 人 | 176 | 14.1 |
| 1000 人以上 | 69 | 5.5 |
| 官公庁 | 3 | 0.2 |
| 無回答 | 161 | 12.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### ② 配偶者

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1 人 | 14 | 1.1 |
| 2-9 人 | 82 | 6.5 |
| 10-29 人 | 146 | 11.7 |
| 30-39 人 | 170 | 13.6 |
| 100-299 人 | 146 | 11.7 |
| 300-999 人 | 88 | 7.0 |
| 1000 人以上 | 40 | 3.2 |
| 官公庁 | 0 | 0.0 |
| 無回答 | 566 | 45.2 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 22 労働時間

### ① 一日あたり

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1-4 時間 | 22 | 1.8 |
| 5-7 時間 | 28 | 2.2 |
| 8 時間 | 307 | 24.5 |
| 9 時間 | 115 | 9.2 |
| 10 時間 | 338 | 27.0 |
| 11 時間 | 117 | 9.3 |
| 12 時間 | 157 | 12.5 |
| 13 時間以上 | 30 | 2.4 |
| 無回答 | 138 | 11.0 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### ② 週あたり

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1-4 日 | 4 | 0.3 |
| 5 日 | 628 | 50.2 |
| 6 日 | 404 | 32.3 |
| 7 日 | 20 | 1.6 |
| 無回答 | 196 | 15.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 23 現在の職場での勤続期間

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 11 ヶ月未満 | 411 | 32.8 |
| 1 年 | 240 | 19.2 |
| 2 年 | 133 | 10.6 |
| 3 年 | 94 | 7.5 |
| 4 年 | 63 | 5.0 |
| 5-6 年 | 97 | 7.7 |
| 7-9 年 | 63 | 5.0 |
| 10 年以上 | 48 | 3.8 |
| 無回答 | 103 | 8.2 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 24 平均的な月収(税込み)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| なし | 24 | 1.9 |
| 5 万未満 | 7 | 0.6 |
| 5-7 万 | 11 | 0.9 |
| 8-10 万 | 21 | 1.7 |
| 11-13 万 | 81 | 6.5 |
| 14-16 万 | 170 | 13.6 |
| 17-20 万 | 181 | 14.5 |
| 21-25 万 | 228 | 18.2 |
| 26-30 万 | 207 | 16.5 |
| 31-35 万 | 125 | 10.0 |
| 36-40 万 | 69 | 5.5 |
| 40 万以上 | 23 | 1.8 |
| 無回答 | 105 | 8.4 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

25 （事情により集計から除外）

26 母国での主な仕事の従業上の地位

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 経営者・役員 | 74 | 5.9 |
| フルタイム | 377 | 30.1 |
| パート | 47 | 3.8 |
| 自営業主 | 246 | 19.6 |
| 家族従業 | 120 | 9.6 |
| 無職 | 68 | 5.4 |
| 学生 | 155 | 12.4 |
| その他 | 93 | 7.4 |
| 無回答 | 72 | 5.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

27 母国での主な仕事の職種

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 技能労働 | 113 | 9.0 |
| 一般作業 | 12 | 1.0 |
| 販売 | 278 | 22.2 |
| サービス | 75 | 6.0 |
| 専門 | 58 | 4.6 |
| 管理 | 56 | 4.5 |
| 事務 | 142 | 11.3 |
| 農業 | 78 | 6.2 |
| その他 | 179 | 14.3 |
| 無回答 | 261 | 20.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

28 母国での従業先の規模

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 1 人 | 107 | 8.5 |
| 2-9 人 | 366 | 29.2 |
| 10-29 人 | 163 | 13.0 |
| 30-99 人 | 126 | 10.1 |
| 100-299 人 | 83 | 6.6 |
| 300-999 人 | 58 | 4.6 |
| 1000 人以上 | 56 | 4.5 |
| 官公庁 | 19 | 1.5 |
| 無回答 | 274 | 21.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 【③居住】

### 29 現在の住まい

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 社宅や会社契約のアパート | 592 | 47.3 |
| 民間のアパート | 278 | 22.2 |
| 公営住宅 | 253 | 20.2 |
| 持ち家 | 46 | 3.7 |
| その他 | 48 | 3.8 |
| 無回答 | 35 | 2.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 30 保証人の必要性

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 必要だった | 508 | 40.6 |
| 必要ではなかった | 298 | 23.8 |
| その他 | 43 | 3.4 |
| 無回答 | 403 | 32.2 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 31 保証人は誰か

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 仕事関係の日本人 | 234 | 18.7 |
| 仕事関係の同国人 | 29 | 2.3 |
| 知り合いの日本人 | 78 | 6.2 |
| 知り合いの同国人 | 87 | 6.9 |
| 親戚 | 78 | 6.2 |
| その他 | 89 | 7.1 |
| 無回答 | 657 | 52.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 【④医療・保険】

### 32 健康保険への加入状況

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 国民健康保険 | 374 | 29.9 |
| 会社の保険 | 176 | 14.1 |
| 旅行傷害保険 | 75 | 6.0 |
| その他の保険 | 127 | 10.1 |
| わからない | 35 | 2.8 |
| 入っていない | 401 | 32.0 |
| 無回答 | 64 | 5.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 33 健康保険未加入の理由

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本の保険制度がわからない | 129 | 32.1 |
| 事業所が加入させてくれない | 148 | 36.9 |
| 市が加入させてくれない | 144 | 35.9 |
| 年金に加入しないといけないから | 26 | 6.4 |
| 未加入の保険料を払わなければいけないから | 41 | 10.2 |
| 近日帰国予定 | 91 | 22.7 |
| 金銭的負担が大きい | 235 | 58.6 |
| その他 | 49 | 12.2 |

### 34 年金への加入状況

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 国民年金 | 44 | 3.5 |
| 厚生年金 | 89 | 7.1 |
| 民間の年金保険 | 3 | 0.2 |
| 母国の公的年金保険 | 77 | 6.2 |
| 母国の民間の年金保険 | 30 | 2.4 |
| その他の年金保険 | 11 | 0.9 |
| わからない | 77 | 6.2 |
| 入っていない | 810 | 64.7 |
| 無回答 | 111 | 8.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 35 年金未加入の理由
（年金未加入者のみ回答、複数回答可）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本の公的年金制度がわからない | 409 | 50.5 |
| 事業所で加入させてくれない | 178 | 22.0 |
| 一時金が少なすぎる | 75 | 9.3 |
| 資格発生までの加入期間が長すぎる | 77 | 9.5 |
| 近日帰国予定 | 183 | 22.6 |
| 金銭的負担が大きい | 245 | 30.2 |
| その他 | 85 | 10.5 |

### 36 病気やけがの時の処置

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| すぐ医者に行く | 626 | 50.0 |
| 薬を買って飲む | 139 | 11.1 |
| 我慢して様子を見る | 190 | 15.2 |
| 病気の経験がない | 193 | 15.4 |
| わからない | 14 | 1.1 |
| その他 | 9 | 0.7 |
| 無回答 | 81 | 6.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 37 定期健康診断

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 会社の定期健診を受けている | 601 | 48.0 |
| ボランティアによる無料検診を受けている | 51 | 4.1 |
| 個人で定期健診を受けている | 150 | 12.0 |
| 定期健診は受けていない | 381 | 30.4 |
| 無回答 | 69 | 5.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 38 病院での言葉の問題に対する対応方法（複数回答可）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 医師の日本語が理解できる | 386 | 30.8 |
| 日本語のできる家族・友人を連れて行く | 213 | 17.0 |
| 通訳を雇って連れて行く | 183 | 14.6 |
| 通訳のいる病院に行く | 387 | 30.9 |
| その他 | 107 | 8.5 |

## 【⑤ストレス】

### 39 ここ1ヶ月の日常生活におけるストレス

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| おおいにあった | 270 | 21.6 |
| 多少あった | 580 | 46.3 |
| あまりなかった | 159 | 12.7 |
| まったくなかった | 206 | 16.5 |
| 無回答 | 37 | 3.0 |
| | 1252 | 100.0 |

### 40 ストレスの内容（複数回答可）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 仕事上のこと | 427 | 34.1 |
| 職場の日本人との人間関係のこと | 129 | 14.1 |
| 職場の同国人との人間関係のこと | 140 | 16.5 |
| 近所の日本人とのつきあいのこと | 36 | 4.2 |
| 近所の同国人とのつきあいのこと | 35 | 4.1 |
| 親戚づきあいのこと | 69 | 8.1 |
| 夫婦や親子関係のこと | 141 | 16.6 |
| 収入・家計のこと | 489 | 57.5 |
| 自分の健康・病気のこと | 132 | 15.5 |
| 家族の健康・病気のこと | 126 | 14.8 |
| 自由にできる時間がないこと | 189 | 22.2 |
| 子どもの教育のこと | 243 | 28.6 |
| 母国にいる家族のこと | 259 | 30.5 |
| その他 | 50 | 5.9 |

41 心理的抑うつ度（複数回答可）

| | | まったくなかった | 週に1～2回 | 週に3～4回 | ほとんど毎日 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (a) | ふだんは何でもないことをわずらわしいと感じたこと | 425<br>(33.9) | 363<br>(29.0) | 60<br>(4.8) | 106<br>(8.5) | 298<br>(23.8) |
| (b) | 家族や友達から励ましてもらっても気分が晴れないこと | 670<br>(53.5) | 103<br>(8.2) | 34<br>(2.7) | 41<br>(3.3) | 404<br>(32.3) |
| (c) | 憂うつだと感じたこと | 597<br>(47.7) | 178<br>(14.2) | 38<br>(3.0) | 63<br>(5.0) | 376<br>(30.1) |
| (d) | 物事に集中できなかったこと | 654<br>(52.2) | 135<br>(10.8) | 32<br>(2.6) | 30<br>(2.4) | 401<br>(32.0) |
| (e) | 食欲が落ちたこと | 649<br>(51.8) | 137<br>(10.9) | 38<br>(3.0) | 35<br>(2.8) | 393<br>(31.4) |
| (f) | 何をするのも面倒と感じたこと | 569<br>(45.4) | 202<br>(16.1) | 44<br>(3.5) | 55<br>(4.4) | 382<br>(30.6) |
| (g) | 何か恐ろしい気持がしたこと | 618<br>(49.4) | 169<br>(13.5) | 23<br>(1.8) | 34<br>(2.7) | 408<br>(32.6) |
| (h) | なかなか眠れなかったこと | 497<br>(39.7) | 247<br>(19.7) | 78<br>(6.2) | 87<br>(6.9) | 343<br>(27.4) |
| (i) | ふだんより口数が少なくなったこと | 560<br>(44.7) | 188<br>(15.0) | 47<br>(3.8) | 54<br>(4.3) | 403<br>(32.2) |
| (j) | 一人ぼっちで寂しいと感じたこと | 574<br>(45.8) | 161<br>(12.9) | 45<br>(3.6) | 72<br>(5.8) | 400<br>(31.9) |
| (k) | 「毎日が楽しい」と感じたこと | 235<br>(18.8) | 174<br>(13.9) | 146<br>(11.7) | 314<br>(25.1) | 383<br>(30.7) |
| (l) | 悲しいと感じたこと | 486<br>(38.8) | 282<br>(22.5) | 63<br>(5.0) | 80<br>(6.4) | 341<br>(27.2) |

## 【⑥社会的ネットワーク】

### 42 パーソナル・ネットワーク

あなたが重要なことを話したり、悩みを相談する人たちを 3 人思い浮かべてください(同居している人は除く)。その3人の方をかりにAさん、Bさん、Cさんとします。Aさん、Bさん、Cさんのプロフィール、お付き合いについておたずねします。あてはまる番号に○をつけてください。

| | A さんについて<br>↓ | B さんについて<br>↓ | C さんについて<br>↓ |
|---|---|---|---|
| 性別 | (1) 女性<br>(2) 男性 | (1) 女性<br>(2) 男性 | (1) 女性<br>(2) 男性 |
| 年齢 | 歳 | 歳 | 歳 |
| その人は、次のうちどれにあてはまりますか<br>(○は 1 つ) | (1)同国人<br>(2)その他の中南米出身者<br>(3)日本人<br>(4)中南米以外の外国人 | (1) 同国人<br>(2)その他の中南米出身者<br>(3)日本人<br>(4)中南米以外の外国人 | (1) 同国人<br>(2)その他の中南米出身者<br>(3)日本人<br>(4)中南米以外の外国人 |
| いつからの知り合いですか<br>(○は 1 つ) | (1)母国にいたときから(日本に来る前から)<br>(2)日本に来てから<br>(3)その他 | (1)母国にいたときから(日本に来る前から)<br>(2)日本に来てから<br>(3)その他 | (1)母国にいたときから(日本に来る前から)<br>(2)日本に来てから<br>(3)その他 |
| どのようにして知り合いましたか<br>(○は 1 つ) | (1)学校が同じ<br>(2)職場が同じ<br>(3)趣味を通して<br>(4)近所だった<br>(5)子どもを通じて<br>(6)同国人の集まり<br>(7)家族・親戚である | (1)学校が同じ<br>(2)職場が同じ<br>(3)趣味を通して<br>(4)近所だった<br>(5)子どもを通じて<br>(6)同国人の集まり<br>(7)家族・親戚である | (1)学校が同じ<br>(2)職場が同じ<br>(3)趣味を通して<br>(4)近所だった<br>(5)子どもを通じて<br>(6)同国人の集まり<br>(7)家族・親戚である |

**A さんについて**

| A の性別 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性 | 572 | 45.7 |
| 男性 | 418 | 33.4 |
| 無回答 | 262 | 20.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

**B さんについて**

| B の性別 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性 | 434 | 34.7 |
| 男性 | 443 | 35.4 |
| 無回答 | 375 | 29.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

**C さんについて**

| C の性別 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女性 | 426 | 34.0 |
| 男性 | 394 | 31.5 |
| 無回答 | 432 | 34.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| A の年齢 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 10-19 歳 | 23 | 1.8 |
| 20-29 歳 | 177 | 14.1 |
| 30-39 歳 | 278 | 22.2 |
| 40-49 歳 | 192 | 15.3 |
| 50-59 歳 | 82 | 6.5 |
| 60 歳以上 | 35 | 2.8 |
| 無回答 | 465 | 37.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| B の年齢 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 10-19 歳 | 22 | 1.8 |
| 20-29 歳 | 166 | 13.3 |
| 30-39 歳 | 234 | 18.7 |
| 40-49 歳 | 162 | 12.9 |
| 50-59 歳 | 69 | 5.5 |
| 60 歳以上 | 43 | 3.4 |
| 無回答 | 556 | 44.4 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| C の年齢 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 10-19 歳 | 22 | 1.8 |
| 20-29 歳 | 173 | 13.8 |
| 30-39 歳 | 206 | 16.5 |
| 40-49 歳 | 144 | 11.5 |
| 50-59 歳 | 58 | 4.6 |
| 60 歳以上 | 34 | 2.7 |
| 無回答 | 615 | 49.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Aのエスニシティ | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 同国人 | 901 | 72.0 |
| その他の中南米出身者 | 26 | 2.1 |
| 日本人 | 49 | 3.9 |
| 中南米以外の外国人 | 9 | 0.7 |
| 無回答 | 267 | 21.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Bのエスニシティ | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 同国人 | 778 | 62.1 |
| その他の中南米出身者 | 31 | 2.5 |
| 日本人 | 53 | 4.2 |
| 中南米以外の外国人 | 5 | 0.4 |
| 無回答 | 385 | 30.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Cのエスニシティ | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 同国人 | 739 | 59.0 |
| その他の中南米出身者 | 24 | 1.9 |
| 日本人 | 47 | 3.8 |
| 中南米以外の外国人 | 11 | 0.9 |
| 無回答 | 431 | 34.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Aと知り合った場所 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 母国にいたときから | 254 | 20.3 |
| 日本に来てから | 612 | 48.9 |
| その他 | 105 | 8.4 |
| 無回答 | 281 | 22.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Bと知り合った場所 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 母国にいたときから | 183 | 14.6 |
| 日本に来てから | 593 | 47.4 |
| その他 | 93 | 7.4 |
| 無回答 | 383 | 30.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Cと知り合った場所 | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 母国にいたときから | 205 | 16.4 |
| 日本に来てから | 537 | 42.9 |
| その他 | 85 | 6.8 |
| 無回答 | 425 | 33.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Aと知り合ったきっかけ | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学校が同じ | 23 | 1.8 |
| 職場が同じ | 422 | 33.7 |
| 趣味を通して | 71 | 5.7 |
| 近所だった | 67 | 5.4 |
| 子どもを通して | 19 | 1.5 |
| 同国人の集まり | 66 | 5.3 |
| 家族・親戚である | 301 | 24.0 |
| 無回答 | 283 | 22.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Bと知り合ったきっかけ | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学校が同じ | 21 | 1.7 |
| 職場が同じ | 408 | 32.6 |
| 趣味を通して | 43 | 3.4 |
| 近所だった | 61 | 4.9 |
| 子どもを通して | 19 | 1.5 |
| 同国人の集まり | 59 | 4.7 |
| 家族・親戚である | 250 | 20.0 |
| 無回答 | 391 | 31.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| Cと知り合ったきっかけ | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学校が同じ | 23 | 1.8 |
| 職場が同じ | 344 | 27.5 |
| 趣味を通して | 59 | 4.7 |
| 近所だった | 55 | 4.4 |
| 子どもを通して | 16 | 1.3 |
| 同国人の集まり | 62 | 5.0 |
| 家族・親戚である | 261 | 20.8 |
| 無回答 | 432 | 34.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

**43 相談相手それぞれの関係**

| AとB | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 知り合いである | 738 | 58.9 |
| 知り合いではないと思う | 190 | 15.2 |
| 無回答 | 324 | 25.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| BとC | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 知り合いである | 614 | 49.0 |
| 知り合いではないと思う | 221 | 17.7 |
| 無回答 | 417 | 33.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

| CとA | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 知り合いである | 587 | 46.9 |
| 知り合いではないと思う | 233 | 18.6 |
| 無回答 | 432 | 34.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 44 地域の団体・活動への参加状況（複数回答可）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 地域の行事(お祭りやスポーツなど) | 347 | 27.7 |
| 町内会・自治会 | 93 | 7.4 |
| 学校のPTA・父母会・保護者会 | 266 | 21.2 |
| 日本語教室 | 142 | 11.3 |
| 同国人同士で開催する行事 | 477 | 38.1 |
| 在日外国人を支援するボランティア団体 | 52 | 4.2 |
| キリスト教会などの宗教施設 | 329 | 26.3 |

### 45 利用するメディア・情報源（複数回答可）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 母国語ラジオ・テレビ | 657 | 52.5 |
| 母国語の雑誌 | 679 | 54.2 |
| 日本の新聞 | 108 | 8.6 |
| 母国の店などでの情報 | 477 | 38.1 |
| 日本のラジオ・テレビ | 506 | 40.4 |
| 日本にいる友人・親戚からの情報 | 500 | 39.9 |
| 母国の友人・知人などからの情報 | 403 | 32.2 |
| インターネット | 862 | 68.8 |
| 会社からの情報 | 215 | 17.2 |
| HICE News | 179 | 14.3 |
| 市役所のポルトガル語版広報 | 422 | 33.7 |
| 浜松市役所のホームページ | 65 | 5.2 |
| その他 | 30 | 2.4 |

### 46 生活領域ごとの満足度

| | 満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満 | 該当しない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 育児・子育て | 422<br>(33.7) | 304<br>(24.3) | 42<br>(3.4) | 61<br>(4.9) | 122<br>(9.7) | 301<br>(24.1) |
| 現在の仕事の内容 | 532<br>(42.5) | 423<br>(33.8) | 76<br>(6.1) | 56<br>(4.5) | 16<br>(1.3) | 149<br>(11.9) |
| 現在の給料 | 291<br>(23.2) | 460<br>(36.7) | 143<br>(11.4) | 179<br>(14.3) | 20<br>(1.6) | 159<br>(12.7) |
| 余暇の過ごし方 | 454<br>(36.3) | 373<br>(29.8) | 108<br>(8.6) | 148<br>(11.8) | | 169<br>(13.5) |
| 日本人との関係 | 488<br>(39.0) | 438<br>(35.0) | 90<br>(7.2) | 96<br>(7.7) | | 140<br>(11.2) |
| 同国人との関係 | 476<br>(38.0) | 446<br>(35.6) | 129<br>(10.3) | 76<br>(6.1) | | 125<br>(10.0) |
| 日本での生活全般 | 604<br>(48.2) | 426<br>(34.0) | 63<br>(5.0) | 61<br>(4.9) | | 98<br>(7.8) |

47 防災対策(複数回答可)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 指定避難場所の認知 | 412 | 32.9 |
| 家族や知人との連絡方法の決定 | 154 | 12.3 |
| 防災訓練への参加経験 | 185 | 14.8 |
| 食料品・懐中電灯など用意 | 180 | 14.4 |
| その他 | 35 | 2.8 |
| 特に何もしていない | 800 | 63.9 |

【⑧アイデンティティ】

48 ブラジル雑貨店の利用頻度

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 週に1回 | 726 | 58.0 |
| 週に2-3回 | 184 | 14.7 |
| 月に1回 | 188 | 15.0 |
| 2-3ヶ月に1回 | 34 | 2.7 |
| ほとんどいかない | 64 | 5.1 |
| 全く行かない | 8 | 0.6 |
| その他 | 6 | 0.5 |
| 無回答 | 42 | 3.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

49 子どもの結婚相手についての希望

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日系の同国人 | 150 | 12.0 |
| 日本人 | 20 | 1.6 |
| 非日系の同国人 | 20 | 1.6 |
| その他の外国人 | 10 | 0.8 |
| 相手の国籍・出自にこだわらない | 847 | 67.7 |
| 分からない | 106 | 8.5 |
| 無回答 | 99 | 7.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

50 自分の結婚相手についての希望

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日系の同国人 | 76 | 6.1 |
| 日本人 | 15 | 1.2 |
| 非日系の同国人 | 17 | 1.4 |
| その他の外国人 | 7 | 0.6 |
| 相手の国籍・出自にこだわらない | 238 | 19.0 |
| 分からない | 42 | 3.4 |
| 無回答 | 857 | 68.4 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

51 差別や偏見

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| とてもよくある | 73 | 5.8 |
| よくある | 168 | 13.4 |
| 少しはある | 528 | 42.2 |
| ほとんどない | 274 | 21.9 |
| 全くない | 149 | 11.9 |
| 無回答 | 60 | 4.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 【⑨日本語学習】

### 52 来日時の日本語会話能力

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| まったくできない | 648 | 51.8 |
| あまりできない | 255 | 20.4 |
| まあまあできる | 220 | 17.6 |
| わりとできる | 51 | 4.1 |
| ほぼ完全にできる | 18 | 1.4 |
| 無回答 | 60 | 4.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 53 現在の日本語能力

| | まったくできない | あまりできない | まあまあできる | わりとできる | ほぼ完全にできる | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本語で会話する | 94<br>(7.5) | 194<br>(15.5) | 553<br>(44.2) | 310<br>(24.8) | 52<br>(4.2) | 49<br>(3.9) |
| ひらがな・カタカナを読める | 297<br>(23.7) | 135<br>(10.8) | 252<br>(20.1) | 234<br>(18.7) | 248<br>(19.8) | 86<br>(6.9) |
| 漢字を読める | 581<br>(46.4) | 290<br>(23.2) | 186<br>(14.9) | 31<br>(2.5) | 13<br>(1.0) | 151<br>(12.1) |
| 日本語を書く | 469<br>(37.5) | 251<br>(20.0) | 307<br>(24.5) | 66<br>(5.3) | 26<br>(2.1) | 133<br>(10.7) |

### 54 日本語の学習経験

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 来日前に勉強 | 194 | 15.5 |
| HICE の日本語教室 | 47 | 3.8 |
| ボランティア・NPO の日本語教室 | 88 | 7.0 |
| 民間日本語学校 | 111 | 8.9 |
| 勤務先 | 43 | 3.4 |
| 独学 | 394 | 31.5 |
| その他 | 73 | 5.8 |
| 日本語の勉強経験なし | 451 | 36.0 |

### 55 現在の日本語学習

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| はい | 191 | 15.3 |
| いいえ | 1004 | 80.2 |
| 無回答 | 57 | 4.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

56 日本語学習の理由(複数回答可)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 現在の仕事で必要 | 139 | 11.1 |
| 条件のいい仕事を見つけるため | 110 | 8.8 |
| 日本人とのつきあいの拡大 | 104 | 8.3 |
| 日本での生活に必要 | 246 | 19.6 |
| 日本での永住に必要 | 126 | 10.1 |

57 日本語学習の希望

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 学習したい | 414 | 33.1 |
| 機会があれば学習したい | 454 | 36.3 |
| 学習したくない | 69 | 5.5 |
| わからない | 155 | 12.4 |
| 無回答 | 160 | 12.8 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

58 日本語学習場所の希望(複数回答可)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| HICE | 144 | 11.5 |
| 近くの公民館 | 220 | 17.6 |
| 近くの公立学校 | 163 | 13.0 |
| ボランティアの個別指導 | 228 | 18.2 |
| 民間日本語学校 | 216 | 17.3 |
| 勤務先 | 81 | 6.5 |
| 自分の家 | 388 | 31.0 |
| その他 | 89 | 7.1 |

59 日本語学習日時の希望(複数回答可、ただし○は3つまで)

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 平日午前 | 59 | 4.7 |
| 平日午後 | 29 | 2.3 |
| 平日夜間 | 257 | 20.5 |
| 土曜日午前 | 158 | 12.6 |
| 土曜日午後 | 176 | 14.1 |
| 土曜日夜間 | 204 | 16.3 |
| 日曜日午前 | 383 | 30.6 |
| 日曜日午後 | 218 | 17.4 |
| 日曜日夜間 | 88 | 7.0 |
| その他 | 54 | 4.3 |

## 【⑩行政サービスの利用】

60 行政サービスの認知と利用（それぞれの項目に1つずつ回答）

| | 利用したことがある | 知っているが利用したことなし | 知らない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 広報はままつ（日本語版） | 87<br>(6.9) | 235<br>(18.8) | 451<br>(36.0) | 479<br>(38.3) |
| 広報はままつ（ポルトガル語版） | 342<br>(27.3) | 217<br>(17.3) | 343<br>(27.4) | 350<br>(28.0) |
| 浜松市役所のホームページ（ポルトガル語版） | 143<br>(11.4) | 195<br>(15.6) | 454<br>(36.3) | 460<br>(36.7) |
| HICE での生活相談 | 74<br>(5.9) | 256<br>(20.4) | 460<br>(36.7) | 462<br>(36.9) |
| HICE での法律相談 | 44<br>(3.5) | 266<br>(21.2) | 456<br>(36.4) | 486<br>(38.9) |
| HICE での日本語教室 | 68<br>(5.4) | 287<br>(22.9) | 412<br>(32.9) | 485<br>(38.7) |
| ポルトガル語生活ガイドブック | 294<br>(23.5) | 198<br>(15.8) | 363<br>(29.0) | 397<br>(31.7) |
| 母国語版ごみ収集カレンダー | 942<br>(75.2) | 39<br>(3.1) | 74<br>(5.9) | 197<br>(15.8) |
| 母子手帳の配布 | 428<br>(34.2) | 122<br>(9.7) | 331<br>(26.4) | 371<br>(29.6) |
| 保健所での健康相談 | 213<br>(17.0) | 230<br>(18.4) | 392<br>(31.3) | 417<br>(33.2) |
| 児童手当の支給 | 412<br>(32.9) | 120<br>(9.6) | 326<br>(26.0) | 394<br>(31.0) |
| ことばの教室 | 42<br>(3.4) | 170<br>(13.6) | 554<br>(44.2) | 486<br>(38.7) |
| カナリーニョ教室 | 89<br>(7.1) | 224<br>(17.9) | 482<br>(38.5) | 457<br>(36.4) |

## 61 子どもの属性

### 61-1 子ども:性別

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女 | 393 | 31.4 |
| 男 | 382 | 30.5 |
| 無回答 | 477 | 38.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 女 | 236 | 18.8 |
| 男 | 249 | 19.9 |
| 無回答 | 767 | 61.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 61-2 子ども:年齢

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 0-5 歳 | 90 | 7.2 |
| 6-10 歳 | 274 | 21.9 |
| 11-15 歳 | 205 | 16.4 |
| 16-20 歳 | 122 | 9.7 |
| 21-25 歳 | 48 | 3.8 |
| 26 歳以上 | 30 | 2.4 |
| 無回答 | 483 | 38.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 0-5 歳 | 126 | 10.1 |
| 6-10 歳 | 166 | 13.3 |
| 11-15 歳 | 85 | 6.8 |
| 16-20 歳 | 58 | 4.6 |
| 21-25 歳 | 31 | 2.5 |
| 26 歳以上 | 14 | 1.1 |
| 無回答 | 772 | 61.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 61-3 子ども:同別居の有無

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 同居 | 602 | 48.1 |
| 日本国内で別居 | 50 | 4.0 |
| 母国で別居 | 122 | 9.7 |
| 無回答 | 478 | 38.2 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 同居 | 366 | 29.2 |
| 日本国内で別居 | 31 | 2.5 |
| 母国で別居 | 87 | 6.9 |
| 無回答 | 768 | 61.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 61-4 子ども:生まれた場所

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本 | 209 | 16.7 |
| 母国 | 503 | 40.2 |
| その他 | 46 | 3.7 |
| 無回答 | 494 | 39.5 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本 | 168 | 13.4 |
| 母国 | 273 | 21.8 |
| その他 | 22 | 1.8 |
| 無回答 | 789 | 63.0 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

61-5 子ども:初入国年齢

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本で出生 | 151 | 12.1 |
| 0-5 歳 | 220 | 17.6 |
| 6-10 歳 | 126 | 10.0 |
| 11-15 歳 | 66 | 5.3 |
| 16-20 歳 | 47 | 3.8 |
| 21 歳以上 | 9 | 0.7 |
| 無回答 | 633 | 50.6 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本で出生 | 128 | 10.2 |
| 0-5 歳 | 112 | 8.9 |
| 6-10 歳 | 58 | 4.6 |
| 11-15 歳 | 38 | 3.0 |
| 16-20 歳 | 30 | 2.4 |
| 21 歳以上 | 5 | 0.4 |
| 無回答 | 881 | 70.4 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

62 子ども:就学状況

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 未就学 | 58 | 4.6 |
| 就学中 | 597 | 47.7 |
| 卒業 | 88 | 7.0 |
| 不就学 | 15 | 1.2 |
| 不登校 | 5 | 0.4 |
| 無回答 | 489 | 39.1 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 未就学 | 73 | 5.8 |
| 就学中 | 325 | 26 |
| 卒業 | 42 | 3.4 |
| 不就学 | 20 | 1.6 |
| 不登校 | 3 | 0.2 |
| 無回答 | 789 | 63 |
| 合計 | 1252 | 100 |

63 子ども:就学先(卒業先)

第1子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本の小学校 | 142 | 11.3 |
| 日本の中学校 | 40 | 3.2 |
| 日本の高校 | 22 | 1.8 |
| 日本の短大・大学等 | 5 | 0.4 |
| 外国人学校(小学校) | 184 | 14.7 |
| 外国人学校(中学校) | 99 | 7.9 |
| 外国人学校(高校) | 52 | 4.2 |
| 日本の幼稚園 | 7 | 0.6 |
| 日本の保育園 | 15 | 1.2 |
| ブラジル人託児所等 | 27 | 2.2 |
| ペルー人託児所等 | 5 | 0.4 |
| 母国の学校 | 86 | 6.9 |
| その他 | 33 | 2.6 |
| 無回答 | 535 | 42.7 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

第2子

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 日本の小学校 | 84 | 6.7 |
| 日本の中学校 | 15 | 1.2 |
| 日本の高校 | 4 | 0.3 |
| 日本の短大・大学等 | 4 | 0.3 |
| 外国人学校(小学校) | 101 | 8.1 |
| 外国人学校(中学校) | 43 | 3.4 |
| 外国人学校(高校) | 23 | 1.8 |
| 日本の幼稚園 | 13 | 1.0 |
| 日本の保育園 | 22 | 1.8 |
| ブラジル人託児所等 | 24 | 1.9 |
| ペルー人託児所等 | 3 | 0.2 |
| 母国の学校 | 52 | 4.2 |
| その他 | 26 | 2.1 |
| 無回答 | 838 | 66.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

## 【⑫母国との関係】

### 64 母国への送金

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 定期的にしている | 493 | 39.4 |
| ときどきしている | 431 | 34.4 |
| していない | 254 | 20.3 |
| 無回答 | 74 | 5.9 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 65 1ヶ月の平均送金額

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 20000 円未満 | 265 | 21.2 |
| 20000～39999 円 | 189 | 15.1 |
| 40000～59999 円 | 140 | 11.2 |
| 60000～79999 円 | 43 | 3.4 |
| 80000～99999 円 | 26 | 2.1 |
| 100000～119999 円 | 71 | 5.7 |
| 120000～139999 円 | 14 | 1.1 |
| 140000～159999 円 | 20 | 1.6 |
| 160000～179999 円 | 1 | 0.1 |
| 180000～199999 円 | 6 | 0.4 |
| 200000 円以上 | 23 | 1.8 |
| 無回答 | 454 | 36.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

### 66 今後の日本での滞在予定

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| 永住予定 | 74 | 5.9 |
| 3 年以内に帰国予定 | 269 | 21.5 |
| 10 年以内に帰国予定 | 112 | 8.9 |
| いずれは帰国予定 | 491 | 39.2 |
| 母国と日本以外の国に行く予定 | 35 | 2.8 |
| わからない | 205 | 16.4 |
| 無回答 | 66 | 5.3 |
| 合計 | 1252 | 100.0 |

浜松市における南米系外国人の生活・就労実態調査

編集・発行　浜松市企画部国際課
〒430-0862　浜松市元城町 103-2
TEL　053-457-2359　FAX 053-457-2362
E-mail kokusai@city.hamamatsu.shizuoka.jp

２００７年３月発行